

陽光の回廊 (養老山地・三方山から笠原村方面)

森澤 元博



紅葉を撮る、登る!

快適山行をバックアップ。

紅葉最盛から冬に装いを始めるこれからの季節、
寒暖の差が大きくなり、上と下での差が激しく
だんだんと寂しさが増してきます。
そのような季節、
OD BOXは快適な山行を応援します!

紅葉を登る

ジャケット+アンダーウェア

ノースフェイス/NP-2956
エンデュランスジャケット
¥12,000
NL-0258
マイクロマテークセレクト
ブルオーバー
¥7,800

オールドファッションを感じさせるストレッチ性、
着た瞬間に感じるアンダーウェア
コンパクトで収納も楽な構造で、
着た瞬間に感じるアンダーウェア
汗と臭いを効果的にコントロールすることが出来ます。



ザック

カリマー/リッジ30
¥17,500

容量20L、防水内袋に重量の重さを軽減
軽量のファスナーと全身の両側に
アクセスしやすい、手の届かない
ほど便利な容量の大きいザックが揃っています。

靴

シリオ/PF220
¥26,000

サイズ: 23.0-25.0cm
カラー: ブルー/ブラック、オレンジ
4.5フィッティング設計、異素材のストリートを
調節から足を保護するフットパッドを内蔵して
常に足下での負担を軽減します。
ソールは従来の履き心地の悪いシリコンソールを改良しました。



Wストック

レキ/スーパーマカルターポ
アンチショック
ベア ¥18,500

サイズ: 160-180cm
1.5フィッティング設計、異素材のストリートを
調節から足を保護するフットパッドを内蔵して
常に足下での負担を軽減します。



紅葉を撮る

ジャケット+アンダーウェア

モンベル/クリマプラス100
ウィズジャケット
¥11,000
シャミースジャケット
¥7,500

軽量化とストレッチ性を両立させた
防水防風性能の高いジャケット
軽量コンパクトで収納も楽な構造で、
着た瞬間に感じるアンダーウェア
汗と臭いを効果的にコントロールすることが出来ます。



ザック

ダックス/ビュクス
¥16,500

容量20L、防水内袋に重量の重さを軽減
軽量のファスナーと全身の両側に
アクセスしやすい、手の届かない
ほど便利な容量の大きいザックが揃っています。

靴

サロモン/エクジット ミッド クリマドライ
¥14,800

サイズ: 25.0-28.0cm (実質サイズ別売)
快適な履き心地を実現したクリマドライテクノロジー
が足からの蒸れを軽減します。
軽量化とストレッチ性を両立させた構造で、
着た瞬間に感じるアンダーウェア
汗と臭いを効果的にコントロールすることが出来ます。



Wストック

レキ/マカルアンチショック
フォトシステム
ベア ¥19,000

サイズ: 160-180cm
1.5フィッティング設計、異素材のストリートを
調節から足を保護するフットパッドを内蔵して
常に足下での負担を軽減します。



新ハイキング会員の方に特別割引
新ハイキング会員の方には特別割引いたします。
新ハイキング会員証を代金お支払いの時、
ご提示下さい。

「通信販売」でもお買得品をゲット!
ご来店出来ないお客様にも便利な通信販売も、お電話で、FAXで、E-MAILで、
お気軽にお問い合せください。
メールアドレス: odbox@cb.mbn.or.jp
ホームページアドレス: <http://plaza27.mbn.or.jp/~odbox>

大阪店
ビッグスアップ前
地下鉄の森屋駅より徒歩5分

0312-9956
0312-9957

遊衣 登食 登住 潜住

OD BOX



東大寺大仏殿 (奈良市)

楓 銀杏 山櫻 などの葉が
紅 黄 茶 と染め分けられ
鮮やかな錦を織りなす頃
少し肌寒くなった風に吹かれて
屏風が浦の岩壁に線彫りされた
弥勒菩薩と対面する
宇陀川のせせらぎに包まれた
後鳥羽上空発願と伝える
気高く柔和な菩薩は
やや右下に顔を向けうつむき加減
秋の夕暮れを惜しんでいるよう
よく暗れた気持ちのいい午後に
ぜひ一緒に出かけましょう
暮れゆく季節に
似合う色の服を着て

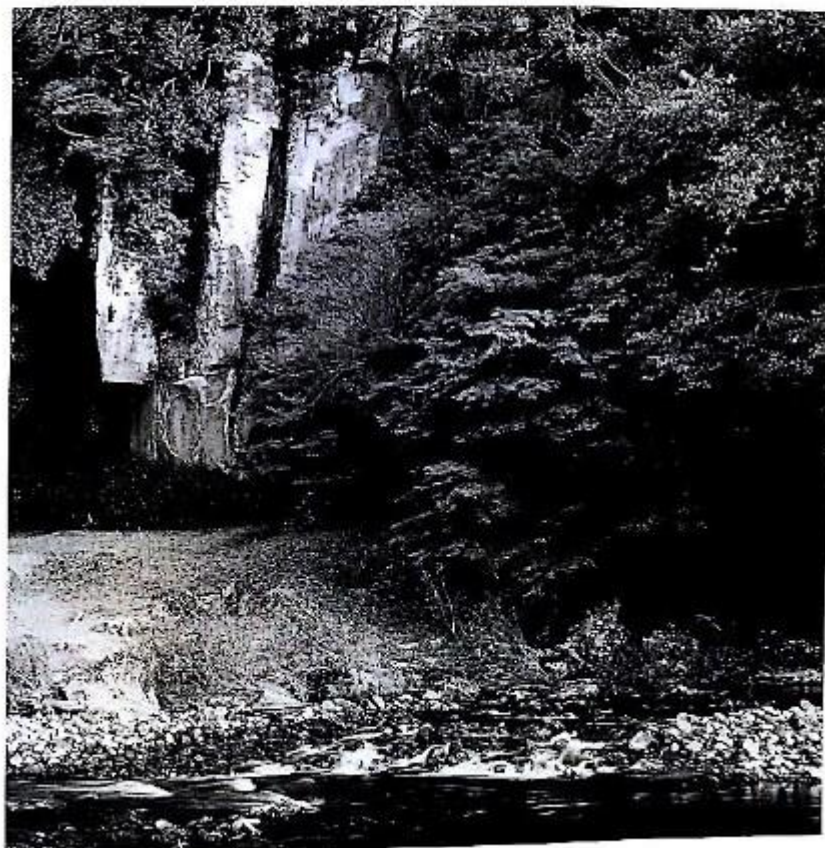


流れ雲

Photo essay

秋深き

題字 中田 蘭石
撮影 由井 収
文 松 永 恵一



大野寺弥勒菩薩 (富生)

季節の



カラスウリ



紅葉化粧



朝日の山道

実景

撮影 武市通治

晩秋



散紅葉 (正暦寺)



朝もや



晩秋の七人山にて（鈴鹿）

小林 実



霧氷林（美ヶ原高原）

中川 光郎



晩秋の霊仙山柏原遺（鈴鹿）

榊原 計国

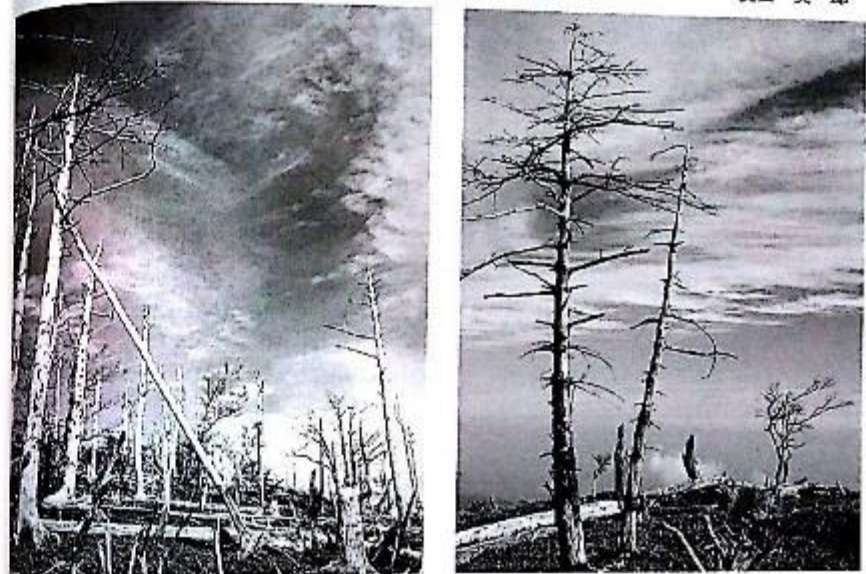


湖沢から紅葉と雪の奥穂高岳（北アルプス）

三浦 弘幸

森は死んだ？ 一大台ヶ原正木峠付近

奥田 英一郎



③

タラビヤ

秋深き…… 撮影 由井 収 文 松永 恵一
 (口絵) 森澤元博 中川光郎 「寂寂」仙…… 武市 通治 4
 類題(山のニッセイ)
 峠野望秀歌ハイカー…… 平 一郎
 峠野望あれこれ…… 杉本 逸雄 11
 四国遍路について…… 杉本 高 13
 京都吾人の先覚者…… 坂井 久光 10

紀行

湯ヶ峰と白平山(巻頭)
 霞沢岳(北アルプス)…… 奥田英一郎 16
 竹ノ尾池と二上山(巻頭)
 御池橋南方の滝根(巻頭)
 京六橋・三俣運路(北アルプス)…… 木村 太郎 24
 三上山と番屋(巻頭)
 運路 比良を歩く② 平から折立山・蓬萊山…… 松田 敏男 28
 運路 三ヶ点を訪ねて① 丹後半島最北の嶺見山…… 多摩 隆雄 36
 運路 三ヶ点を訪ねて② 丹後半島最北の嶺見山…… 康夫 純 42

目次

表紙: 松田敏男「由良川源流の秋」(京都北山)
 ●下巻プロフィール ●1946年、京都生まれ。京都市立芸術大学卒。1967年より山岳新聞、山岳西の編集事務総長、(株)山岳新聞社、(株)アルプス山小屋、(株)東京キャリー(1994、株)京都市と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角測量研究会会員

コース	ガイド	沿線ハイキングガイド	サービスチェーン	せせらぎ
① 御破山(巻頭)	② 雲連山(巻頭)	沿線ハイキングガイド……………70	サービスチェーン……………73	せせらぎ……………73
③ 二の谷山と萬ヶ岳(巻頭)	④ 三久安山・阿念利山・一山・東山(巻頭)	新ハイ関西山行計画(報告)……………79	バス時刻表(京都北山)……………94	編集後記・広告案内……………96
⑤ 藤無山(巻頭)	⑥ 田上山と長柄ノ峰(巻頭)	慶徳次盛一……………56	山形 龍之……………58	須藤 司……………64
⑦ 須藤 司……………64	柴田 昭彦……………66	坂井 久光……………46	中村 敏文……………48	松永 恵一……………52
山口 淳行……………44	北川 浩……………20	木村 太郎……………24	松田 敏男……………28	多摩 隆雄……………36
奥田英一郎……………16	坂井 久光……………10	杉本 高……………13	杉本 逸雄……………11	平 一郎……………11

巻頭言

一つの山に登ってこれだけの思い出を残しますか。きょうは天気が良かった。いい汗をかいた。花を見て満足した。ビールがおいしかった……などで終わっていませんか。私は、山登きの思い出は本巻以上に、その前後にあると考えます。まず地図を読んで、高・等高級からコースタイムを計算します。ガイドブックで周辺のことも調べます。机上登山といわれるものですが、計画時にイメージトレーニングをしっかりとしておきます。山行後は記録です。実際のタイムを書き、コースを絵地図にしてみましよう。それに疑問した情報を書き入れます。思い出や感想をイラストといっしょに書きさえ、写真を貼りつけておきましょう。いわゆる山行日誌ですが、大学ノートを自分流に工夫すれば安上がりです。前巻にこれだけのことをすれば、山行がより思い出深いものになるでしょう。それを「紀行」「コースガイド」にして送ってください。長文が苦手な人は「せせらぎ」があります。こうした記録を集約するのが、この会報誌の使命でもあります。新ハイキング関西(六巻)村田 智俊



克

羅針盤内蔵ハイカー

平 一 郎

私の頭の中には、羅針盤が内蔵されているらしい。直感的に方位が分かるというのは、だれでも当然のことだと思っていたが、そうでもないようである。コンパスを見なければ方位が分からず、たとえなかつても移動すれば、すぐ分かるようになる人もいる。

私が先天的に方位感覚をもっていることを意識し始めた頃から調べてみると、方位を感覚的に知ることができる人のほうがむしろ少ないようである。

私の羅針盤はいつも南を指していて、街中でも山中でも、歩いていても車に乗っていても、昼でも夜でも作動している。また外国へ行っても性能は変わらない。以前行ったヨーロッパ

パ各国でも狂いなく作動していた。では南半球ではどうなるのか。ポーランドから南へは行ったことがないので、確かめようがない。これは頭脳の優秀さとは無関係であるらしい。

私の知人に、絵画・音楽・ダンスなどの芸術的な分野で人並みは超えていたが、母親の胎内に羅針盤を置き忘れてきたかのように、方位感覚をまったくもたずあわせていない。

方位感覚というのは、遺伝するのだろうか。娘は私と同様、ある以上の高機能の羅針盤をもっている。ハイカーにとつて、これは思われた天分であると両親に感謝している。

登山装備には、コンパスが必需品のひとつとされているため、40年前に、何となく義務的に購入していつも持ち歩いているが、

ほとんど使ったことがない。キーホルダーにぶら下げて、リュックサックの装備品のひとつになっている。

ところが頭の中の羅針盤も故障することがあったのだ。

京都府舞鶴市から宮津市に向かって国道178号線を、由良川に沿って北上中に、何気なく方位も方向も見失い、自動車を道端に停めて考え込んでしまった。日頃から白樺の方位感覚を過信して、地図もろくすっぽ見ずに行動していた報いである。

器械の羅針盤はメーカーへ修理を依頼すれば直せるが、頭の中のもの、精神科の医師でも修理できるかどうか分からない。しばらくは、修理することもできずに故障したままで、逆方向へ向かって流れるのよ。妻の



克

随想 (山のエッセイ)

この一言で故障の原因が判明した。

本州を背骨のように貫く山脈の中心には分水嶺がある。これから北側は、水は北に流れて日本海に注ぐ。南側は太平洋、瀬戸内海に向かう。これは学校の授業で習ったことで、いわば常識である。

分水嶺の南側で日常生活をする私にとっては、分水嶺のことなど考えたこともなかった。

北に向かって移動すると川の水は必ず逆の方向に流れるという、無意識的な前提が故障の原因であった。

自分が北に向かって移動する時川の水は南に向かって流れるはずと思ひ込んでいたのに、由良川の水は私の進行方向と同じ向きに流れている。これが私の羅針盤に混乱を生じさせたのである。

丹波地方の分水嶺のすぐ南で生まれ育った妻は、東山の峠を

感えると水は日本海に向かうことを、幼い頃から知っていたそうである。

単独行や家族での山歩きでは、ルートファインディングは私がやらなければならない。いくらか方位感覚に優れていても、天候によってほとんど見通しのきかない山道を手探り同然で歩くのは容易ではない。

山歩きグループに所属してルートや方向を気にせず、みんなの後からのんびりといつて行くのも気楽で楽しい山歩きの方法ではある。

靖街道あれこれ

細本 逸雄

比良山系の西麓を走る国道367号は「靖街道」としてすっかり有名になった。最近靖街道も沿道の茶店で売り出された。

地域振興のため朽木村が力を入れていた特産品だ。

数年前、村の伝統を守りながら経済活性化に頑張っている同村の友人と、その土地の歴史的・文化的価値を経営責任に転化する方策がないかと、話し合ったことがある。一時睡れていた朽木翁も復活している。

いうまでもなく、「靖街道」のいわれは若狭湾で獲れた海産物を京へ運んだことから、増産の翁が代表名となってそう呼ばれたとされる。ただ、古文書などをみるとかつては必ずしもそうではない。

古来若狭の特産物は代々の都へ輸送された。若狭沿岸の各所で古代の製塩遺跡が発掘されていて「日本書紀」巻第十六武烈天皇にもでる。

武烈が謀反を起そうとした大臣の平野真馬臣を討伐するが、死ぬ間際に真馬は、天下の塩が武烈に災いするよう願った。



克



克

随想 (山のエッセイ)

以前訪ねた丹波経氏の里とテカシ。節で知られる丹波の篠山(兵庫県篠山市)も「鯖街道」のルートにあたる。小浜や高浜から名田庄(狭)間(京都府美山町)を経て運ばれた。

毎年の祭りには、ご馳走の鯖寿司を作って食べる習慣が古くからある。篠山城近くの徳山市立歴史美術館(日置乳野)南側の交差点に、「鯖街道」の由来を記した駒札が立っている。

若狭や丹後の漁獲物を大阪へ運ぶ中継点だった。まわりの茶店では鯖寿司が目玉商品だ。

四国八十八所巡路にも鯖まつりがある。室戸岬に向かう辺路に、「八坂八浜」の難所がある。当地の善外礼所・鯖大師本坊(豊後高田郡高田町法川町)には、手に鯖を持つ鯖大師像が安置されている。この養所で弘法大師(行基ともいふ)が、摩訶を馬で運んでいた兵方に魚をさうたが

その時「角鹿(数貫)の塩」だけ呪い忘れたという説話だ。

若狭で製塩が盛んだ。たのが『万葉集』(巻三—三六)でもわかる。数貫から越前へ海路をとった笠金村が「受が惣さ行けばまするをの手結が浦(数貫市田結)に海未通女(塩屋)と詠んでいる。

平安初期の『延喜式』(巻二十三民部下)、『回』(巻二十四三計上)などに諸国交易・貢物が記載されている。若狭国の海産物は「烏賊、鰯、鮑、熱海魚、鮫貝、塩」などが載るが、鯖はなく、「能登国」に載る。

能登の鯖が名産だったことは『日本山海名産図会』(一七九)にも載るが、板屋一助『櫻狭考』(一七六七)には、「昔は能登の鯖とて名高りしに、すくなくなりて、本国(若狭)へ魚道付たり」。豊魚で漁師は「鯖を釣ること、第一の業なり」と述べている。

また、若狭、特に小浜から京へ通じる道は、根来・久多・鞍馬、弓削・山国、周山・長坂・鷹野、朽木道、湖岸の道の五つあると述べている。

近世に入ると、若狭街道は往來が盛んで延喜、貞享の頃は一年間に荷馬二十万駄、穀物六十万俵という記録もあり、熊川がその中継点となった。若狭・京間も急便が増え、夜通しの運搬も行われるようになった。

その背景を、旅行家の北尾銀之介『若狭紀行』(創元社)は「伊勢路から京阪地方を衝いてきた魚問屋との競争で、南の魚が鈴鹿峠を越えて矢走(矢野)に出て、船で大江から京都に送られる。その急便に對抗するため、若狭から午後の魚を(一)岩物にして、担って、夜を徹して山路を越える必要があった」と記している。

大変な重労働を強いられるこの搬送者を「若狭背負い」とい

い、熊村は「夏山や通ひ馴れたる若狭人」と歌っている。その必死の形相から京では北国からきた恐ろしい獣のように見られ、京の子どもは「若狭背負いに食わせよう」と言われると泣きやんだという。

若狭から京へは、海産物以外にも木炭・油粕・燧類・下駄・葉種なども運ばれたが、これらの搬送ルートを「鯖街道」と呼んだ古い記録はなく、越前の山岳ガイドブックなどにも見当たらない。福井県立若狭歴史民俗資料館蔵の永江秀雄氏は「この名称そのものは、恐らく戦後、ここ数十年の間に文筆家によって言いだされたものでないか」と指摘している(上方史蹟調査の会編『鯖街道』向陽書房)。

ところで、「鯖街道」はもっぱら若狭・京間を結ぶ旧街道だけが喧伝されているが、他にも

漸られ、「大坂や八坂坂中鯖一つ 大師にくれて馬の腹納む」と詠んだら馬が腹痛で急に動かなくなり、驚いて差しあげると元気がなくなったという説話だ。

生臭い物を食べない僧が鯖をぶら下げていたわけだが、鯖は、時の神に道中安全を祈って、食べ物を取り分けて手向けた、つまり仏教説話という「生腹(せうはら)が転化したといわれる。

四国遍路について

杉本 高

5年前前から四国八十八所巡路を巡っている。最初は亡き父の供養から始めたのだが、すっかりハマってしまった。

お巡路に旅する四国の人々の心が温かいのである。遍路客を見かけると、農作業の手を休めて道を間違えはしないかと、じっ

と見守っている。そして、こちらから道を訊くか、道を間違えでもない限り決して声をかけない。

また、昔からの巡礼にかかわる風習だった「お接待」の習慣が四国遍路には色濃く残っている。お巡路にお金や食物などを施すことによって、お大師さま(弘法大師)のご利益があるとの考えである。

私も巡礼中に千円札をいただいたり、缶ジュース・お菓子・果物をもらったことがある。このような時には、お礼の言葉と共に納め札を一枚し上げることにしている。お巡路を通じてお大師さまに金品をお供えしているのだから、それを断ってはならないとされている。

このように四国の人たちはお巡路、特に歩き遍路のお巡路に心を配られており、私も遍路の際には白装束に菅笠・金剛杖という遍路姿で歩くようにしてい



克



克

随想 (山のエッセイ)

京都岳人の先覚者

坂井 久光

京都には世界的に有名な登山家が少なからずおられた。今西館司・西堀栄三郎は世の知るところであろう。そして、京都の登山史に忘れられない登山家が

0886(89) 1112
六番札所 安楽寺

0886(94) 2046
一 番札所を朝出発すると、このあたりで夕方になる。宿坊が大きく、一人歩きでも泊めてくれる。

へんろ道保存協会の
0599(52) 3820

(通路道の草刈り、標識の設置等を行っている団体、この発行するガイドブック「四国遍路ひとり歩き同行二人」別冊二冊組は、歩き遍路の必携書)

る。四国遍路を始めてみようと思われ方は、恥ずかしがらずに、白装束姿に笠笠・金剛杖で歩かれることをおすすめする。

私は今、四回目的巡拝を行っているが、巡拝は秋から春にかけてがベストだと思う。八十八ヶ所すべてを歩き通すとすれば総距離約1200kmで、65歳位までの人でも、約40日が必要となる。八割が舗装道路で、車道を排気ガスにまみれて歩くところも少なくない。

私はサラリーマンなので、一ヶ月を超える長期休暇を取れるはずもない。そのため少ない日数を有効に利用して四国の自然や人情にふれてみる。山道などは極力歩くようにし、国道などの一本道はJRやバスを利用して時間短縮をはかっている。

四国三郎と言われる吉野川の両岸に咲く菜の花、遍路ころがしの名を持つ焼山寺越えの山

道、室戸岬で見た美しい日の出、神楽寺への坂道から見る太平洋の空、足摺岬へ向かう途中の大岐海岸に打ち寄せる荒々しい波、瀬戸内の海と島々が見せてくれるブルーとグリーンとのコントラストなど……。四国遍路の途中で見たこのような美しい光景は、言葉につくしようがない。

四国遍路をしたいと思います。でもなかなか思い切れない方も多いだろうが、特別な知識も技術も必要ない。二、三日もあれば一番から十番札所まで歩けるので、一度チャレンジしてみたいかがたろうか。

一番札所「雲山寺」へは、京都駅・大阪(大塚駅・阪急三番街・なんじ)・神戸(三宮)・宇治(新神戸駅・高瀬駅)から高瀬バスで徳島駅へ行き、JR高徳線の普通列車で板東駅で下車し、駅前を左折して民宿「かどや」を右折すれば、雲山寺の山

門が見えてくる。駅から徒歩約15分。なお、板東駅は無人駅なので、道順は駅前の商店で訊くとよい。

なお、一番札所では持ち物やお参りの作法等を教えてくれる。最近、若い女性遍路を車に乗せ、山のなかでわいせつ行為をした男が警察に逮捕された。歩き疲れた時に、「お接待です。次の札所までお乗りになりませんか」と声をかけられると、ついその気になる。悲しいことだが、全てが善意と取れない。次のように断って歩こう。

「残念ですが、歩き遍路の修行中ですので、乗せていただくわけには参りません。ご厚意だけ頂戴いたします。」

自動車の接待だけは、断ってもよいとされている。それではみなさん、出かけてみませんか。△問い合わせ先▽
一番札所 雲山寺

もう一人いた。

その人は日本初の登山用品店である「好日山荘」を設立し、藤木九三と知り合って登山技術を学び、大峠・台高を始め、鳥も避けぬ北穂高の滝谷を登攀した。遺著「泉を聴く」は復刻版が出されたので御存知の方もあろう。

その人の名は西岡一雄(明治十九年四月五日大津市生まれ)である。父は大分県中津藩士。大阪府立北野中学を卒業後三回に入学したが中退。大阪粉屋に勤務。大正十年マリヤ運道具店勤務。大正十三年「好日山荘」開店。昭和五年日本山岳会入会(会員番号二二二番)、紹介者は藤木九三・小島陽水。昭和十九年2月6日宮崎市江南病院にて死す。享年七十九歳。

以上が西岡氏の主な経歴であるが、彼後には今西館司・森本次男と京都府山岳連名の創立に貢献した。

京交山岳部の先輩の伊藤潤治は西岡氏の崇拜者で、彼とは「好日山荘」をゆすり受けるほどの親交があった。私が西岡氏と会ったのは、兵庫県多紀郡多紀町二ノ坪の寓居だった。京交山岳部有志一同が西岡翁を囲み、吾波名物の猪鍋をつつきながら、過ぎし日の山の話をつらつらとお聞きした。その翌年、宮崎に移られ病死された。

林調で賑々とされた遺願な老人で、青年の頃の岳人としての勇姿は感じられなかった。しかし西岡翁が京都山岳界に残された影響力は強大なものがあつた。伊藤潤治をして台高山脈初縦走にかりたてたのは翁の一言であつた。遺著を拜読すると西岡氏の山に対する思いの強烈さに胸を打つ。

著書には他に朋文堂発行の「山河をちこち」「登山の小史と用具の変遷」や蘭書房の「山村好日」がある。

湯壺跡とササ原の好展望

湯ヶ峰と白草山

奥田 英一郎

飛驒

大曾の御嶽山の南を王滝川が谷を深く削り流れている。この溪谷に沿って1500〜1600級の山々が並行して走っている。北は飛驒の御前山から望谷山・寺田小屋山そして白草山と続いて、さらに小秀山・高嶺山・奥三峯山と通っている。この山脈は阿寺山脈と言われている。

山脈の中夫部には、全国のあちこちにもある三國山があって、木曾・美濃・飛驒の三國国境になっている。木曾谷に沿った古い街道は中山道だが、一般には木曾路と言われるこの地域のうち、葦原から北の境峠あたりのことを小木曾、南のかつて流石村と言われたあたりのことを

南大曾。そして、西の山並を越えたあたりのことは裏木曾と呼ばれ、中津川から下呂までの道を南北街道と言っていたようである。

いずれも深い山のなかにあって、古い習俗を残している所だけに、北の阿多野郷周辺と共に、木曾・飛驒・美濃を結んでの山歩きは四季折々を通じて楽しみであった。静かな峠を越えると、そこにはひびいたわかし湿があり、時には行商人たちと同じ民家に泊まり合わせて、炉端で民俗話などを聞いたものである。

いつか御嶽野から鞍掛峠に向かって歩いてきたところ、後ろから来た宮林署の車が止まって途中で乗せてくれた。峠

た。阿寺山脈も、名古屋方面からだとい増りの山域となった。なかでも白草山は人気があるのか、登山当日には登山口に泉ナンバー（大阪南部）も駐車されていた。

湯ヶ峰も白草山も登山道があるのは下呂町だから、二山共飛驒の山といえる。展望と気持ちの良さでは白草山。信飛の国境にあって明るい小ササの円頂から御嶽山の眺めがよい。湯ヶ峰は山としての



魅力はいまひとつだが、名の通り、昔は下呂温泉の源泉であったという湯壺跡があって、興味をそそられる。

私たちは乗組温泉で一泊して、この二山を登ることにした。JR高山線は地方色豊かであった。飛驒川沿いの溪谷と紅葉した山肌もきれいだったが、停車場の向い側の店先までしゃべっている人の声が間近に聞こえ、車内販売のおばさんが客から受けた注文を次の駅へ電話で連絡していた。

湯ヶ峰は下呂あたりから見ると、東に連なる山並の中に、大きな断崖地がある山である。案内所で登山地図をもらって、教えられた通りタクシーで登山口に向かう。大林の民家がなくなり、未舗装になった所で、運転手はこれから先は無理だと告げる。

車から降りて1000歩も歩くと、湯ヶ峰登山口の小さな木札が立っていた。あまり人が入っていないのか、踏み跡程度の山道が草でおおわれている。暗い植木のなかを登って小さな鞍部を網めに登ると林道に出た。さっきの林道の続きだろう。道を隔てて登山道があり、うっすらと色づいた雑木のなかを行くと小さな鞍

箱岩山付近からの白草山



にはまだ林道が出来ていなかった。やぶ道を分けて三國山に登ったが、朽ちて傾いた鳥居があった。二浦野水深までくだけて行くと、静かな湖面のかなたに御嶽山が浮かぶように望まれた。物音の全くない静かな世界だった。

最近では、この峠越えの山道も林道となつて、かつての山脈の情緒も失われてしまった。しかしその反面、登山には便利になつ

縁に出た。しっかりと踏み跡がある。自然林を10分ばかり進むと湯ヶ峰（1067m）に着いた。三角点の傍に山頂には似つかわしくないブラック小屋があった。下呂の町を見下ろし、かたに飛驒の山々が重なるのが見えた。

湯壺跡へは南にのびるやせ尾根をくだる。15分ばかりで薄暗い植木のなかに小さな台地が見える。「湯ノ平」と書かれた山札に従って奥に入ると、「飛州志」から抜かれた説明板が立っていた。

天曆年間に湯が湧き出て村人の湯治場になったが、文永年間に突然濁湯して源泉は益田川畔に移った」という。湯壺跡は直径も、6分ばかりの溜鉢状をした窪地で、落ち葉にすっぽりと埋もれていた。今、この地中深いところでマグマはどのような活動をしているのだろうか、地球生成の謎にちょっと心を馳せさせてみる。

もと来た道を頂上へ引き返して、北の道をたどると土砂堆積場の畔に出て、東西に走る林道となった。この道は先年歩いた道で迷う心配もなく乗鞍にくだる。段丘に点在する農家と田圃風景が晩秋の夕暮れのなかに沈んでいた。



白草山より御蔵山

「米野旅館」は純和風の一軒宿で、玄関・食堂・浴場は改装されていて清潔だ。部屋は襦で仕切られていて中央に広い廊下。他に客もなく静かだった。ゆったりと山の湯気を感じたあと、夕陰

のご馳走をいただく。狸の姿づくりは不思議に臭みがない。それに鯉のから揚げ・アマゴの塩焼き・飛騨牛の刺身焼き等、次々と出来立てが船に並ぶ。季節だからと松茸の土瓶蒸しに、やはり松茸の入った茶碗蒸し。各種の天ぷら。珍しいのは餅の子と柿のワイン漬。そして茶そばが出てくるともう食べきれない。翌朝、ゴマと梅干の入った温泉がゆがさわやか。山登りに備えてご飯も十分이었다。宿の主人に登山口まで車で送っ

てもよかった。

白草山の登山コースは、乗取川をつめて黒谷との分岐になる林道から入るものと、反対に鞍掛峠への林道の途中から入るものと二つある。私たちは下山後にひと汗流したというところで、後者を選んだ。登山口は御蔵野と鞍掛峠との中間ぐらゐの所である。

登山道は、白草山頂上近くの奥境尾根から南にのびる支稜の山腹を捲くように付いている。歩き始めて間もなく支稜に取りつく。あとはこの尾根をからむように登ってゆくだけ。時間はかりで高さ5〜6mの天狗岩の前に出る。そこから歩き続ける。すぐ右下の樹間のなかに水場が見えた。

岳木の混じるナナツ原のなかをぐるっと廻り込むと明るい霧間風の高山の被線に出る。左にプレハブの小屋があった。

気持ちのよい奥境尾根を行く。白草山の山頂がすぐ近くに見える。北東はるかに御蔵山が望まれた。小ザサのなかを歩くとももなく、台地状の山頂の白草山(1841m)にたどり着いた。350度さえぐるものはない。木曾駒の緑濃い山肌を白くえぐった林道が急切に走って

ていた。左方ゆるやかに波打つササ原を隔てて箱岩山が間近に見えた。

御蔵山はさすがに大きくて、周囲の山々を圧していた。木曾の関田から見る御蔵山が好きだったが、スキー場が出来たために緑の山肌が削られ、痛ましくなった。日和目から見る姿は富士山をひとまわり小さくしたようなのが、御蔵山らしくなる。ひなびた瀬川にホテルが建って変わってしまったが、箱見峠から見る姿は今も美しいと思う。ここ白草山からはあたたかも王者が周囲の山々を従え、君臨するようなコニエデ状の姿がいい。

山頂はちやうど昼どきで、登山者たちが思い思いに青空の下での食事を楽しんでいた。そんな山頂もよかったが、近くの箱岩山にも登ってみようと、気持ちの



黒谷林道をくぐる

よい小ザサの道をくだって行った。ふり返ると逆光に小ザサが白く光っていた。白草山とは、このあたりの風情から名付けられたのだろうか。

箱岩山へはすぐだったが、山頂は樹木が繁っていて展望はなかった。草地では父親と小学生らしい男の子が黙って食事をしていた。山好きなお父さんに連れられて来たのだろうか。そんな二人の姿が好ましかった。

私たちは黒谷へくだる山道のすぐそばのササ原で食事をとった。そのあとは小さな尾根をしばらくくぐった。ふり返ると白草山は相変わらず鈍い銀色に光る小ザサに埋もれていた。樹木のなかをジグザグにくぐってゆくと、遠くから沢の音が聞こえてきた。谷を隔てた向かいの山肌が見えてきた。谷をくぐって下りた。裏下にこれから自分たちがたどる林道が見えた。間もなく小さな谷におり、流れといっしょに歩いて、機道を渡ると林道に出た。

管状器管槽の小屋があって黒谷林道の文字も読めた。ゲートのある林道入口までの約6kmの道のりはけっこう長く感じられた。しかし、途中の黄葉紅葉の山肌は癒められた。遠くに見える斜めに落ち

低山登山~本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新へイの会員がで更に割引します。



とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南瓦町4-70
TEL 06(6772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスグ



た山腹に、シルエットになって並ぶ樹林がリズムカルでおもしろく、カメラに何枚か収めながら、宿の主人が待つ登山口へと急いだ。

(平成10年11月2・3日歩く)

▲参考タイム▼

- 一日目 下呂駅12・40(タクシー)大林上の登山口13・35―湯ヶ峰14・10―20―湯釜14・40―湯ヶ峰15・05―10―林道15・20―乗取温泉・米野旅館15・07(泊)
- 二日目 登山口8・35―天狗岩10・05―10―泉坊尾根10・40―白草山11・10―30―箱岩山11・45―ササ原12・05(昼)12・25―管状器小屋13・40―黒谷林道分岐(登山口)14・20(中)米野旅館14・45―15・30(タクシー)下呂駅16・05(泊)

- ▲問い合わせ先▼
乗取温泉(米野旅館) 0576(26)3311
- ▲地形図▼5万1加十母、2万5千1宮地
- ▲交通費▼
JR大阪駅―下呂駅 5570円(片道・急行券共)

徳本峠から

霞沢岳

春に徳本峠の小屋でIさんのお世話になった私たち夫婦は、この峠の小屋の静かで落ち着いた雰囲気忘れられないでいた。多くの丸太が崩閉を支えていて、夜にはランプの灯がとる魅力的な古い小屋だった。Iさんの温かい心配りも忘れられなかった。

秋にもう一度訪ねてみたいと思っていた。峠に行くだけでもよい。しかし、それだけでは今ひとつ興を欠く。さらに長滝山を越えて長い尾根道を行き、蝶ヶ岳ヒュッテに泊まって冠雪の穂高を眺めるという計画だった。ところがこの秋の長雨だ。チャンスがないまま10月も後半になってしまった。蝶ヶ岳ヒュッテも閉じ

北川 浩

北アルプス

てしまった。一方、徳本の小屋は11月上旬までやっているという。ならば北東の蝶ヶ岳でなく、南東の霞沢岳へ行くことにした。徳本峠の小屋で一泊お世話になって翌日霞沢岳を往復し、山頂で穂高を展望するという計画にした。

晴天に恵まれた11月3日、沢渡に車を駐めてバスに乗った。駐車場から見た梓川対岸の山腹はカラマツの紅葉が太陽に輝いていた。このあたりの紅葉は今が最盛期ではないかと思われた。このぶんなら烏ヶ谷(平成11年6月の集中豪雨のため現在通行止)から峠へ入れば、紅葉黄葉がさぞかしすばらしいだろう。しかし、7時間30分の道のりでは日が暮れてしま

霞沢岳から冠雪の御嶽山と英毅岳



う。初日からそれだけの労力を費す余裕は私たちにはとてもない。峠にはゆつたりと登りたい。バスの窓から紅葉を眺めながら上高地へ入った。

上高地一帯の紅葉はすでに終わっていた。カラマツも裸の枝が寒風にゆれている。それでも観光客がコートの襟を立てて河童橋へ行列をつくっている。河童橋からは冠雪の穂高が青い空にくっきりと

見上げられた。

上高地から徳本峠へ3時間程の道を、最近ろくにトレーニングもしなかった私たちはのろのろと歩いた。フリース上下の冬支度のうえ、ザックにはビッケルを付けているのとは裏腹、「元気がない歩きだった。

事前にIさんに電話して山の様子を訊ねた。「峠でも一度雪が積もったが今は無い。穂高にもまだ雪ともな雪はついていない」ということだった。「アイゼンやビッケルはどうしようか」と聞くと、「持って来たほうがよい」と言う返事であった。荷が増えるとは思ったものの、



用心するに越したことはない。

とぼとぼ歩く私たちを軽装の婦人二人が追い越して行った。今夏、上高地は局地地震が頻発した。そのせいだろう、夏道が崖崩れで分断されて谷へ迂回している。仮設のルートが拓かれている。さっそく私たちの仕事だろう。

峠に着いた。明日に備えて夕暮れ時をゆっくりと過ぎた。峠も小屋も静かだ。峠に板切れがある。「展望台まで三二秒」と書いてある。ここからの展望は有名だ。明神・前地・奥穂・西穂が夕日に染まっただけじゃなかった。さすが11月の夕暮れは寒い。フリースの上にヤッケを着ているも寒えてくる。寒風が上高地の方から吹き上がってくる。早々に引き返して小屋の前の腰掛へ。ここからは東方が開けていて八ヶ岳の連峰が遠くに見える。小屋にさえぎられて風もいくぶんましだ。バイトの娘さんも出て来て、暮れゆく山並を見つめていた。「今夜は新月が八ヶ岳の方から上がるよ」と教えてくれた。この小屋のまわりにはタケカンバの大きが数本ある。もうすっかり葉を落として冬支度をしている。

夜、月を眺めようと外に出てみれば、

高く昇った滝戸を背に小屋とタケカンバが黒々と立っていた。

翌朝、雲海の上は真っ紅に焼けた八ヶ岳がシルエットのように浮かんでいた。「K-ピークの登りがよくないから、ストックよりビッケルがいいよ」とIさんから聞いて、ビッケルを持って出かける。昨日登った道を少し戻ると穂高岳への分岐がある。上高地へは右手にくだることになるが、穂高岳へはそのまま前方の尾根へ上がって行く。すぐに峠のような尾根に出てさらに林のなかを登って行く。林が少し開けて穂高や常念が見える所に出る。スタジオジャンクションと板にある。さらに登りだ。そのうち登りはゆるくなるが、湿気が多い道になる。一ヶ所だけ樹林が開け、東方が崖のような所に出る。ここが「ジャンクションピーク」と言われる所だ。ここまでは峠を訪れた人たちもよくやって来るようだ。春には私たちがここまで登ったから、近くには山並のほかに特別にとこの山が見えたわけでもなく、格別の場所でもないと思っただ。ところが、今日は雲海の前向きに八ヶ岳、南アルプス、甲斐駒ヶ岳の左後方

には重なるようにして富士山が見える。昨夜、同宿の人たちとの雑談中に「ジャクシオンピーク」といつてもたいした見晴らしでもない」と知ったかぶりをしたのが恥ずかしい。

「うわー、来てよかったな。しばらくここで休憩にした。開けているのはこのピークの周囲三層ほどで、再び岩のなかを歩く。ゆるやかな湿った下り道だが、今朝はまだ凍っている。このあたりは二重山と地図にある。二つの屋根の窪地部分を歩いているようだ。水が張っている小さな池が出てきた。ここからまたゆるやかに登りだし、はっきりした尾根に出る。針葉樹はなくなり灌木の道になる。このあたりにも尾をのむ跡跡があった。水がなくなり両方が開けた。青い空の向こうに雪をかぶって輝く峰がある。栗藪岳だ。何日か前にテレビニュースが栗藪岳の初雪を放映していた。もうすでに中腹から上は真っ白だ。その左にも独立峰が見える。こちらは雪が少ない。山頂は白いが、その下は青黒い。御嶽だ。

四つ程小さなピークを越して行く。K1ピークまでこのまま尾根を行くのかと

思いつつ、ちょっと長いなあとも思っていた。すると道は山腹を捲きだした。左手に尾根を見て、右手は谷。谷の向こうは六百山のデコボコした山並。そして、その向こうには西穂高の山稜だ。西穂高岳や天狗の頭が大きい。その右に岳沢、奥穂高岳、吊り尾根、前穂高、明神岳。さらに右手に三角形の常念岳が見える。上高地で見る穂高とは一味違った険めだ。

そのあときつい登りにぶち当たる。山腹を巻いて来た道は谷伏の窪地に出て、今度は草付きを登っている。夏にはきつとお花畑になると思われる所だ。登り着いた台地状を左に折れる。今度は本格的な登りになった。傾斜は大差ないのだが足元がよくない。大きな霜柱が融けて崩れ始めている。木の根が出て岩がゴロゴロしている。段差も大きくて短足の私には大変である。ビッケルの世話になって登る。半ばで上から見下ろしている二人連れに気づく。ノロノロと登る私たちに道を空けて待たせてくれている。昨夜同宿だったこの人たちはすでに霧沢岳へ行つての帰りだった。「K1ピークへの登りではここが一番きつい所です。あとは楽だから」と励ましてくれた。

この登路では続めに登ったり、スケッチをしたりで時間をくった。小屋の人には15時には帰ると言われて出てきたが、このふんでは16時前になりそうだった。小屋の人にそう言ってほしいと伝言を頼んだ。

しかし、この登りはきつくて時間のかかるものではなかった。すぐにピークに着いた。頂上はまさにてっぺんだった。思わず歓声が出てしまう展望。まわりをさえぎるものはない。このK1ピークは狭いだけに高感がある。足元は切れ落ち、その先には上高地帝國ホテルの赤い屋根が見える。梓川の白い砂の河原が蛇行している。その向こうには西穂高の山腹、目を上げると笠ヶ岳が突き出ている。西穂高の枯れ枝の紋様もよく見える。

K2ピークへは少しくだつて少し登るだけ。山頂はK1よりさらに狭いが、登り下りも険しくないので平凡に通り越してしまった。

そして、そこからほとんど上下なく霞沢岳の山頂へ着いた。ここはK1ピーク以上の絶景だ。目の前の登って来た道の先にも、南方にはさえぎるものは何もない。足元に小山はあるが、目の前は全部空の青。すぐ向い側に栗藪岳、雲海上に

御嶽山も見える。この二つの頂を正面にして右手に笠ヶ岳から極高の連峰。左手はやや遠のかかった中央アルプス・南アルプス・富士山・ハッ岳と広がる。

「来てよかった。このせりふがまた出てくる。やがて天気予報通り徐々に雲が出てきて御嶽の方向が暗くなってきた。やはり11月だ。風も強く冷たくなってきた。フリースにヤッケでもじつとしていられないな。

道中、紅葉はどこにも見当たらない。ナナカマドの赤い実もなかった。ゴゼンタチバナの葉も赤黒くなり冬を待っているだけで、あの光る赤い実は一粒もない。霜柱だけが大きかった。

この道は簡便で行き止まりである。八右衛門沢を上高地へくだるルートがあるそうだが、ガレていて私たちには手におえない道だという。それにこのルートは冬期の登路で、ザイルを使つての登はん路、下りは懸垂降下だという。来た道を戻って峠の小屋でもう一泊が常連だ。

山頂で小1時間展望を楽しんだので帰りは急ぐことになった。「15時には着けないが16時には帰る」と伝言したが、

それもあやしくなってきた。12時10分に山頂を後にしたのだが、K2・K1を越えて、池のある窪地にたどり着くまでずいぶん長く感じられた。K1をおりて山腹を登り道に入ると六百山が見える。斜面はハイマツの緑のほかには草はなく、ダケカンバだけが高い。根曲がりした大きなダケカンバがいっせいに午後斜光を浴びて白く輝いている。暗い谷のなか、ダケカンバの白い幹の輝きを前にして、まだ明るく陽光を受けている明神岳や前穂高岳が見える。さらに常念岳と妹ヶ岳が光って見える。谷の向こうはまだ陽光のなかつた。

小道りに歩くなかなか池にたどり着けなかった。ようやく樹林に入り、池の湿地を抜いたらからの登りが始まった。そしてジャンクションピークへ。ここからは一気にかけくだつて、15時50分に帰着した。

今夜は昨夜にも増して強い風が飛脚側から吹き上げてきた。「雪になるかも知れないよ」といさんは言う。トイレに走る時には白いものが舞っていた。でも小屋の中はにぎやかだった。いさんやお手伝いの女性とバイトの娘さんで四人。客

は若者一人、K1の下で行き交った二人、そして私たち。みんないっしょに食卓を開んだ。

夜明けに二人連れは島々谷をくぐっていった。きつと紅葉の道を存分に楽しまれたことだろう。私たちもその日に上高地へ下山した。いさんと若者が見送ってくれた。いつまでも見ていてくれるものだから、手をふって応えたと「ふり返らずとどんどん行きなさい……」

来てよかった冬前の山旅だった。

▲コースタイム▲

- 一日目 沢渡(バス1時間) 上高地(50分) 明神(10分) 徳本峠入口(2時間30分) 徳本峠小屋(泊)
 - 二日目 小屋(30分) スタジオジャンクション(30分) ジャンクションピーク(2時間30分) K1ピーク(10分) K2ピーク(30分) 霧沢岳(30分) K1ピーク(2時間) ジャンクションピーク(30分) 小屋(泊)
 - 三日目 小屋(2時間10分) 明神(50分) 上高地(バス1時間) 沢渡
- ▲地形図V2方5千上高地

『万葉集』歌枕紀行

竹内街道より二上山へ

葛城

木村 太郎

太子町から二上山

難波宮から見て、近つ飛鳥と遠つ飛鳥という呼び方をした。この二つの飛鳥の境界、河内と大和の国境に二上山はある。その二上山の南山麓に、日本最古の官道として知られる竹内街道がある。竹内の道に関わる記事として『古事記』には、履中の条に「墨江中王の乱」を伝えてゐる。父君（仁德）が亡くなられて、履中天皇が即位する大嘗祭の行われた夜に、弟墨江中王は天皇を殺そうと企んで、難波の宮殿に火を放った。大和へ逃れようとした天皇は、竹内街道をたどり、途中の河内丹比邑（今の羽曳野市）まで来て野宿をされた。

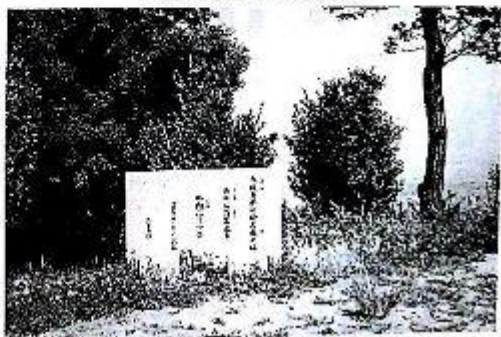
多遅比野に寝むと知りせば防壁も
持ちて来ましもの寝むと知りせば

（履中記七五）

さらに二上山を越える大坂口の登り道まで来た時、一人の少女に出会った。『日本書紀』が伝える履中の条にある「大坂の少女」は、二上山の様子を天皇へ知らせた。「この山には多くの敵兵が待ち伏せしていますよ、当麻道の方から越えて行かれます」と進言した。少女の教えのおかげで危難を避けられた天皇は、二上山の少女を思つて歌を詠まれたという。大坂に遇ふや嬢子を道問へば
道には告るす当芸麻道を告る

（履中記七五）

二上山麓岳山頂の万葉歌碑



古代歌謡あるいは『万葉集』の巻に記され、歴史上の挿話を紡ぎ織りあげる竹内の道、そして二上山はいくたびも訪れてみたい場所。梅雨晴れの日を、熱風に吹かれることは承知のうえで二上山を訪ねてみた。近鉄上ノ太子駅から「ふるさと太子散歩道」をたどり、六枚橋へ向かふ。

飛鳥川にかかる六枚橋は「南無阿弥陀

仏」の六文字からとられ、その昔は六枚の板が敷かれていたのが橋名の由来と伝わる。竹内街道のそばを流れる河内の飛鳥川は万葉集に詠まれている。

明日香河もみぢ流るる葛城の

山の木の葉は今し散るらし

（巻十、222-10）

現在の二上山は、金剛・葛城の峰々とダイヤモンド・トレイルで結ばれている。



万葉の二上山も、広い意味では葛城山と呼ばれていた。なぜならばもみぢ葉を流していた飛鳥川の源流の山こそ二上山なのだから。

竹内街道の旧道に入って、太子町山田の落ち着いた行まいの集落を行く。正泉寺を過ぎて、餅屋橋の酒標が立つ辻を北へ寄り、孝徳殿を訪ねた。孝徳紀に「大坂の磯長殿に乗りまつる」と記された御殿である。この孝徳御殿は帝自身が出された御葬令によるものか、磯長王殿の谷の中では小さな田舎でしかない。清少納言が「五枕草子」に、笑しい御殿として「みよさききうぐひすのみさき宮」と筆頭においた。別名「鏡の殿」はもの詩かに旅人を待ちうけていた。

「石垣土塼のある民家、その昔は炊事や洗濯に使われた浅井戸があり、お伊勢参りの名残の伊勢灯籠もある。近くには「竹内街道歴史資料館」があるが、古き町並の雰囲気を交しつゝ竹内味へ入る。新しく架けられた飛鳥橋を渡ると、道の駅「近つ飛鳥の里太子」である。その国道出合から二上山へ、車の通る舗装路に登山靴を穿き返されながら歩いた。

国道を早く離れたくて、大日池を急ぎ足で通り込んで「二上山万葉の森」に入る。案内所のある駐車場の中を通り、森に植えられた万葉の花木に迎えられる。すぐに「みどりの百選二上山」の碑を見て、古代池に行く手前の登山道へ取りつく。二上山は雄岳と雌岳の二峰からなり、ラッタの背中にたとえられ、古来「ふたかみ山」と呼ばれていた。なつかしい山々との再会に胸は弾みでく。

階段状の山道を登って行くと、ほどなく右衛門寺の史跡御谷寺跡に着いた。聖徳太子の弟麻呂皇子（王子ゆかりの十三重石塔と磨崖石仏）と知り、手を合わせずにはいられない。古い遺跡が残る鞍部をあとに、岩肌むきたしの道を登りダイヤモンドコースに出ると、右手へ進む岩屋峠へ進んだ。ところが、峰近くの樹齢千年という岩屋杉は無残にも横倒しになっていた。自然の非情さに胸を痛めつつ、岩屋峠からつづつ折の道を雄岳（474.4m）の山頂へと登りつめた。

大坂をわが越え来れば二上山に

もみぢ葉流るしくれ降りつつ

（巻十、222-10）

秋から冬への季節にしくれている二上

近畿の山(続) 日帰り沢登り

中庄谷 直・吉岡 章 著 四六判・二〇〇〇円
 大峰、台岳、奥吉野、南紀、鈴鹿、比良、安曇川、由良川、因但国境等47コース。前編初級編に続いて中級の沢を、詳細な行図、コースタイム、写真と共に紹介。

山の道を、太子から香芝へ穴虫峠を越えて旅した読者知らずの歌碑が雄岳の立場にあった。

二上山から当麻町
 二上山は山歩きが苦手な私の妻が、山行について来た数少ない一冊である。大津皇子の神幸の生涯と中將姫伝説の牡丹寺に惹かれたのだろうか、三年前の5月にいっしょに歩いた。近鉄二上山駅から、自然の緑ゆたかな二上本道と呼ばれている道を歩いた。歩いては休み、休んでは少し歩く、純行の歩みで雄岳を越えて雄岳へ着いた。日時計が置かれた明るい山頂に立ち、大和国原と河内平野を見下ろし、妻は無邪気に歓声をあげていた。こちらが大和三山、こちらが六甲連山、眼

下に箱庭のような太子町の街のいろか、当麻寺の東塔と西塔も望め、山からの眺望は360度だった。

この日、妻と歩いたあの日のように晴れ渡る空の下を、あの日は逆方向に馬の背から雄岳をめざした。
 雄岳(905m)山頂には式内社葛城二上神社が立つ。岳の権現とも、「天の二上」が降臨した天の玉座に視鏡を奉る神社とも言われてきた。また四方の村々に水を配分した山神とみなして、岳郷の民人が信仰のよりどころにした山上社でもある。
 だが、雄岳の見どころは24歳の若き生涯を閉じた大津皇子の御霊であろう。天武天皇が御行して殞宮の儀式の最中、持統天皇がわが子皇孫皇子を庇護するゆえ

わっさか沢歩き [録] 鈴鹿編
 わっさか沢歩き [録] 奥美濃編
 同人わっさかわっさか沢歩き 四六判・二〇〇〇円
 鈴鹿、奥美濃、白山、加賀、越前、若狭、待望の白山山系を含む44の名渓を紹介!!
 前夜祭日帰りの沢を、前編近畿編に続いて詳細な行図、写真と共に楽しく案内。

★表示の価格は消費税を含みません
 ナカニシヤ出版
 京都市左京区吉田二木松町2
 ☎075-751-1211 〒606-8316

に、墓穴を企てた賊徒として、無実の汚名をきせられて大津皇子は処刑された。わが身にふりかかると不幸をさとしていた大津皇子は、伊勢へおもむき、伊勢斎宮である姉大佐皇女と会う。その日、姉弟は今生の思い出に何を語り明かしたのであろうか。
 我が背子を大和へ還るとき夜ふけて
 聴察にわが立ち濡れし
 (巻一105)

運命にあらがうすべもなく、姉弟に別れの明け方はめぐりくる。恋人のように愛しい弟との別離の時、涙をぬぐう姉若の姿がそこにあった。
 うつろみの人にあるわれや明日よりは
 二上山を弟世とわが見む
 (巻一165)

この「大津皇子を二上山へ移し葬る時」に、大佐皇女の哀しげ傷みで作らる歌「は、万葉集をかざる珠玉の悲歌といえよう。二上山をあの世の的とみた、この世にいた姉も歴史のなかに埋もれて長き年月は過ぎた。今の時代に、雄岳を大津皇子とするなら、雄岳は、それを見守り続ける姉大佐皇女と想定することで、その魂の宿しとなるのだろうか。



大池から鳥谷口古墳と二上山を望む

前方に金剛・奥城の姿を眺めつつ、真夏のような日差しをのながれ、雄岳と雌岳を精ぶ道から帰ることにした。馬の背まで戻ってくる、西は二上谷の道でダイトレ起点碑を経て屯積峠に続く。きょうは東へとり、龍谷の道を祐泉寺にくぐる。聖徳太子が拓いた岩屋道と出合おうと、林道を歩き二上山の東山麓の当麻町へおりにいった。

当麻池を過ぎると当麻山口神社に近く、右手に人工溪流がある初田川園地を、左手には草地に囲まれた鳥谷口古墳を見る。この古墳は、最近の考古学研究によって、本宮の大津皇子御葬と推定されているものだ。鳥谷口古墳の下にある大池の向こう側に知り、水鳥の泳ぐ水而と対岸の水面上デッキ越しに、二上山を見上げる。
 それは水と森林と山とが一枚の絵巻書になる忘れられない風景であった。雄岳と雌岳の大きい双翼に抱かれて、鳥谷口古墳の背後の森と皇子の眠る丘が山裾の中間に位置し、逆三角形の構図を浮かび上がらせていた。
 神皇の伊勢の田にもあらましを
 なにししか来けむ君もあらなくに
 (巻一163)

なぜ伊勢の國から出て来たのか、何をしに来たしまったのか、あの人のいないこの京へ、と大佐皇女は涙に浸る。だが私たちの立場は、ただ哀しむ娘いた皇女とは異なる。
 私たちは二上山への旅を果たせば、時代を越えて皇子の面影に触れることができる。ある意味では深い喜びさえ感じる旅になるのだ。二上山、その美しき双翼の峰は、千年の物語を秘めながらも逆光のなかに眩しくきらめいていた。
 (平成11年7月15日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 近鉄上ノ太子駅(40分) 孝徳天皇陵(30分) 二上山登山口(40分) 雄岳(25分) 雌岳(15分) 馬の背(40分) 鳥谷口古墳(30分) 近鉄当麻寺駅
- ▲地形図▼2万5千11大和吉田・古市
- ▲問い合わせ先▼
- 太子町役場庶務課 0721(98) 55255
- 竹内街道歴史資料館 0721(98) 32666
- 近鉄天王寺駅 06(6624) 03882

晩秋の雑木林が美しい

御池岳南方の尾根

鈴鹿

松田敏男

ヒキノと呼ばれる小さな山が中程にある尾根を北上して、パスで登山口の紅葉尾に戻るという計画を大山さんが立てた。その尾根は御池岳から南へ高度を大幅に落しながら連なっているもので、主稜線からはずれた静かな山域である。私は以前にヒキノだけは西側から往復したことがあるので、鈴鹿特有の二次林の乾燥した明るい尾根歩きは、さぞ楽しいことだろうと思いを馳せて出発した。

集合場所のJR山科駅に田辺さんを含めた三人が集まった。快晴である。車を走らせながらリッターの大山さんは、「いい天気だから御池岳に変更しませんか。上に出たら雪の白い山が見えるかも

知れないし、以前に「山と渓谷」に案内が出ていたので行ったんですが、雑木林の美しい尾根があるんですよ。ヒキノの尾根は主稜線より低いので遠い景色は望めませんから、また次の機会ということにして、二度目ですけど構いませんのでそちらにしませんか」と言われた。私たちは大賛成である。大山さんのガイド的サービスピリットが手伝っているのかも知れないが、初めてのルートを変更してまでも行きたくなるほど魅力のある所なのは間違いないさぞうだ。

二週間前の日曜日にも入山ルートとなった永源寺ダム湖沿いの道に入った。この道は毎年数回ずつ山へ吸い込まれていく

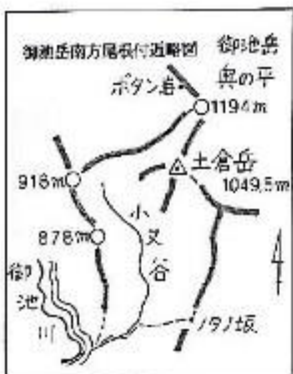


登り道より御池岳を極く(左ポタン岩、その下の尾根が登山コース)

通しのきく尾根の上に出た。標高800リ計あたりだろうか、尾根がはっきりしてきて歩きやすくなった。下草はあるが歩きのにわずらわしい程ではない。

小又谷側の斜面の方から犬の吠える声と、ガナガナと獣の走る音が聞えた。追われているのは鹿かあるいはカモシカか。とにかく逃げ通せと私は願った。

鹿もカモシカも増えているという。里に下りてきたり、植林の食害が増大しているのと同じ。だから駆除するのだそうだ。カモシカは特別天然記念物に指定されているにもかかわらず、人間により殺戮が繰り返されていく。カモシカや鹿が殺されても人間の新聞には載らない。カモシカや鹿が人間に下りてきて、あるいは怪



我をして保護されたのち山へ帰してやるといった、人の心の温かさを語り記事は載る。しかしそれは獣の獲れる領域が人間によって狭められた絶滅に近い地域の話にすぎない。日本全国の多数の都道府県では毎年殺し続けているのである。そのあとの肉や皮はどうなっているのだろうか。人間が特別天然記念物に指定した獣の死骸の行き先は、私は以前鈴鹿山脈上石津町時山で見たカモシカの死体の姿が目に見えつつ離れない。軽トララックの荷台の上に無造作に放り置かれていた赤く血に染まった子どもカモシカの姿だが、それがどのような理由によるものかを知りたいため、役場に現場写真と手紙を送った。しかし、何度も連絡をこらなないと返答はなかった。

突然目の前に先程吠えていた犬と思われ一匹がこちらを向いて立っている。いっこうに吠えない。それどころか少しよけている感じである。私たちがつかず離れずついてくる。どうも獲物を逃がしたらしい。思いもよらない大連れ登山ということになった。

918mの地点で尾根は二つに分かれていた。ここは鈴鹿国定公園の境界線で、

その関係から自然林の美しさが際立つようになった。冬至まであと一ヶ月足らずの、斜めからの日差しが樹林を輝かせてくっきりとした影をつくっている。光に浮き立つ森の美しさが格別である。

しげんに足どりが遅くなった。大山さんに「松田さんの歩調と自然の美しさと反比例の関係ですね」と言われた。田辺さんはしきりに「いい所ですねえ。いい所だ」と連発している。東へ向きを変えて進むと左手上部に木々の間から岩

松田敏男 山の版画展

11月30日(火)～12月12日(水)・月曜日休廊
正午～午後8時

平安画廊 中京区寺町通三条上る
電話 075-231-0694

「雲湧く分岐点」-南アルプスの四季-
(板に漆によるシルクスクリーン5点と5編のエッセイ)を中心に約20点展示

アミューストラベルの山歩き

全てのコースで、経験豊富な自社社員のツアーリーダーがご案内いたします。
初心者の方や中高年、女性一人様でも安心してお申し込み下さい。

屋久島 宮之浦岳と縄文杉 11/20(土)~23(火・祝) ¥132,000
歩いているだけで分かる圧倒的な屋久島の自然、その自然を感じに行きませんか？

宮之浦岳と縄文杉・開聞岳 12/29(水)~1/2(日) ¥141,000
年末の休みを利用し、宮之浦岳と開聞岳そして縄文杉を訪ねる欲張りなプランです。

2000年のご来光はどこでみよう？

東京都最高峰 雲取山 12/30(木)~1/1(土) ¥62,000
東京の最高峰として人気の山。朝日に輝く富士山を拝み奥多摩湖へ下ります。

開運山と大菩薩嶺 12/31(金)~1/2(日) ¥72,000
縁起の良い開運山からは富士山とご来光が大迫力で見えます。

北八ヶ岳 北横岳 12/31(金)~1/1(土) ¥58,000
雪山・ご来光登山の決定版！雪山が初めての方や登山初心者の方でもOKです。

木曾駒ヶ岳 千畳敷カール 12/31(金)~1/1(土) ¥68,000
ホテル千畳敷に宿泊し、千畳敷カールからご来光を楽しみます。

ヒマラヤハイキングと遊覧飛行 8日間
アンナプルナ山群の眺められるダンプスから2000年の日の出を楽しみます。
エベレストの遊覧飛行も楽しめます。 12/29(水)~1/5(水) ¥448,000

キリマンジャロ登頂とサファリ 11日間
アフリカ大陸最高峰。憧れのキリマンジャロへ！高度順応日をもうけたり、パルスオキシメーター、ガモフバックと高山病対策も万全です。また、サファリも楽しみです。残席わずかとなっております。お急ぎ下さい。2/10(木)~20(日) ¥498,000

ミルフォードトラックとマウントクックハイキング 12日間
ニュージーランドを心ゆくまで満喫できるコースです 12/5(土)~16(木) ¥478,000

ニュージーランド マウントクックハイキング 6日間
マウントクック村でゆったりと2泊 12/9(木)・1/13(木)・2/10(木)発 ¥208,000~

日帰りから海外までのパンフレット(84ページ)があります。ご請求下さい。(送料無料)
アミューストラベル株式会社 06-6265-3303
運輸大臣登録旅行業第1366号 (社)日本旅行業協会正会員 JATA ボンド保証会員
〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館 8F FAX 06-6265-3306
E-mail amtosa@po.teleway.ne.jp http://www.amuse-travel.co.jp



下山道より藤原岳を望む

林の道。鈴鹿山脈一級山の道だ。春ならさぞかし美しいだろうと思われるイワウチワの群落があちこちにあった。急な登りが少なかったのち、広大な御池岳の山上の一角に出た。背丈以上のササ海である。かすかな踏み跡を見つけてササやぶに突入する。後ろから本当に哀れを誘うような犬の鳴き声が繰り返して聞えた。私たちの姿がササ海のなかに長く埋没したままだから、あきつめて知るだろうと思っただ。所どころササが切れて、見通しを立ててまた突入という連続だった。やっと

壁が望まれるようになった。ちよっとした高山的な景観である。ボタン岩と呼ばれる岩壁だ。青空に岩壁を見上げるの雑木

ササやぶを抜けきって、樹林と白い岩との混ざったカルスト地形の斜面を登りつめると、そのあたりでは最も高い地点に出た。たぶん地形図の1194訂地点だろう。御池岳奥の平と呼ばれる所と思われる。残念ながら山頂は見えなかったが、すばらしい山頂だ。まずはビールで乾杯。冷えたビールののどごしの爽やかさ。驚いたことに先程の犬が静かにやってきて、もはや距離を置いて寝てしまった。昼食中もおとなしくしている。雑犬としてしっかり訓練されているようだ。田辺さんが情にほだされて菓子のごちそうを投げてやる。それはすぐさま食べたが、決してそれ以上を要求して近づくことはしなかった。下山は土合岳経由だ。草原の兩端地点に立てば、壮大な眺めがあった。足元が草付の壁になっていて、谷底から向かい側へ藤原岳が美しく立ち上がっていた。午後6時の光が黄金色に山林を輝かせ、谷の切れ込みは深かった。山が幾重にも連なると奥に雨乞岳や御在所岳などが望まれる山深い風景は、やはり鈴鹿山脈第一級の

地点だった。

急坂をくだりきると雑木林に入った。土倉岳は登ることもなく滑りた。土倉岳という名前が正しいのか土倉岳と言うべきなのかは分からないが、私にとってはいい所だったからそれでいい。もうひとりで四人連れとなった山行なので、大山さんが犬を含めた全員の写真撮影をした。こちらの尾根は登りに歩いた尾根ほどの美しさはなかった。

ノタノ坂に着いて小又谷への明瞭な道を見つけた。林道に出た所で犬は立ち止まって私たちを見送るような、または思案しているようにも見えた。しばらく歩くとその犬の飼い主らしい人の車が停車していた。さぞかし叱られることだろう。

私たちは通い慣れた病の道をもた下界へ戻るしかなかった。この満足した気持ちが一週間持続することを願いながら。(平成10年11月29日歩く)

△コースタイム▽
御池川小又谷分岐(4時間) 御池岳奥ノ平(2時間) 小又谷登山口
△地形図▽2万5千1電ヶ岳・旗立

自然観察山行

双六岳・三俣蓮華岳

鷺見守康

北アルプス

双六岳頂上の隆状土



90年の夏は、家庭の事情で7・8月の予定が見通せず、私にとって恒例にもなってきた新ハイ例会による北アルプスの縦走を中止したが、自然観察会活動の関係で双六岳だけは何とかも歩く必要があった。以前から同行を依頼していたKさんと7月に入って打ち合わせを重ね、双六岳・三俣蓮華岳の1泊2日コースで山行することになった。

マイカーでの出発は深夜で、私の住む各務原市を午前2時発。東海北陸自動車道を郡上八幡まで走り、郡上八幡からせせらぎ街道を経て高山市へ、さらに平湯温泉を抜けて新穂高温泉に到着したのは、朝の5時であった。

一日目

駐車場で朝食を済ませ、5時20分過ぎに歩きます。空には雲が多い。それでも西の方がかすかに明るい。

今回初めて気づいたことであるが、左俣林道では、五ヶ所で風穴が見られた。歩いて行くと前方路の上に扇形的に霧が発生しており、近づくにつれ冷気を感じる。翌日の復路に確認したのだが、標高1300m程度の林道にもかかわらず、風穴付近の山側斜面にはシラタマノキの群落やゴゼンタテバナなどの高山植物があり、大変驚かされた。

1時間はどわきび平に若く、私のザックは60・65歳の新製品であり、容量の大きくなってしまった。鏡立小屋で昼食をとって1時間休憩。その間に悪寒にマツサイジをして再出発した。

鏡平を過ぎ、弓折岳へのトラバース道になると高山植物が見せるようになった。天気が良ければ槍・穂高連峰の全景が目前に展開し、高度を上げるにつれ、その偉容に圧倒されるところだが、雨とガスで全く展望は得られない。

弓折岳の稜線に達して笠ヶ岳への道を分ける。稜線上は雪渓や雪田が多く残っており、北アルプスらしい湿性のお花畑が一面に広がる。この時期の花は開き始めたばかりで、ハクサンイチゲ・シナノキンバイ・ミヤマキンボウゲなどのすばらしい花卉へハクサンイチゲとシナノキンバイは花卉のように見えるが、片は生き生きと精一杯開かれ、色合いはみずみずしく輝いている。

「これなんか、今開いたばかりですよ」と、Kさんが指差したシナノキンバイの一株は、いかにも初々しくやわらかな開花だ。ハクサンチドリ・コイワカガ



らルート変更され、新しく切り拓いた道のため黒土のぬかるみ状となっていた。雪は次第に厚くなり、とうとう雨もぼらついてきた。

植物など自然観察しながら歩いていく姿は、花好きの登山者に興味を持たれるようで、花の名など訊ねられる。解説を加えて植物名を教えるKさんの横で、私はひたすら「生徒」として聞き入る。

大ノマ乗越との分岐点に達する頃から、私は脚部に不安を感じるようになった。両脚にこむら返りのきざしが出てきたのだ。やはりザックが重すぎるのだろうか。Kさんに事情を話してベースダウンし、慎重に歩を進めながらも、私は自信を失いさうになっていた。雨も本格的になっ

ミ・キバナシヤクナゲも多く、色の鮮やかさはこれまで見たこともないほどで、まさに「匂」ともいうべき高山植物の輝きを教えられたような気さえた。

二日目

目が覚めると外は濃いガスであった。「やっぱり双六とは相性が悪いのか……」と心のなかで呟く。私たちはこの山行に幾つかの課題を抱えてきた。一つは双六岳の構造土を観察し、写真に撮影すること。また一つはクマネヒカゲやミヤマモンキテウウの撮影、さらにKさんはライチョウの撮影も目的としていた。しかし、ガスが多い天候で目的達成がやうい。気持ちはどうしても沈みがちになってしまいが、予定通り三俣蓮華まで往復することにした。早朝の柱路は双六岳を控えて進む、復路は太陽が高くなった時刻に頂上部を歩けば、高山線にも出会いや



双六岳頂上上の条線土

「これなんか、環状土(環状土)とでもいいでしょうね。足下の岩石模様を見つめながら、Kさんも私も通信がもてない。多分、環状土としての形が崩れてしまったのだろうと話し合っている二人の境界の片隅を小さな黒っぽいものがよぎった。

「タカネヒカゲだ!」いち早く気がついたのは、無論Kさんである。お互い口には出さなかったものの、内心では二人とも今回の山行での出会いを誇めかけていた。しかし、ついにタカネヒカゲを発見できたのだ。天候もちやうど薄日がさしてきて、私たちの気持ちは一気に高まり、Kさんは地面に這いつくばるようにカメラを構え、シャッターを切り続ける。チョウは羽化したばかりでまだ動きが鈍いため、逃げ出すこともない。Kさんによれば、どうも羽化がうまくいかなかったようで、左右の羽の大きさに違いがあり、それも原因として敏感さが低いようだった。タカネヒカゲは体風状態になると上唇を閉じてしまうが、上唇をしゃかりく開くと意味なジャンノメ・チョウ科のチョウとも思えぬ美しきがある。ひとしきり、タカネヒカゲを観察、撮影して、心に残るのは条線土(環状土)だけとなった。気分が向上し、「何とかな条線土も見られるといいですね」と私が言ってもなく、何と二人ほとんど同時に条線土を発見した。

実際にすばらしい条線土だった。細かな石と比較的太きめの石とが整然と列をつくり、それが広い岩面帯に鮮やかな模様をついたのは、無論Kさんである。お互い口には出さなかったものの、内心では二人とも今回の山行での出会いを誇めかけていた。しかし、ついにタカネヒカゲを発見できたのだ。天候もちやうど薄日がさしてきて、私たちの気持ちは一気に高まり、Kさんは地面に這いつくばるようにカメラを構え、シャッターを切り続ける。チョウは羽化したばかりでまだ動きが鈍いため、逃げ出すこともない。Kさんによれば、どうも羽化がうまくいかなかったようで、左右の羽の大きさに違いがあり、それも原因として敏感さが低いようだった。タカネヒカゲは体風状態になると上唇を閉じてしまうが、上唇をしゃかりく開くと意味なジャンノメ・チョウ科のチョウとも思えぬ美しきがある。ひとしきり、タカネヒカゲを観察、撮影して、心に残るのは条線土(環状土)だけとなった。気分が向上し、「何とかな条線土も見られるといいですね」と私が言ってもなく、何と二人ほとんど同時に条線土を発見した。

山と高原地図シリーズ

定価750円(税込)

1 北阿蘇山(阿蘇山)	35 白馬山(阿蘇山)
2 二ツツ 岩山	36 徳島山(阿蘇山)
3 大雪山(阿蘇山)	37 駒ヶ岳(阿蘇山)
4 十和田湖(阿蘇山)	38 上高地(阿蘇山)
5 八幡平(阿蘇山)	39 奥只見(阿蘇山)
6 奥只見(阿蘇山)	40 奥只見(阿蘇山)
7 奥只見(阿蘇山)	41 中央(阿蘇山)
8 奥只見(阿蘇山)	42 中央(阿蘇山)
9 奥只見(阿蘇山)	43 中央(阿蘇山)
10 奥只見(阿蘇山)	44 奥只見(阿蘇山)
11 奥只見(阿蘇山)	45 奥只見(阿蘇山)
12 奥只見(阿蘇山)	46 奥只見(阿蘇山)
13 奥只見(阿蘇山)	47 奥只見(阿蘇山)
14 奥只見(阿蘇山)	48 奥只見(阿蘇山)
15 奥只見(阿蘇山)	49 奥只見(阿蘇山)
16 奥只見(阿蘇山)	50 奥只見(阿蘇山)
17 奥只見(阿蘇山)	51 奥只見(阿蘇山)
18 奥只見(阿蘇山)	52 奥只見(阿蘇山)
19 奥只見(阿蘇山)	53 奥只見(阿蘇山)
20 奥只見(阿蘇山)	54 奥只見(阿蘇山)
21 奥只見(阿蘇山)	55 奥只見(阿蘇山)
22 奥只見(阿蘇山)	56 奥只見(阿蘇山)
23 奥只見(阿蘇山)	57 奥只見(阿蘇山)
24 奥只見(阿蘇山)	58 奥只見(阿蘇山)
25 奥只見(阿蘇山)	59 奥只見(阿蘇山)
26 奥只見(阿蘇山)	60 奥只見(阿蘇山)
27 奥只見(阿蘇山)	61 奥只見(阿蘇山)
28 奥只見(阿蘇山)	62 奥只見(阿蘇山)
29 奥只見(阿蘇山)	63 奥只見(阿蘇山)
30 奥只見(阿蘇山)	64 奥只見(阿蘇山)
31 奥只見(阿蘇山)	65 奥只見(阿蘇山)
32 奥只見(阿蘇山)	66 奥只見(阿蘇山)
33 奥只見(阿蘇山)	67 奥只見(阿蘇山)
34 奥只見(阿蘇山)	68 奥只見(阿蘇山)

昭文社の「山と高原地図」は年毎版として毎年春に発行されます。この行の情報はなるべく最新版をご利用ください。昭文社の「山と高原地図」へのお問い合わせは、昭文社にお電話ください。また、最新情報をお知らせいたします。

昭文社 株式会社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3262)2141(代)03(3262)8238

支社 大阪市淀川区西中津6-11-23
電話06(5333)5721(代)06(5332)0011

営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・福岡・岡山・新潟
金沢・静岡・名古屋・京都・広島・福岡

「六六地帯も花が実に多い。鮮やかに咲き誇る花には、ハナカミキリやゾウムシの仲間が多い。道は所どころ雪渓や雪田からの融雪水が流れ、心細く風が吹く。ガスの多い日なのでライチョウの出現を期待したが、なぜか気配さえ感じられない。その代わりと言うべきか、イワヒバリのさえずりが響き渡り姿もしばしば見かけた。Kさんから幼鳥が母鳥について歩いてると教えられ、なるほど確かに身体の大きさが違うと観察していると、幸いにも母鳥が幼鳥に顔を口移し

ている場面が目撃できた。一瞬カメラを構えようとしたが写真には遠過ぎた。時々空が明るくなり、視線を上げるとガスの切れ間から表銀座の山並が望めた。「あれはどこ山でしよう?」というKさんに、この時は、私が一つ一つのピークを説明する。

「こんな感動する地形を見たのは初めてです」というKさんの言葉通り、私たちはすっかり興奮し、いつまでも感動の余韻にひたっていた。「高山植物も高山蝶も構造土もすばらしい。双六はいい山だ」と私たちは口々に唱え、充実した二日間を終えて下山した。

五島列島・中通島の1等三角点

三王山と番岳

多摩雪雄

西九州

平家落人とクリスチャンの島々
五島列島の1等三角点は北の宇久島に城ヶ岳(2558・633)、南の福江島に翁頭山(429・313)、稚島に致彦山(325・883)、そして南北に長い中通島には三王山と番岳の二点がある。

GPS(電子基準点)は宇久島・若松島の各一点、福江島の二点を探索した。主な教会は福江島で四ヶ所、中通島では五ヶ所であったが、最後に訪れた鯛ノ浦は敷地も広く施設が整っており、ルルドの泉もあって美しい教会であった。温泉は福江島に三ヶ所あるうち、コンカナ王國の鬼活温泉は二種類あって500円。荒川温泉の元祖豆谷温泉は2500

円(右ケンなし)。双方ともおすすすめ。宿泊もできる上宿もある。

福江島の見所は、石田城・武家屋敷・総瀬公園・鬼岳・魚津ヶ崎(空海開港跡)・碑木庄(空海開港跡)・万葉公園・大瀬崎園地等。明星院はぜひ拝観したい。中通島の見所は、花の展望台・米山展望台・奈良尾神社のアコウ大樹(樹齢六百年)・平家塚・赤岳断崖・矢野崎・矢倉岳展望台・鯨見山等。

宇久島最古の毘沙門寺には第42代の住職がおり、二百年の寺歴がある。壇ノ浦で敗走した平家盛以下七代の祭は島の大寺東光寺にあり、五島氏の祖である。福江島のレンタカーは10人乗りよりも

船等を飽かずに眺めたりした。奈良尾神社のアコウ大樹にも驚嘆した。

三王山

時間が早かったせいかな奈良尾温泉は入浴客もなく、われわれだけの静かな時を過ごした。夕食まで隣接する日本庭園を散策したが、時情をふくらませてくれた。

翌五日目、均整のとれた真っ白い中ノ浦教会を拝し、三王山入口で下車した。



三王山の1等三角点



きょうもおたやかな日曜日である。ストレッチ体換後、4200計と指示された林道を三王山へ向かって西海国立公園に一步を踏みだした。

広い舗装路だが、平成4年11月に訪山した稲葉克己さんの紀行文に、「木の枝が垂れ下っていたり、バスが徘徊する場所がない」とあった広葉樹とシダの明るく気持ちよい道をゆっくり歩いて行く。将来整備するのであるが、木の枝の垂れ下りこそないが、舗装には小さい亀裂が、二ヶ所あるだけでバスは通れなくはない。2万5千圓上「荒川」の川の字の上部でリターンできるが、バスはやはり人口までがよいだろう。

舗装の切れた所が地図上の西へくだる破線道の始点で、東から北へ階段で登って行く歩行登山口で指導標もある。乗用車なら三、四台駐車できるし、地産の林道はなおも北行して行く。

樹林のなかを登って行くと、頂上直下に五島一ノ宮の山王神社がある。十二坪(三間×四間)の拝殿は板葺り、清潔に保持されている。登山口の新しい説明板によると、「比叡山日吉山土の分霊を祀る。最澄が第十六次巡遊使船第二船で

大きいのがなく、大型免許所持者一名で運行したが、中通島には五人乗り以上はないので、中興観光バスを三日間チャーターした。

福江港から1時間40分後に中通島の奈良尾港に上陸したのは四日目の13時40分。ガイド付きのバスで若松大橋を渡り、若松島に入ってすぐの若松中学校の校庭脇のGPS960692(平成8年設置)を探訪。頭のいいサプリーターの秋田謙一から西暦年の末尾の数字2をプラスすれば平成年になります、と教えられる。即ち、頭の二けたが西暦年である。

付近の住民が怪訝な顔で「電気が点かない」と頂部の硝子円球を見て不思議そうに言うので、ガイドにGPSの用途を概略説明すると、名所がひとつ増えたこと大喜び、運転手と本体に抱きついてしばらく離れないでいた。

若松大橋を挟んで中通島側に上中島公園、若松島側には花の展望台と頂の展望台があり、橋のたもとから花木、草花に送迎される遊歩道が瀬戸近くに通じている。

中通島に戻って米山展望台から今夜の宿所を確認したり、港に入ってくる高速渡るとき、この山王山雄嶺で途中の平安無事を比叡山日吉山王に祈願し、延暦二十四年(805)唐より帰国し、弘仁五年(814)御社に、三之浦白鳥神社には代僧により観音像を奉安し、最澄自身は山王山を訪れて山王神を創祀した」と伝えられている。

(註)非常に残念な思いが残った。福江島では白鳥神社参拝を予定し、時間には十分あったのだが、神仏に興味のない若いドライバーは素通りしてしまった。この事跡を知っていれば、有無を言わず参拝道に進入させたのだが。

鉄筋コンクリートの大きな展望台にコンクリート段で登ると、五島の島々の連なりが手に取るように眺められ、麓下にはコンクリート車数台と現在使用できないトイレ跡もあり、平成元年7月に更新した1等三角点柱石は55センチも露出している。地中にはわずかに埋設されている。地中にはわずかに埋設されている。地中にはわずかに埋設されている。地中にはわずかに埋設されている。

ここから南東へ2キロの雄岳を含めて三王山と総称するので、この峰を雄岳という。標高439・183。



番 岳 山 頂

真三ノ浦天主堂で一服してから、遺唐使史跡の御舟橋と平家塚を山際の住宅地に拝した後、奈降湾に面した青砂ヶ浦天主堂からわずか戻って東海岸の似首に出て、大浦教会を訪れたが、樹草の茂るなかで廃屋となっていた。この島の教会は三十ヶ所、神父は10名なので、一人が三ヶ所受け持って巡回布教している。

番岳

翌日の予定であったが、地元運転手のおかげで時間に余裕ができたので番岳駐車場に乗り入れる。車道終点は山頂東側だが、北をぐるりと廻り込んで西側に出

る。この林道はまだ南にのびているがトイレのあるこの地点に中止めがあり、園地案内図に従って低い段をゆるく登って北の椿広場との鞍部に立つ。南にわずか登れば草地の頂上に鉄筋コンクリート二本柱と屋根だけのあずま屋があり、コンクリート卓がレンガ敷きの上にあって、一等三角点標石もレンガの中から30センチも浮き出ている。磁北は240度、44.2・59分。明治期の測量記録以外には無い。

草丘を南にわずかたどれば、遺見養所跡の展望台がある。江戸末期、外国の進取に備えて福江島に幕政最後の築城となった海上浮城の石田城を工島藩に命じ、この中浦島と宇久島に監視所を設けたのである。それほど広闊な眺めが得られる。

五島列島第一の高峠も、現在では車でわけなく登れ、この大峠に酔いしれることができるのは、山やにとっては果たして幸せなのであろうか。

阿麓の国民宿舎「新うおのめ温泉荘」はおすすめの宿。部屋・喫食・浴室・料理・接客すべてよろしい。

翌日も大快晴だが北西の強風で、赤岳断崖と新設の水族館から奈降湾を挟んだ

向こう側の矢野崎展望台の草丘では立っでおれない程であった。

日本に初めてルルドの泉を設置したのは福江島玉之浦の井持ノ浦教会である。水道管をひねって出てくる水ではありがたみが平蔵する。が、ここ有川町綱ノ浦教会は聖女ベルナデッタ像の足下からルルドの泉が湧き出してくる。

濱州島まで見るといふ矢野崎マリンドリア展望公園は教会背後の山頂にある。

津近くの鯨見山は鯨の見送所であった。山頂には近代的な望楼があり、鯨供養碑と鯨骨等がある。

午後の高遠船で宇久島に渡ったのは六日目であった。

(平成11年4月初旬歩く)

- △参考タイム▽
- 三工山林道入口8・50―林道終点登り口10・05
 - 15―三工山10・50
 - 11・15―林道終点11・45
 - 12・20―林道入口13・15
 - △名所巡行△
 - 番岳駐車場15・45―番岳15・55
 - 16・10―番岳駐車場16・20
 - 新うおのめ温泉荘16・35(泊)
- △地形図▽5万1有川・立串

連載

比良を歩く ⑬

平から折立山・蓬萊山

秦 康 夫

きょうは、早から権現山を経て蓬萊山への平凡なコースだが、途中人の訪れることの少ない折立山に登ること、久しぶりに金ピラ峠からゴンドラ山麓駅への道を楽しむのである。

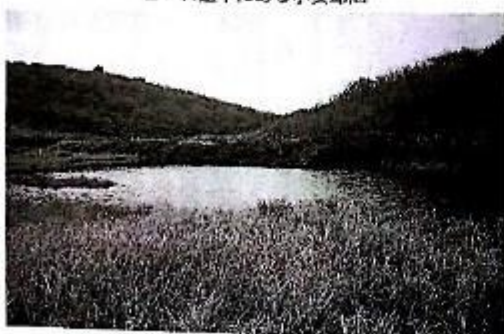
秋のハイキング・シーズンとあって二便増発の京都バスは、定刻よりやや遅れて8時40分頃平バス停に到着した。いつものように朝市のテントがあり、クリタケ・ムカゴ・シメジューズなどが並んでいる。メンパーの何人かは名物のトチ餅を買ったようだ。

バス道を少し引き返して、権現山登山道入口でメンパーチェックを済ませ、総勢19名が林道を登り始めた。10分ほど歩

くと坂道があり、登山道は林道を離れて、ドン谷沿いに左の山道に入っていく。ずっと杉の植林帯のなか急な登りが続くが、ちょうどどこかあいの所に水場があり、ここで休憩した。あまり冷たくないがおいしい水だ。真っ白いスギヒラタケが苔むした杉の切り株に群生している。昼食時の味噌汁の具としてに絶品。少し搾みんでザックのポケットに入れる。

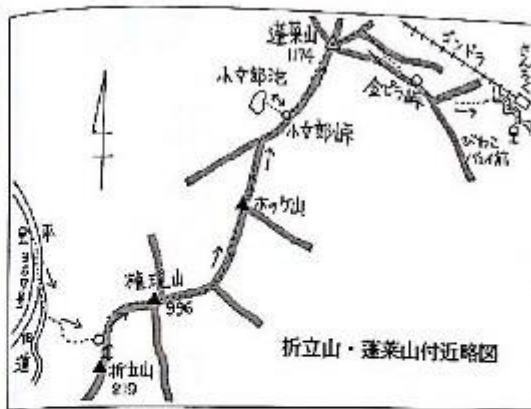
谷道を離れるとはどなく、クマザナに聞かれたアラキ峠に到着。空身になって、折立山をビストンすることにした。登り口はササにかくれ見えだが、権現山とは反対の南の方向にササを分けると、踏み跡が見つかった。なおも足探りで進

コース途中にある小女郎池



めば、やがてササのなかに小道が現れる。初めは膝の高さのササがそのうち腰あたりの高さになるが、道は鮮明で迷うことはない。ただ急坂のうえ粘土質のため滑りやすいのが難点だ。鹿か猪か、動物が滑りおりた跡がある。

登り始めてから10分足らずで折立山に着いた。標高は819分。湖西線の唐崎あたりから眺めると権現山の左に、右の



雲仙山と同じくらしい高さの姿のよい山が見えるが、これが折立山だ。実際登ってみても雲間気が雲仙山とよく似ている。頂上はわりと広い。木立にさきぎられて琵琶湖方面の見晴らしはよくないが、これから登る龍現山が間近に仰げる。ゆっくり休息するには地好の静かな山頂である。リョウブの木があり、さっそくよじ登って、高い所から眺望を楽しむ人もい

た。アラキ峠に戻り龍現山に向かう。小鳥のさえずりを背中に聞きながら、杉の植林帯のなか急登が続く。20分ほどがんばれば右に展望が開け、カラマツが出てくると頂上は近い。いま登ってきた折立山を眼下に見下ろしながら、ゆっくり歩いて龍現山に着した。さすがに展望はすばらしい。目の前に大きく樹たわる琵琶湖。ふり返れば、童子山を始めとする京都北山の峰々が西から南方向に連なり、その端には京都の市街地がばやっとかすんでいる。ということは、京都の町中からもこの頂が見えるはずだ。北に続くのはこれから向かうホッケ山から蓬萊山への長い稜線だ。小登後出発。いままでの登り一方と違って稜線歩きは快適だ。ササの刈られた歩きやすい尾根道をどんどん北に向かう。いつも弁当場にしている水分神社の小さな社を横目に通る過ぎ、ホッケ谷道への分岐を経て、いよいよホッケ山への登りが始まる。けっこう急な登りだ。琵琶湖方面の展望が開けてくると登りもゆるやかになり、リンドウを愛でるゆとりも出てくる。距離は短い、ホッケ谷分岐

から頂上まで約20分かかった。ホッケ山から東にのびる稜線は、雪のあるときもないときも、何度か登り下りに利用したことがある。5、6年歩いていないので、休憩の時間を利用して様子を見にのりてみた。ササは以前に比べると生え込みがきつくなったような気がする。背丈以上の太いササを両手でかき分けたり下をくぐったり、ササの群生を過ぎても雑木のブッシュがひどい。相当な脚力が必要である。7、8分であきらめてバックした。このルートは雪のシーズンのほうが楽である。

前方に蓬萊山を眺めながら縦走路を北に向かう。小さなピークを過ぎて、二つ目のピークには三体のお地蔵さんが並んでいる。ここをくだれば小女郎峠。峠から小女郎池に行く途中、人が多いのにびっくりした。いつもは静かな小女郎池にも登山者があふれている。訊いてみると、名古屋から名鉄バス八合を連ね、400人程来ているという。池の周辺はどこも満員で、昼食場所を確保するのに苦労した。朝、摘まんできたスキヒラタケ入特製キノコ汁や、なべ焼うどんならぬコッヘ

ル焼うどんなどのごちそうで1時間ほどゆっくりし、小女郎峠から蓬萊山へ登り始める。満腹の重い体を抱えての登りはしんどかったが、食後の腹ごなしにはなった。広い蓬萊山の山頂はいつ来てもゆつたりした雰囲気味わえる。先程までのさばっていた雲も、今は小さくなって青空にその席を譲り、360度の展望はさすがに一等三角点の山である。のんびりと20分ほど休憩し、グラススキーのゲレンデ横から金ピラ峠への下山ルートに入る。ガタガタの山道が続く。左の谷の崩壊がすごい。立木や岩を巻き込んで一直線になだれ落ちた跡がガタツとえぐれている。こわごわのぞいた目の先に一輪のアザミが鮮やかに飛び込んできた。金ピラ峠で金ピラ谷におりる道と分かれ、左のゴンドラ山麓積への尾根道に入る。植林帯のなか、なだらかな道をぐんぐんぐんぐん、自然林が現れ始めるころ、はるか下方にゴンドラ駅の様子が見えてきた。登山地図ではキキザの線になっていて急勾配のように見えるが、実際はそれほどではない。琵琶湖側へ下山ル

トとしては一番歩きやすいのではないかとと思う。道は屋根をはずして左に折れ、谷に向かってくたさる。最後の荒れ道を抜けるのと打見谷におり立った。「蓬萊山登山口入口」の案内板がある。対岸に渡って荷物運搬用リフトの下をくぐり、車道を歩くこと10数分でびわこバレイ前のバス停に出た。JR志賀駅行きのバスは1時間に一本程度しかない。待ち時間がかなりあるのでもこで解散し、バスを待つ人と歩く人に分かれた。志賀駅までは歩いて約25分の距離だった。(京都北山グループ例会、平成10年11月1日歩く)

▲コースタイム▼
 平バス停(45分)アラキ峠(10分)折立山(10分)アラキ峠(30分)龍現山(35分)ホッケ山(30分)小女郎池(30分)蓬萊山(30分)金ピラ峠(1時間)蓬萊山登山口(15分)びわこバレイ前バス停(ゴンドラ山麓駅)
 ▲地形図▼2万5千1花背・比良山
 明文社「比良山系」

【この花・この草】
 マタタビ (Actinidia polygama)
 マタタビ科
 「猫にマタタビ」……病気の猫にマタタビを煎じたり粉にして与え治す。これはネコ科の動物に対して興奮作用があり、俗に「マタタビ種り」のこと。また、疲れて歩けなくなった旅人がこれを飲んで「マタタビ旅をした」といふ。初夏、直径2.5・2.5cmの雄雄果の白花(両性花の場合)をつけ、果実は長さ2.5・2.5cmの長楕円形で先が尖り、軟く、黄色く熟して香りの芳香と辛味をもつ。
 雌株の雪の堆すの元(字原)に昆虫のマタタビ(アブラムシ)の卵が産みつけられ、後に子孫は異常発育をして虫こぶ状のものになる。秋・初冬、この虫こぶ(寄生)を採集し熱湯につけて中の幼虫を殺して陽乾したもの(生薬の本天薬)。枝葉は小毒性だが虫こぶは無毒。マタタビラクトン・アクチニジン・β-フェニルエチルアルコール等を含む。体を温めて血行を促進するので、強心・利尿・鎮痛・強壮薬として用いる。
 マタタビ酒はホワイトリカー・8割に本天薬200gと氷砂糖を入れて三ヶ月程漬けたと出来上がる。お試しを。

連載

三角点を訪ねて ①

丹後半島最北の権現山

ごんげんやま

丹後

磯部 純

権現山から依運ヶ尾山を見る



権現山と名の付く山は全国に点在している。丹波丹後地方だけでも、加悦奥にある権現山、丹後半島北端の権現山、久次岳から西山を経て東北にのびる山並の先端にも標高1800m級のピークがある。

今回、京都府の5000m以上の三角点峰を訪ねるなかで、金剛童子山・依運ヶ尾山等と共に、熊野権現をまつる丹後半島の最北の権現山を訪ねた。

天気予報では曇りか雨れるとのことだった。雪になることを想定して防寒装備で出発する。

7時10分西京極を出発し、10時20分登山口の河来見に到着。いつも丹後半島へ来る場合、与謝峠から加悦町へ抜けるの

だが、今回は瑞穂、綾部、大江山、宮津と走るルートが早いと思ったのが大間違いで、意外と時間をくってしまった。もともと、このルートを通ったおかげで、めったに見られない大江山の雲海を拝むことができた。

河来見集落の南はずれに駐車する。この集落は伊根町に属し、19軒もの家があるというが、見た限りではそんなにあるとは思えない。ましてや人の姿は無いといってよかった。が、用水池のヘアピンを廻り神社まで来た時、突然男の人が現れたのはビックリした。訊くと、毎日この神社にお神酒をあげているとのこと。神社は三柱神社と言い、丹後半島各地に

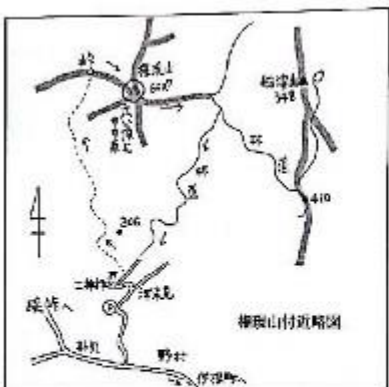
ある氏神様である。古くは熊野山とも言い、熊野三山と大和高峰山の蔵王権現をまつったものだった。中世以後は火河遇突和をまつり、明治の神仏分離令で今の三柱神社になったと言われている。

神社の北にある倉庫の間から山道へと取っく。河来見から袖志へ越える破線路をたどる。竹やぶのなかに1層幅の道がしっかりと付いていた。杉と松の林を過ぎるとゆるやかになり、ササが道をおおうようになる。あたりは雑木林へと変わ

り、立木の間の空間だけが道の方向を示していた。

ふと気がつくところ真新しい赤いテープがある。11月15日にこの山へ登った三角点の仲間からは、三角点へササの斜面を直登したと聞いているので、彼がこんな所にテープを付けるはずがない。きっとその後同じような物好きが来たに違いない。テープはわれわれのめざしている破線路を示すように付けられていた。しかし、先へ進むと道はいっしょか消えてしまい。テープも見つからなかった。

小さな杉林を通ると前方に谷が現れ、



谷沿いにしばらくは尾根を登るが、やがて見失っていた道が再び姿を現す。やがて行く手を遮られる箇所があったが、峰近くになるとよく踏み込まれていた。峰の標高は4500m。あたりを見渡すと、数日前の雪が消えずに残っている。

この峠からは破線路を離れて尾根を登る。12月でもあり、思ったほどやぶはうるさくなく、雪に足を取られながら急斜面を上り登る。30分後やっと山頂(6000m)へ到着した。

山頂は平坦でかなり広く、両までササ原となっていて、三角点がどこにあるのか分からない。これまで何人かがこのササのために三角点を誦め、下山したと聞いている。

登り着いた地点で慎重に現在地と三角点の位置を地図で確認した後、見定めた方向へとササを泳ぐ。進むうち枯れたササの間に、こんなに多くあるのかと驚くほど真っ赤なサルトリイバラの実があった。やがて、ぽっかりと四方ほどササの列られた空間へ出た。その小さな広葉の両端に白い雪の中から頭を出した2等三角点標石があった。北向まで北東の角が少し欠けている。

山頂の見晴らしは全く無いと『京都ふるさと登山50選』に書いてあったので、展望は期待していなかった。しかし、西方の景観は最高だ。経ヶ岬のかたの日本海、依運ヶ尾山から金剛童子山に至る金剛童子山系、近頃は高層や雪をかぶった太鼓山等が、まるでパノラマを見るように広がっている。

いつまで見ていても足りないので食事の準備にとりかかると、久しぶりに楽しいラーメンパーティーだった。

1時間程して下山にかかる。くだる方向は船津山の鞍部にのびている尾根。もちろん道などあるはずもない。地形図で方向を定め、ササの急斜面をイバラに引っかけながら駆け下りていく。

何とか林道に飛び出したのは山頂から40分後だった。あとは崖まで物見遊山気分で林道を歩いた。

(平成9年12月6日歩く)

△コースタイム▽

河来見(5分) 登山口(1時間10分) 峠(35分) 権現山三角点(40分) 船津山との鞍部(30分) 河来見
△地形図▽2万5千11丹後半

屋戸橋から海上へ

山口 澤有

屋戸橋の下を山口川が流れる。橋の左の川上に山口川の第二堰堤が見え、この光景はすばらしい。この山口川の水源地は瀬戸市赤津町の上、戸越峠に源し、それが赤津川となり、そして山口川、矢田川と名を変え、最後は庄内川となって伊勢湾へ注ぐ。

ところが、赤津川、山口川の流域で大雨が降るとあはれ川となり、山を崩し流れを変えてしまう恐ろしい川でもある。この流域が愛知万博と関係しているのがある。

今回はこの屋戸橋を渡り、左折して海上までを案内する。

山口堰堤

愛知万博鉄道山口駅下車、屋戸橋まで

篠田池・堂ヶ洞
ただしここから篠田池へ至るのは快速で、海上の鳥類・植物観察に、また渓流をさわめる醍醐味もある。このコースは谷や庄をはいのぼる難所であるから、登山される場合は完全式装でおでかけください。

さて、山口ダムからものと道へ戻ると、四ツ沢へ至る。四ツ沢とは四つ沢のことで、十字路を意味する。この十字路は地図にない。すなわち向かって左へ行く途中で道が折れ、谷を渡り樹をよじのぼって堂ヶ洞へ至る。ここからは山口が彫製できる。

四ツ沢から直進すると右手の谷を渡る道が杉林のなかへ消える。この林をかき分けて進むと赤池、そして前回の観音山、吉山へくだる。

今回はさらに木道を前進する。道は勾



武田信玄甲斐守碑

行く(前巻巻末)。

屋戸橋から海上に向かってい、ほど歩くとも瀬川が左手に流れ、この川は屋戸の寺前で山口川へ合流する。四ツ沢へ至るが、その手前の左に広場がある。

ここは今から五十年前程前までは水車が廻り、桂砂(陶器の材料)をこなしていた。今でもこの付近には桂砂があり、時々人が採取しているのをみかける。そしてこの広場にはかつて和華工業と鉄鋼産があったが今はない。ということはこの広場は万博の駐車場の一つとなり、その反対の東向の山々は住宅地になるということである。

この広場を北西に向かい、山口川の第二堰堤の右の山に登ると山口堰堤へダムへ至る。この堰堤へは探鳥会のみなままがよくいらっしやる。ところが登り道は、夏には雑草・蕨・茨・雑木などが繁り道はない。冬枯れの時期を選べば登りやすいだろう。

山口堰堤は満面に水を溢れた壮大なダムであるが、左右の山肌は激流により常に削られている。そして水は流を巻き水溜は60センチである。

このダムのかなたには幾つもの山々が

配のきつい坂道となり、その坂道に登ると、そこに開けた手があり、海上町である。いわゆるここが万博のテーマゾーンとなる所である。

海上町・物見山

かつてこの海上町は瀬戸市大字山口で、山口の一部であり、世帯数は十四戸あり、人々は自給自足の生活をしてきた。今では田畑は荒れ果て、当時の住居の一部が壊れかかって残り、現在二世帯あるが、いずれどこかへ転居するものと思われる。

すると海上町にはただ多度神社・弘法堂・秋葉山の遺跡が残るのみで、この地がかつて(江戸時代)を焼き、炭焼きをした人々の文化はどこへ行っただいのか?

本来この海上町は海上河と呼ばれる。この付近の山は赤松・クリ・クスギなどが繁るすばらしい里山であったが、今はそれらしい雰囲気はない。私はこの海上町に江戸時代の民家を建て、いわゆる桃原郷(エートピア)とすべき地域だと考えているがいかがであるうか。

現在の海上町



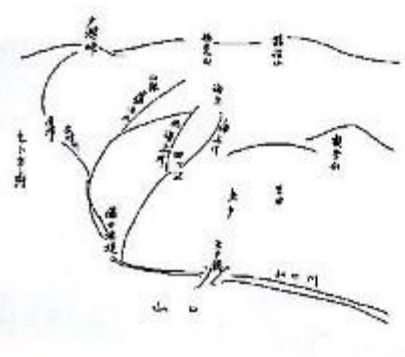
重なり合って、海上かいわいの現在の自然を保っている。

このダムの左または右手から海上の山々をめぐると登山は最高であるが道はない。冒険好きな人は登山されるがよいが、特殊なコースである。木をかき分け背をかめて登るのであり、夏はいたるところにマムシがひそんでいる。私はあまりおすすりたくない。

この海上町の正面に物見山が見える。この山はかつて武田信玄が鎧を焼き、尾張・三河・美濃の情勢を眺望(ものる)した山である。

信玄の城は山口の矢形町にあった。その場所は今は真宗高田派の教養山本泉寺となっている。そして「武田信玄甲斐守碑」は山口大坂に現存する。

山口と海上は歴史のあるふるさとである。今回のコースはすべて標高200メートルから300メートルの地域である。



1等三角点峰(5000以上) 548座完全登の記録(第16回)

日高のカムイエクウチカウシ山を登頂

坂井久光

昭和68年7月29日に登ったベテガリ岳は、日本二百名山に選ばれ2等三角点の名峰である。日高山脈にあり、展望広大でカムイエクウチカウシ山や神威岳が間近に見えた。先着していた水戸市の二人が、「北から縦走し、天狗のコルでテントで泊まったが、朝起きてみるとヒグマが一頭10分先にいた。じっと見ていると谷にくだっていった」と話してくれた。

ベテガリ山荘に下山して、水戸の二人を山形氏の車に乗せ、いっしょに静内に出て別れた。その夜は三石町温泉に泊まった。

7月30日、樺太峠を經由して広尾町へ行き、中栗古・札栗古を通り栗古川支流

の札栗古川沿いの林道を終点まで車でつめた。ここが栗古岳(1442.2m・1等三角点)の登山口で、洗濯物を干しておいて出発した。約6.5の登路で、ミヤマハンノキの茂る急坂を登り、大きな樺柱のある山頂に着いた。

天気は快晴だったが、山頂付近はガスがかり遅くは見えなかった。二人で万歳三喝して下山した。登山口で二しておいた衣類を片づけ、車で「中札内山岳会」事務長の紅露氏を訪ね、カムイエクウチカウシ山の便宜を乞うた。その夜は公園で車泊した。

7月31日、山形さんが「覆れたので温泉で英後したい」と言うので常広で別れ

話があったとのことだった。全く私の不徳のいたすところで、後日小川氏に深く謝った。

荷物が多過ぎてこれから先車無しでは一度に運べない。困ったすえ、中札内の紅露氏に電話をして車で来てもらった。彼の所から不要な荷物をわが家へ送り、身軽になってバスで熱帯温泉へ行って民宿で一泊した。

8月1日、民宿からウベベサンケ山(1666.6m・1等点)へ登った。樺平川沿いの長い林道を歩いて、登山口を探すのに時間がかかった。水場を経てから鹿追町境の尾根を登り、菅野温泉からの登山道に出合った。この登路は平成元年10月1日にも田中三郎氏(東京在住、1等三角点研究会・栗田クラブ会員、日本二百名山・1等三角点百名山を完歩)と登ったことがある。

途中で更沢からの天婦にすれ違い、15時過ぎにやっと登頂できた。北にニベソツ山を望む名峰であった。小憩して日暮れに民宿に下山した。

8月2日、菅更山に登るため始発のバスで三股へ行き、林道を歩いていると登山林の車が来た。ブルで新しく林道工事

をしている現場へ行くとか、頼んで便乗させてもらった。樺太は奥の水場まで延長すると言っていた。ネマガリダケの切り開きをジグザグに急坂を登って水場で喉を潤し、土石峠に着いてひと休みした。

目の前にユニ石狩谷がそびえている。北へ越すと上川町の大雪湖に通じる旧道である。ミヤマハンノキの茂る山道を登ると岩地に出て、コマクサの群落があり、クルマユリやエゾキスゲ等の高山植物が咲き乱れていた。途中では大字のパーテイと進路で会った。三つのピークを越えて最後のハイマツの切り開きを登って菅更山(1932.2m・1等点)の山頂に着いた。

展望は広大だ。南西に石狩岳が間近に見え、一人で万歳した。十石峠から林道の工事現場に戻ると、車はすでに帰った後。仕方なく林道を歩いてみると、東京からの釣り人のマイクロボスが通りかかり、土橋まで乗せてくれた。食堂で夕食をとり、バスで市街に行けたが、列車はなく、市内のビジネスポテルに泊まった。

翌8月8日、JRで富良野へ行って一

栗古岳にて(山形氏と)



た。

きょうは「1等三角点研究会」の会員とカムイエクウチカウシ山に登るために合流する日である。ところが8時の約束だったのを忘れ、私が集合場所に着いたのは10時少し前になり、だれもいなかった。後で聞くと、小川九三雄氏が9時に着き、9時30分まで待ったが私が来なかったたので去ったとか。小島・川越氏からは不参加の電

泊し、4日にバスで中御料へ。プリンスホテルの車を借り、スキー場を過ぎると尾根筋を急登して富良野西岳(1833.1m・1等点)へ登った。南に戸別岳、東に十勝連峰を望む岩峰であった。展望は良好、晴天の中で至福のひとときを過ごして往路を下山した。8月5日は雨で戸別岳をあきらめ、JRで常広に戻りバスで中札内へ行った。現場へ山岳会会長の知本氏を訪ね、旅館で一泊した。

8月6日、15時に現場に集合して、十勝山岳連盟のカムイエクウチカウシ山に同行した。私といっしょに登った三人の青年と七の沢出合まで行ってテントを張った。

翌7日、3時30分起床して4時10分に出発した。札内川を渡行して八の沢出合に着いた。二、三のテントがあり賑やかだった。三股まで八の沢を渡行して休憩。

ここから急斜面を登ることになる。私は八の沢を渡行するも、幾つかの滝がある。危険だから進行する小谷をつめて、やがてコースでカールの少し下流へ登ろうと言った。みんなはこのコースは始めてだからと、年長の私を頼る事になった。私が先頭になって小谷をつめたが、やがて上部で踏み跡がなくなった。ふり



カムイエクウチカウシ山にて

返るとだれもついてこなかった。彼らは、先輩から八の沢通行コースをとるほうがよいと言われていたことが、後になって分かった。

かなり高度を稼いでいたので私は戻る気になれず、この谷に沿って登ればカールの一部に出られるはずだと、地形図を頼りにやがをこいで登った。大岩が重なる所に出て、岩を登ったり滑ったり、ヒ

グマの恐怖にもおびえて、笛を吹いたり爆竹を鳴らしたりして必死だった。我が命運もここまでで、最悪の場面を予想しながら汗を流して登り続けた。

やがてカールの一角だろうか、左右に踏み跡のある地点に出て、左に急いで行くと、八の沢カールの福岡大生の遺棄碑のある所に出た。そこで三人の青年や登山者が休んでおり、三人が「坂井さん、心配していた。私たちも10分前に着いたところだ」と再会を喜んだ。私も助かったと思った。

カムイエクウシ山は、正式にはカムイ・エクウチ・カウシ山(1979年)と言いい、カムイはヒグマ(神)が転げ落ちる山の意で、日高きつての難峰で遭難者が多く、谷川岳に匹敵する険しい山である。

しばらく食糧を休んで、残雪を踏んでハイマツの切り開きをジグザグに登り後線に出た。テントが二つ張られている岩の上にて一等三角点があった。見下ろすと北大の「熊研究会」の一行数人が1000メートル程下にいるのが見られた。怖いヒグマを研究する学生に敬意を表した。四人で万歳三唱して登頂を祝った。展望は四方に開け、両には三角形のピラミッド峰が

近くに見え、北には日高の大空の山群が一望できた。

カールに突ると他の登山者はみんな下山していた。私は八の沢を三人の後に歩いてくだった。途中のカールまでは高山植物が咲き乱れていた。カールから谷川をくだったが、滝の所で道を失った。わずかな足場もなく、下は流や岩場で手に頼るものは草しかないトラバースで、全く命がけであった。

やっと対岸にくだる道を見つけて無事三股へ着いた。みんな腹が減ったと言うので、私の非常食の乾パンを配ったら大変喜んで元気になった。八の沢出合に出たからは札内川を何度も渡渉し、暗くなってきたから七の沢出合のテント場に着いた。十勝岳連の人たちが心配して待っていてくれた。

私は下山途中から地下足袋でくだったので、足指が痛くて速く歩けず困った。中札内へ行って遅い夕食をとった。一同に厚く礼を述べ、帯広に出て夜行で札幌小樽に着いた。フェリーに乗り、舞鶴に着いて帰宅した。

(改訂へつづく)

伊勢南街道から 高見山登山

たかみやま

コースとコースタイム 近鉄橿原駅(バス1時間) 高見山登山口①伊勢南街道(50分) ②小峠(1時間30分) ③高見峠(1時間30分) ④高見山(50分) ⑤高見杉(40分) ⑥平野バス停(バス1時間) 橿原駅(徒歩約12分)

中村敏文

先達 白川愛治

登山口に到着する。

大和・伊勢の国境にそびえる1849坪の高見山は、冬は霧氷見物に、夏は冷気を求めての登山者が多い。

大宇陀町の「かぎろひの丘」から眺めると、均整のとれた山容が美しい。なかなかすぐかぎろひの立つ幸運な朝にめぐり合えて、それが見られれば最高である。

高見山へは奈良交通バスの籍水号が運転される冬季以外は、大和上野駅か橿原駅から路線バスを利用するしかない。しかし、30人以上揃えば貸切バスで送迎してくれる。

① 伊勢南街道(吉野郡東吉野町杉谷) 杉谷は高見峠越伊勢街道の西側最初の峠下にある十数戸の集落で、近世では本陣の置かれた波瀬と駕家宿の間の首として数軒の旅館や商家もあった。

高見登山口は杉谷西端の国道166号線に面した海拔450メートル前後の地点で、国道の北側に伊勢街道の道標が旧道への分岐を示している。民家の横から北側の山へ階段状の旧道を上がると杉林のなかへ伊勢南街道は高度を上げてゆく。

近世の伊勢南街道は新歌山城と松坂城を結んだ紀州藩道の和歌山街道である。

高見山山頂の高角神社



紀伊藩五十五万石初代藩主の徳川頼宣は領土のない大和と土田・越部と駕家を確保し、伊勢領十八万石の支配と参勤交代路として白領での宿泊を可能にした。

和歌山を出発した紀州藩主らは橋本・越部・駕家の本陣と宿泊を重ね、高見峠を越えて波瀬の本陣で泊まり、五日目の夕刻には松坂城へ入っている。

松坂からの船路は波瀬で泊まり、翌日は駕家で休憩して越部で前泊し、三日目は五交で休憩して橋本から川船で和歌山へ帰城する忙しい行程であった。

六代藩主から参勤交代は高見峠越えの

難路を避けて大坂経由に変更されたが、庶民の「お伊勢参り」や寺社巡礼が盛んになり、伊勢街道の通行者は増加した。和歌山街道の崩壊で分岐し、田丸城下を経て神宮へ向かう伊勢別街道が発展し、大和の伊勢南街道筋の宿場や間の宿は明治時代まで栄えていた。

国道166号線が高見峠へ通じ、新国道の杉谷トンネルが開通した現在、伊勢南街道は山仕事とハイカーなどが歩くのみである。

登山口から階段が氾濫する坂道を少し登ると、石仏と伊勢南街道の説明板がある。



登山口から尾根までの500メートルの急勾配の坂道は道幅も狭く、よくも大行列が通過できたものだと思う。尾根まで登ると道幅はやや広くなった。

登山口から30分、古市跡の説明板があるやや広い台地でひと息入れ、伊勢や東紀州からも商人が集まり市が開かれた場所である。古市跡から少し行くと「風とり」と「雲母曲」の説明板が見え、所どころに石畳道もあり、近世の街道が想像できる。登山口から2・3分、1時間かけてようやく石仏が峠を見下ろしている小峠へ到着する。

② 小峠 (高見山参道への分岐点)

小峠から高角神社の鳥居をくぐり、東北へ階段状の参道を20分で平野分岐。平野からの高見参道へ入ると小峠から山頂まで1時間30分、2・7kmの参道である。

この参道は下山に利用するので、林道となった伊勢街道を東へ向かう。この林道は旧国道へは結ばれるが平野までは通じていない。

林道を10分も行くと左側の山腹へ分岐して高度を上げる伊勢街道へ入る。小峠

から大峠まで1・7km。勾配のゆるい少し起伏のある山腹道で登り1時間、下り40分という。右手下方に並行して高見峠へ通じる旧国道が見え隠れするうちに、高度900メートル近くになると前方と右手の見晴らしが開け、上り下りを繰り返してようやく大峠へ到着する。

③ 大峠の高見峠 (奈良・三重の奥路)

東吉野村と飯高町を分ける標高904メートルの高見山南斜面にある大峠は、東へジグザグ道をくだれば舟戸から落方へ通じる。高見峠を18分も切り下げた旧国道166号線は木柵を越え落方で旧道に合流する。新国道の166号線は3・5kmの杉谷トンネルで高見峠下を抜け木柵で旧国道に入る。

大峠から下手へ階段をくだると旧国道の大峠で、駐車場と休憩所・トイレがある。高角神社の鳥居と案内板が立ち、高見山の登山基壇となっている。

高見峠の石柱から山頂まで南斜面の1・5kmは高度差350メートルの急坂で、冬なら林立する灌木に霧水の花が咲く人気の景勝地だが、きょうはクマザサをかき分け灌木の間を登るのがつらい。

大峠から15分ほど登るとベンチのある見晴らしの良い展望広場がある。真下の高見峠付近の全景が見え、南方の台高山脈も間近に望める。大和の集落は見えないが、伊勢側の舟戸川と木柵川河谷の集落は見える。

展望広場でひと息入れ、なおもクマザサを分けて山頂をめざす。徐々に足元が悪くなり、右に左にジグザグ道を辛抱強く登ると灌木も細くなり山頂が見える。御杖村桃屋との分岐点へ到達すると山頂も近く、一気に高角神社へたどり着く。

④ 高見山山頂 (東吉野村・飯高町)

二等三角点のある狭い山頂は高角神社の神殿がしっかりと座し、山頂の少し下に屋根を展望台とした草丈な避難小屋がある。



高見杉

高見山の南斜面は雄大な草原と灌木のスクロップが高見峠へ続き、東の大断層崖は御田川溪谷へ続き、山頂も見え、西側は高見川上流の杉谷、平野川流域の東吉野村の山城で、北側はブナの多い原生林が御杖村城の天狗山へ続く。

四圍の展望はよく開け、北から北西には室生火山群の美観な山々が見え、南方向は大峰山など吉野連山が遠望できる。高角神社の祭神賀茂建角身命は神武天皇を熊野から大和へ先導した八咫鳥とされ、天皇の進路と伝承される宇陀郡城には八咫鳥(高倉)を祭祀する社が多い。

高倉は天照大神から神武救援の命をうけた神御祖之男神(経津主命)より平國之剣を頂き、天皇に献上して大和を統一させた大御者で、石上神宮の主神布都御魂は平國之剣の御魂である。

⑤ 平野への下山道 (高角神社参道)

高見山頂からの下山は平野から4kmの高見杉を通る登山道を通り、山頂から西へ向かい灌木の茂るあまりきつくない尾根道をくだると、大きく株を張った濃い緑のアセビの群落が点々と現れる。山頂

から10分もくだると説明板があって笛吹岩、続いて搦岩があり、回見岩からは切れ落ちた谷間が覗ける。

30分もくだると平野分岐で小峠を経て高見登山口への参道が左へ分かれる。平野分岐からやや北西へ向かい20分もくだると沢が見え潮音が聞こえ始める。

沢と交叉し、杉の植林地に入ると傷んだ避難小屋と高見杉がある。徳齡七百年という大杉は見事というよりほかない。沢で顔や手を洗い神秘的な古木を眺めながらしばしば休憩する。

よくのびた杉の植林地帯をくだって尾居を過ぎると木漏れ日差し始める。一本松を過ぎてふり返ると高見山頂が見える。

木の階段道をくだると平野の集落が見え、掘り削り道となった坂をくだると舟ノ浦橋へ着く。

4月の高見山会式には平野・杉谷の里人が高角神社へ登山するが、山頂から平野まで1時間30分、平野分岐からでも50分のくだりで、登拝には2時間30分はかかるだろう。

全員が無事を確認し、平野バス停から貸切バスで近鉄藤原駅へ向かう。

ゆく秋に薬師寺を訪ねて

松永恵一

ゆく秋の大和の国

近く秋の大和の国の薬師寺の
塔の上なるひとひらの雲

〔新月〕佐佐木信綱

唐招提寺と薬師寺のあるあたりを「西の京」という。一度西の京を訪ねた人たちは何度も訪ねたくなる魅力があると言ふ。では、その魅力は何か、いろんな人に聞くと「ここには古代人の心が幽鬼のようにひそんでいるから」と言う。それはどうやらいま日本人が忘却のなかに追いやっていっている、その心を見つけたい、しばしの時間でもよい、触れてみたい。いわば心の奥底に沈んでいる、つまり悲願のようなものを西の京の寺域で浮かべてみたい、というわけらしい。

近鉄福原線西ノ京駅を下車すると、すぐ薬師寺。北に唐招提寺がある。

南都七太寺の一つとして仕麗な美を誇った薬師寺の伽藍は、幾多の災害を受け、東塔を除く諸堂が灰燼に帰した。お写経勧進によって金堂・西塔・中門・回廊等の白鳳伽藍が復興され、参詣者の目を奪っている。創建当時の青丹よしの色彩も絢爛と、スカート(堂階)をつけたスタイルは「龍宮造り」と呼ばれる。

前述の佐佐木信綱の歌は「凍れる音楽」とフェノロサが讃えた薬師寺の東塔をうたった歌で、塔の下に自筆の歌碑がある。曲がつけられ、観光バスでうたわれたりもしていて、信綱の歌では最もよく知られているのではないかと思う。

薬師寺遠望(勝間田池より)



この歌の塔というのは東塔のことである。その塔の上に白い晩秋の雲の一片がかかっている。六つの「の」によってつながれた修飾が、すべてひたおしに「遠く」にかかっている。作者はこの風景を仰ぎ見ながら、遠く昔古な上代をおもいやっている。ゆく秋の季節、作者の心はおのずから美しい感傷を呼んでいたに違いない。大らかなすがすがしい歌で、多くの人々に親しまれている。

佐佐木信綱は、明治二十一年7月設置

されたばかりの東京帝國大学古典語料科を卒業のち、和歌の歴史研究に従った新知識人でもあった。伝統和歌に、新知識人として知った「西洋」詩の中の「詩」の意味をうたい込め、近代文学としてよみがえらせようとするひそかな思いを心にいだいて、「和歌革新」運動に参加した学者歌人の一人であった。

万葉学者として、作者は大和路を旅することがしばしばあった。大和の歌は「新日」の中に多く見られる。

唐招提寺

秋さむき唐招提寺鶴尾の上に

夕日うつれて山鳩の鳴く

法隆寺

薄き日は壁面に匂ふなつかしき

慈眼にすがり泣かまくほしき

長谷寺

女の直柄香炉がささげまうのぼる

『淡心の御寺の山ざくら花』

なども大和旅中の秀作である。信綱の歌は、こうした歴史的背景をもった土地の旅の歌に覆れたものが見られる。明治のおもかげの懐いなつかしい旅の歌は、信綱のものといっってよいだろう。

東塔の歌

するえんの あまつをとめが ころも
での ひまにもすめる あきのそらかな
あつしく ふるきみやこの なかぞ
らの いりひのくもに もゆるたふかな
この二首は金津八一博士の歌。『南京詩話』に収められている。明治四十一年、「初めて奈良に遊び短歌二十首を得て帰村す」と伝記にある。博士が「青春の雅歌」である。その頃の薬師寺は幽邃の感を深くしていた。

塔の水煙に舞ったり、笛を吹いたりしている飛天の彫刻があることはあまりにも有名。六体の飛天を「あまつおとめ」とうたい、その衣のなびいて模様化しているひまに、青く澄んだ秋空をうたってささるといふ不思議な魅力がある。

六重の塔のようにも見える均衝のとれた塔階が、絶妙のリズムを与えている。上へ上へ重なり合いながら、天空に向かつて建物全体で音楽を奏でている。

二首目は、古い部の荒院ぶりが感じられ、落日の光を浴びて燃ゆる「たふ」の姿には、滅びゆく予感といつたものがある。

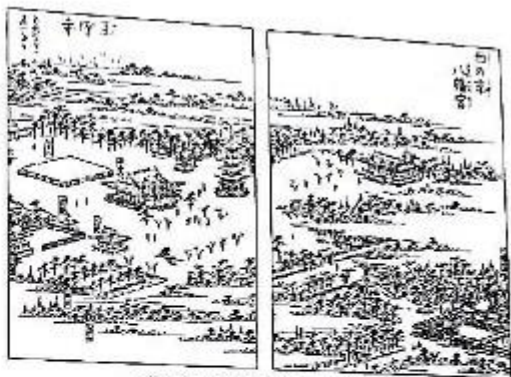
塔のある風景

大和路を愛した写真家の入江泰吉さんは、風景画を描くようなつもりで、大和路ならではのアングルを求めて歩き続けた。大和路ならではの風物詩は「東塔のある風景」につきるといふ。

入江さんが薬師寺の東塔を撮り始めたのは、昭和二十四、五年頃。西塔跡の礎石の窪みに溜まった水に映っている東塔を撮影し、評判になった。高田好胤さんが修行僧の頃で、修学旅行の生徒たちが案内しながら、「ここに若が映る写真を撮ったのが、あそこにいる男です」と説明していたらしい。

西の勝間田池(天池)を前景にして薬師寺の東塔を撮りました。このアングルから撮ったのも、私が初めてでした。

東塔が大池に遠影を落としている風景ですが、栄枯盛衰を象徴するというか、世の移り変わりを感ぜさせる写真になったと思っっています。また、その頃は白いササが降りていて、背後に塔が写っている風景です。今思い出しても懐かしいですね。いかにも大和路にふさわしい情景というんでしょうか。



薬師寺（『大和名所図繪』）

コース概観

薬師寺を始め、古部・奈良には歴史ある神社仏閣が多く、文化遺産の宝庫である。昨年（1998）12月、「古都奈良の文化財」がユネスコの世界遺産に登録された。今回登録されたのは東大寺・興福寺・春日大社・元興寺・唐招提寺・薬師寺の六社寺に平城宮跡と春日山原始林を加えた八箇所。古代の香りが息づく奈良・西の京を訪ねてみた。

近鉄西ノ京駅で下車すぐ。薬師寺は奈良市西ノ京町にある法相宗の大本山。天武天皇が皇后（のちの持統天皇）の病氣平癒を祈願して、持統天皇の御代に欣物山の東・橿原市木殿の地に建てられた。のち平城京遷都に伴い、養老二年（718）現在地に移建。飛鳥の木薬師寺址には金堂や塔の大きな礎石が残る。

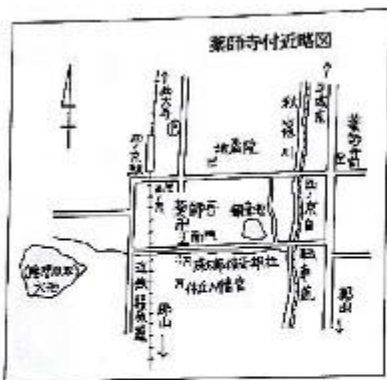
薬師如来とは文字どおり医薬兼備の健康を護って下さる佛尊。その後皇后は快癒され逆に夫の天皇に先立たれることになるが、夫の遺志を継ぐ形で寺を完成。「大佛堂の結智の寺」と言われる。

薬師寺は平城京の石京六条二坊の地。東は秋篠川、西は二条大路、南は六条大路、北は五条大路、東西三町、南北四町の広大な敷地を誇った。六条大路に南面して南北の中心に南大門が建てられ、北門まで築地がめぐらさる。その中に中門を設け回廊をめぐらし、方形の中庭の中央に金堂があり、その前面東西に二基の塔が並立して配置される。講堂・食堂はこの中に入った。東院・西院・東堂・西堂、その他の諸堂、僧坊などは回廊の外側にあった。この創建当時の堂塔の配置を薬師寺式伽藍と呼ぶ。

薬師寺の東、平城左京六条・七条四坊の地に大安寺がある。飛鳥の二六官寺は平城京の東西のほぼ同じ地に移建された。壮大な偉容は平城宮から指呼の間に望まれた。朱雀門から南に歩いてみると、左右に大安寺、薬師寺を見る。さらに南に歩くと佐保川と秋篠川とが合流するあたりが羅生門跡。

東塔を覗き見る。あらゆる塔の中の傑作。軽快な、そして優美な律動感を実感する。総高百一十一尺、基礎は方四十八尺、高さ三尺。露盤に舎人親下横による薬師寺草創縁起の銘が陰刻されている。「皇后體不豫したまふ。すなはち皇后のため橋願ひて、はじめて薬師寺を興つ。」加藤周一は「日本とは何か」という問いに、もし私が一個の品物をもって答えるとなれば、私は何よりも薬師寺の三重塔をもって答えるだろう」と言っている。

再建された西塔は、「あおによし」という奈良の枕詞になる緑や朱に彩られている。塔は卒塔婆。塔婆の路であり、卒塔婆は梵語のストゥーパを音訳したものであって、死者を葬る向く盛った土の塚や墓を指す。「舍利」と呼ぶ釈迦の遺骨をまつたのが塔だと、かつてこの地で聞いた。



金堂は東西の柱間九間、南北同じく六間、単面入母屋造り。屋根は本瓦葺、向拝付き。それぞれ菱階をつけた重層の屋根は、三重の塔が六重に思われるように四層の大殿堂に見える。高い基壇を上る。法衣の右肩を脱いで結願状とする薬師如来像。右に日光菩薩、左に月光菩薩がともに腰をひねって立っておられる。三尊はともに漆黒に光っている。

和辻百郎は「古寺巡礼」で「雄大で豊麗な、柔さと強さとの抱擁し合った、円満そのものような美しい姿は、われわれの心をどかし切る力を持っている。滑らかな豊かな胸、力強い肩、微妙に柔かな衣、静かな調和のうちに水蓮に動かぬ大らかな結晶の形……」と述べている。

「瑪瑙（白大理石）をもって磐石とし、瑠璃をもって地を敷き、黄金をもって埤道（埤道）とし、蘇芳をもって高欄をつくり、蒸椽によって内陣天井椅子をつくり、鉄繩をもって天蓋を釣り、その宝蓋の四隅には無数の日曜宝珠と半満月とを交互に並べていて、堂内の荘嚴、美をつくり、妙を極め灯火なくして金玉の光あきらかなり」と、「薬師寺縁起」は伝える。本尊の台座の上にはギリシャの葡萄畑唐草文がめぐらされ、中柱には牙をむいた天竺インダの極神像、下柱には東に青龍、南に朱雀、西に白虎、北に玄武の中国の四神、周囲にベルシヤの蓮華文が浮き彫りにされている。

吉祥天女像は、光明皇后のお姿を写したと伝えられる。二尺八寸の小画像ながら、天平時代を代表する画像である。吉祥天は財福の天女で、元旦から14日まで修される修正会吉祥懺悔の木尊としてまつられる。この祭りとは3月30日から始まる修二会花会式が、薬師寺の代表的な二つの行事、祭りである。

仏足石は教尊の體圖を彫刻している。仏跡を持つると千劫佛道の悪業も忽ち除かれる功德があるという。歌碑は仏足石の功德恭讚の歌十七首と、阿責生死の歌四首を陰刻したもの。仏足石歌体といわれる六句三十八字、三十一字の歌にさらに一句七字の加わったものである。

み跡つくる石の響きは天にいたり地さえゆすれ父母がために、もろ人のため

- ▲コース▼
- 近鉄橿原線西ノ京駅下車すぐ
- ▲地形図▼2万5千11大和郡山・奈良
- ▲費用▼
- 近鉄難波駅〜西ノ京駅 540円
- 薬師寺（8時30分〜17時）大人500円
- ▲問い合わせ先▼
- 薬師寺 0742(33)6001

名木「みずめぎくら」を見て

御祓山

中級コース(★★)
慶佐次 盛一

御祓山は須留ヶ峰の北に位置する773・1坪のピークである。かつて須留ヶ峰からのくんだりで、その姿に一目惚れした山だった。「登路は分らないけれど」と若い仲間が誘われ、マイカーで降り登山で大坂を登った。

中国自動車道は西へ進むほどに霧が深くなる。福崎インターから播磨道を経由して北上する。いつも見える七福山の山並も霧のなかで、太陽もぼんやりと隠れている。しかし、この霧がこの日の快晴を保証してくれているようなものだ。

和日山町を過ぎ、養父町から大屋川沿いの県道に入る。やはり次第に霧は晴れてくる。大屋市場から明延川沿いの県道

を南下し、全但バス田野橋バス停に車を置く。南に須留ヶ峰が大きくそびえる所である。バス停から少し戻ると、右側に「みずめぎくら(えとひがみずくら)2号」の大きな看板があり、とりあえずその道に入ってみる。松茸山らしく、そのシーズンの立入禁止の札もある。

谷状の道を通むと「みずめぎくら」への道標が現れ、白い布の目印や距離を書いた小さな標識に従って稜線を登る。あたりは見事な雑木の紅葉だ。どの稜線を登っているのかさっぱり見当がつかなかったが、そのうち512点の稜線だと分かる。512点をくんだり、植林帯の岩くずの斜面を登っているところに巨木が見える。最初はトチノキかと思ったが、近づいてみるとこれが「みずめぎくら」だった。太い幹の根元には洞があり、かなりの古木と思われる。四方八方に枝をのびし、樹高はゆうに10坪は超える。あたりにはベンチ代わりの丸太があるが、肝心の説明板はない。地元の人のみが知る名木のだろう。

稜線は近く、右側の雑木帯を登ると御祓山の南の稜線に出た。しっかりと踏み跡があり御祓山へ向かう。道の悪いと

双耳峰の御祓山



ころにはコープまで強っており、間もなく御祓山に着く。登路を知らなかったが、「みずめぎくら」に導かれたようだ。家裏用のTVアンテナがあり、氷ノ山や粟鹿山などが見える。

養父町と大屋町の境界に残置テイクがあったが、北西方の598・2坪峰(点名・上山)へ向け稜線を進む。突然右側から林道が現れ驚く。そのかわり展望に恵まれ、のびやかな氷ノ山の稜線が美しい。631点を控あたりで草原のような伐採地を見下ろし、北の方には妙見山の山並が遠望できた。

いったん下ってから伐採地へゆるく登る。鹿除けネットの罅を開け、ネット沿いに進む。また罅を開けてネットの外に出る。点名上山は近いが、このあたり標高が大きくゆるんでいるので慎重に進む。先頭を行く仲間が「罅が二頭通っていった」と言う。またネット沿いになる。地形図を眺みながら、ネットから右へそれ、紅葉の雑木林へ入る。見通しのきかない雑木帯の、ふとした高みの落ち葉のなかに3等三角点を見つけた。我ながらよく見つけたと思ったが、知人が残したメッソージを見つけて喜びは倍増した。

しばらく険しいネットに戻る。罅は見つ



から直接ネットを越えた。ネット沿いにはほぼ南へくだる。ここから見上げる御祓山は双耳峰で、雑木の見事な紅葉と植林の緑のコントラストが美しい。正面には相変わらず須留ヶ峰が堂々とそびえている。

しばらくくんだりを続けていると、明瞭な植道が現れ輪の坊木帯を谷状へくだる。谷状にくだると道はより広くなり、鹿除けネットの罅を開けて糸原東方の林道の、家の奥川の橋に出た。このあたり目の化石が出てらしいが、この時はすっかり忘れていて、そのかわり秋の味覚メモコが少し探検できた。

林道にも鹿除けネットがあった。二重三五のネットには閉口するが、それだけ鹿の害が深刻なのだろう。糸原の集落にくだる。糸原の人たちは、御祓山のことをミハラ山と呼んでいた。

車道を歩いて車に戻る。帰りの身仕度をしているとき、地元の人から須留ヶ峰の由来を聞くことができた。古代このあたりは海の底で、神功皇后が三艘の船で三韓征伐に朝鮮へ行くとき船の底をすった。船の底をすったから須留ヶ峰という名前が付いたそうだ。宮本の神社のマイ

ソウ祭は、そのとき行方不明になった一艘の船を捜した様子を伝えているものだそうだ。山里ならではの興味深い伝承を土産に大阪へ向かった。

▲コースタイム▼

中国道福崎インター(車1時間25分) 田野橋バス停(1時間10分) 512点(15分) みずめぎくら(30分) 御祓山(1時間20分) 点名上山(40分) 家の奥川の橋(10分) 糸原(10分) 田野橋バス停
△地形図V2方5111大屋市場

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



・小型 (20人・24人)
・中型 (38人乗り)
・中2階 (45人乗り)
・大型 (55人・60人)
いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市湊船本町1-20 オカダビル4F
電話06(6745)3911・FAX06(6745)3983
(夜間・電話06(6945)0916・FAX06(6945)9044)

特選コースガイド④

鈴鹿

近江カルスト

霊仙山

中級コース(★★★)

吉村 迥

鈴鹿山脈北端の霊仙山は米原から近く取りつきやすい山だ。JR米原駅から山麓の養蚕場までバスが入る。このバスを利用して、養蚕場あるいは上丹生を登山口にすれば、ほどよい一日コースである。ただ、バスの運行時刻は必ずしも登山者に配慮したものではないので注意したい。

ここでは上丹生を起点としよう。八合目までずっと沢をたどるコースである。この沢は大部分が伏流で、漆ヶ滝の前後で水流が現れる。道はおおむねしっとりしているが、一部でゴロ歩きとなる。しかし、伏流だから濡れる気遣いはない(まとまった雨が降った直後は状況が変わる

ことがあるので要注意。

さて、上丹生は川の落ち合う所。車道も分岐する。向かって左手の車道に入っていく。破風や梁・柱の外側部分にベンガラが塗られた民家が並んでいる。この小さな集落を抜けると浄水場で分岐する。右に入ると間もなく駐車できる広場に着く。

広場には登山口を示す標柱とコース案内板がある。扉裏岩は沢の右岸に25層ほどの高さで立つ。そろそろ道幅も狭くなる。コースは本流(ただし伏流)の石灰岩のゴロロに出て右岸に渡る。このあたりが高度4000級。霊仙山は大部分が石灰岩から出来ており、山頂近くには小規模ながらカルスト地形が見られる。従って沢も伏流になるものと思われる。

沢を渡り返しながら行くくと水流が現れ、漆ヶ滝(二段20級弱)に着く。ここは左岸を高捲りようにして登り落ち口に達する。少し上流で右岸に渡る。高度は6000級になる。

ところで、この山は石灰岩の山ということなので、沢床の割れ目にどんな樹木が出現するのか、私は関心を持って歩いた。高度4000級から6000級にかけて、

ごく普通に

見られる種は、ケヤキ・アブラタチ・ン・フサザクラ・ウラジロウキ・ヤマシバカエテ・ミツバウツギ・ウリノキ・ミズキであった。他の山と特に変わらな

高度8000級付近をつめる



右記以外の出現は、高度4000級においては、オニグルミ・シロダモ・カツラ・アケビ・ヤマアジサイ・ツリバナ・ニワトコ、高度6000級においては、イヌガヤ・オヒロウ・ヒメウツギ・イタヤカエデ・シナノキであった。

さて、沢は小気味よいナメとなる。しかし、おっつけ水は岩の下に隠れるので、ナメの上手で水筒を満たしておこう。ほどなく沢の二股。右に折れて急なゴロを登る。さらに「奥の二段」というべき所があり、これも右に行く。このあた

の手前にあつた避難小屋は同様して使用不可だ。経塚山では、爽快な草地が広がっている。三びササやぶを通り、登り返せば霊仙山(1084級)の頂上。

ここも経塚山と同様、石灰岩の混じる草地である。見渡せば六つの支峰が頂上を取り巻いている。10000級の山にしてはなかなか重厚な山容だ。支峰の一部には羊群石が認められる。遠望もまた申し分ない。

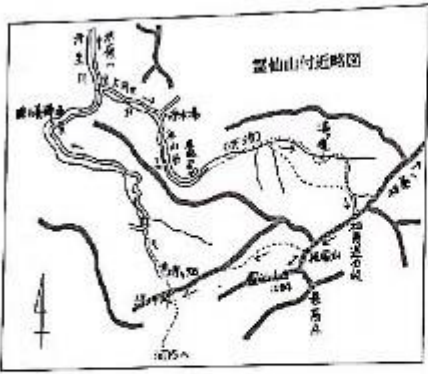
養蚕場へは、いったん経塚山まで戻り、西(左)へおろしてゆくのだが、ここで経塚山の登山道の横の樹木の名を記しておく。タサボタン(葉の上)・メギ・イヌツグ・コバノクロウメモドキ・イボタノキ。石灰岩地の特徴が少し読みとれる。いずれも低木ないし低木状。なお、ヒメフウロが咲き残っていたが、この草は日本では霊仙山・伊吹山と西国剣山にしか産しない(経塚山の植物については欠漏が多いので、このことはよく覚えてください)。

お虎ヶ池を過ぎ、しばらくして雑木林のなかの急な谷だりである。汗フキ峠から北側にくると、薄々畑の集村で営業小屋がある。この日は週末だったが鍵が掛かっていた。小屋の下におり、小さい

沢の中をくだる。やがて壱井養蚕場に通じる林道に出る。(平成10年10月31日歩く)

- 〔付記〕
- 「さめがい」の表記
- 地名は「壱井」、駅名は「壱ヶ井」「米原」の読み
- 町名は「まいはら」「駅名は「まいはら」

- ▲コースタイム▼
- JR米原駅(バス4分)上丹生(36分)
- 登山口標柱(40分) 高度4000級地点(55分) 漆ヶ滝(15分) 二段(45分) 柏原道合流点(20分) 経塚山(10分) 霊仙山(10分) 経塚山(1時間15分) 汗フキ峠(15分) 林道(50分) 養蚕場(バス26分) 米原駅
- △地形図▼2万5千1 霊仙山・彦根東部(費用)
- 米原駅⇄上丹生 バス 380円
- 養蚕場⇄米原駅 バス 420円
- △問い合わせ先▼
- 湖国バス長浜(営)
- 0749 (64) 1224
- 0749 (52) 2311
- 近江タクシー 0749 (52) 2311



りて高度も9000級となる。イタヤカエデ・オニシバリ・ミズキ等が現れ、他には、ミズナラ・クリ・ヤマダマ・クロモジ・サルナシ・イワガラミ・オオイタヤメイゲツ・ウリハダカエテ・メグスリノキ・(葉のような)ミカエリソウ。

2等三角点のある山

二の谷山と鷹ヶ岳

山形 歳之

二の谷山(668・2材 地名・杉山村)

中級コース(★★★)

滋賀県の湖西、朽木村の市場から国道367号線を北上し、今津町の保坂に向かう。二の谷山の取りつき点が不明瞭なので、保坂の森林組合を訪ねる。地図を出し予定している二の谷からの登路を示すと、「二の谷山はめったに登る人がなく、道を尋ねに来る人もいないが、二の谷からの道は荒れているし、だいたいおが被っている」とのことであった。

国道を朽木の方に戻り、右に林道を見通し国道が高くなったあたり、高辻線が道路を横断する所に二の谷が落ち込んでいる。ここではわずかな幅の谷間の堰堤

の水路で、国道の下を流れて本流に合流している。

何の表示もない小さい水路で、車で走っていると見逃してしまう。100mばかり北の道路脇に、少し空地があるので駐車する。

小さい水路の左側を伝って行く。道は細々と続き砂防堰堤に到着する。堰堤は左側を挟み上部の沢におり立つ。その後は踏み跡程度の道を拾いながら歩きやすい所をたどって登って行く。やがて沢は大きく二分し、このあたりから道は不明瞭となる。周辺は植林で踏み跡は四方にのびている。

二股からは左手の沢沿いに登って行く。沢はもう小さく、靴を濡らすこともなく



二の谷山付近地図

右に左にと歩

きやすい所を

選んで登る。

やがて水も消え

が被って通行

不能の状態となる。

ひと息入れ

て道を探る。

右手の山腹に

やぶにおおわれた道跡があり、伝って行く

と明瞭な山道に出合った。この道の下方

は植林のなかに消えていた。上部はササ

やぶにおおわれているが、道跡は明瞭

で見失うことなく尾根をジグザグに登って

行く。やがて稜線に達すると良い道に

合流した。下山時のためテープを付けて

おく。ここより稜線を北へ向かう。稜線の

道は細々としているものの見失うことなく

歩きやすい。やぶの濃い所やカーブ

している所は二、三ヶ所テープを付ける

登りより下りのほうが間違いないし、

テープがあれば安心して下山できる。西

斜面が植林、東斜面は自然林になっている。

新雪の湖北の山(二の谷山方面)

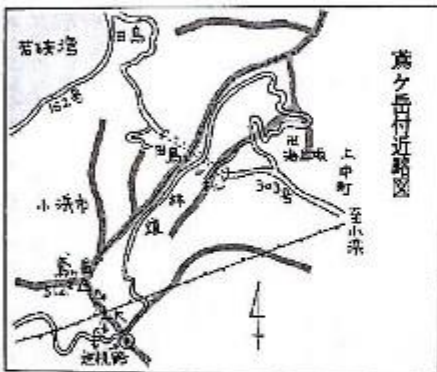


鷹ヶ岳(512・2材 地名・海士坂)

初級コース(★)

今津町から国道303号線を小浜市に向かっている。上中町からは若狭湾の田島に向かう道に入り、海士坂の集落に到着。田島トンネルの手前の村である。

村の中から右手の山に入る林道に取りつく。先年(2006年)には林道延長工事中で入れなかったが、今は立派に完成していた。舗装はされていないがよく整備された道で、鷹ヶ岳の山腹伝いを小



鷹ヶ岳付近地図

浜市にのびている。いったい何の目的でこんな立派な道が山の上に造られたのかよく分からない。

地図で上中町と小浜市の境界になっている稜線に到着する。ここが林道が一番高い所である。駐車し、林道で削られた斜面の道を尾根上に登る。刈り払いされているがあまりよくない。そのうち、左

下より良い道(巡視路)が合流して鉄塔に到着した。鉄塔からの150mほどは不明瞭だが、ササを分けて行くとススキのなかに三角点が見つけられた。航空写真があり展望は七割程度。海上はるかに常神峠が見える。

下山は鉄塔から遊覧路をくだると簡単に林道におり立った。駐車した所から100mほどは下り所である。もちろんこれを登るほうが楽である。この林道はまだ新しいので、2万5千円には記載されていない。(平成10年11月19日歩)

△コースタイム▽

林道取付(25分) 鷹ヶ岳

△地形図▽5万1000

2万5千1000

2万5千1000

2万5千1000

(平成10年11月21日歩)

△コースタイム▽ 鷹ヶ岳登り口(1時間30分) 稜線(35分)

二の谷山

△地形図▽5万1000

2万5千1000



二の谷山三角点

△コースタイム▽

林道取付(25分) 鷹ヶ岳

△地形図▽5万1000

2万5千1000

2万5千1000

2万5千1000

波賀町・一宮町界の山々
三久安山・阿舍利山
一山・東山

中級コース(★★★)
篠山 誠峰

兵庫県赤松郡の二つの町界を縦に連なる四座は、どの山も1000mを超え、いずれも不遇の山である。ガイドブックには載っていないし、ルートも判然としないやぶ山である。北から三久安山、阿舍利山、一山、東山と位置するが、北寄りほど標高は高く、アプローチの林道は奥深いし、山容も激しい。登山するにはマイカーで、春から初夏、晩秋から初冬がよいだろう。

三久安山(1123m)

姫路から国道29号線を北上し、山崎町を経由して一宮町に入る。安積で29号線から分かれて右折、三方町で左折して溝

谷の集落をめざす。途中に名水「千生水」が湧出している。溝谷を過ぎても林道はさらに奥までのびている。トンネルを過ぎて、プレハブの作業小屋まで来ると残雪が現れた。落石が林道を塞いでいるので車はここまでで登山支度をして歩き出す。右に大きくカーブした所に広場があり、フェンスにはハシゴが掛かっている。ここからいよいよ登山開始となる。

シクナゲの多い山道をしばらく行くとスパッと切れた庄に出くわす。何とかバランスで通過したが、ザイルを持参すれば心強いだろう。

鹿除けフェンスに沿って歩きつづいて道だが、我慢して右側を進んでいくと、登って来た支屋根は主稜線に到達する。ここはブナが残っていて台地状になっており、目印になるだろう。右に進路をとる。やぶは続くがテープがあるので慎重に行けばよい。残雪の小ピークに着いた頃、積なぐりの雪になった。正面に主峰が見える。登り返して到達した山頂は、やぶのなかに三角点があり、山名プレートが掛かっている。

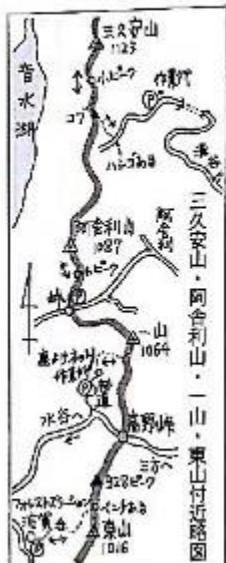
(平成11年3月28日歩く)

音水湖の水面の青さに驚く。葉を落とした樺間越しに見え、意外と間近に感じる。ブナの大木が二本あり、樹元を探したが、実は全く見当たらない。凶作の年に当たるとは知られない。

(平成10年11月29日歩く)

一山(1066m)
三方町で左折して直進し、高野峠をめざす。峠を過ぎ、くだつて行くと右に一山への林道が分岐している。道は荒れているので、早めに路肩に駐車したほうがよい。

やがて林道は行き止まり、作業場から左に登っていくと鹿除けフェンスに突きあたり、ここから不明瞭になるが右にササ原を進む。フェンスはさらに左に続くが、分かれて正面のやぶを進む。



判然としないルートだが、目印も間隔を置いて付けられているので、安心して登っていく。

約1時間、やぶとの格闘の末、頂上付近の植林帯に飛び出す。落葉樹の雑木林から森林に入るといっただけで何の目印もないので、下山時に迷わないように。

一山の頂上は植林のなかで視界もさかないので早々に下山する。一般的には阿舍利集落からよく登られているようだ。

(平成9年11月2日歩く)

東山(1016m)

今回は波賀町側から入山する。フォレストステーション波賀という宿泊施設が7月のオープンを控え整備が急ピッチで進んでいる。

入口の本館を過ぎ、コテージ村からオートキャンプ場に入る。直前に右へ未舗装の道がのびている。しばらく行くと終点になり、売店のようなログハウスがある。ここが登山口で道は奥へのびている。下



三久安山

阿舍利山(1067m)

三方町まで前跡のルートを進み、阿舍利林道に入って阿舍利集落をめざす。沢沿いの集落から林道をさらに進む広場になった所に出る。分岐を左の林道にとると次に紹介する一山に向かう。直進し斜面を上って行くと、峠に出たその先はほとんどどんくだつていく。登山口は峠の右にある。

ゆるい斜面を登っていくと、道は植林のなかを急傾斜で左にトラバースしていく。登りきって今度は右に進むが、ほぼ尾根道なので、慎重に目印を探しながら下山のことも考えて歩こう。

小ピークに出て、阿舍利山かと喜んだが、境界杭しか見当たらず、まだ先に本当の山頂はあるようだ。尾根にはブナが点々と残っていて目標になる。大きく登り返して、阿舍利山頂に登く。

草は刈られ、整備されている。ジグザグに登っていくとベンチのある稜線に飛び出す。左へ気持ちのよい散歩を楽しみ、地図上の9.8.8地点に着く。ここからは一山方面の眺望がすばらしい。

東山へはベンチの場所まで戻り、植林のなかを進む。ほぼ直線に傾斜もなく快適に歩く。突然植林から雑木林になる。ツツジのピンクが鮮やかだ。少し進むと背の低いササ原になり、山頂のような所に出る。登頂記念板や布が木に付けられているが、山頂はまだ先らしい。植林帯に入り、右の山頂をめざして登っていくと山頂に着く。眺望は全くさかないが、三角点があつてくるるける場所だ。東山で四座の登頂を終えたが、この山城の奥深さと静かなたたずまいは胸を打つものがあり、充実感いっぱい山頂を後にした。

(平成11年5月1日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 三久安山林道(2時間20分) 三久安山
- 阿舍利山林道(1時間40分) 阿舍利山
- 一山林道(1時間30分) 一山
- 東山登山口(1時間20分) 東山
- ▲地形図▼2万5千1音水湖

特選コースガイド

奥播磨

播磨側の新ルートから

藤無山

上じ なし やま
中級コース(★★★)
須磨岡 晴

播磨の最奥に位置する藤無山(1139.2m)は、播磨側から一般的な登山道が折かれていなかったのだが、今回地元の人たちの努力でルートが拓かれたので紹介する。

中国道山崎インターで降り、国道29号線を北上する。一宮町へ入り、安積橋信号を右に進み県道8号線へ入る。途中福知深谷入口を横目にそのまま進み、三方町集落口の三方橋を渡り、県道521号線を北進する。旅人の喉を潤した「千年水」を過ぎ、小原集落へ入りしばらく車を走らせると、二又路が目に付くので、これを右にとると山のなかの道となる。前方に簡易水直のタンク、その先に三倉

集落の赤い屋根が見えると、登山基地となる広場が近い。

志意を過ぎて広場に駐車する。これから先は地道で土砂が流され悪路となっている。

身仕度を整え歩き始める。周囲の風景は山の深さを感じさせる林相で整えさせてくれる。25分ほどで林道が分岐する。

「ふじなし山」の看板が左を指している。これで従う。さらに林道を20分ほど歩くと終点となる。歩いてきた方向をふり返ると、波賀町境の三久安山・阿舎利山・一山などのピークが望め、登頂を誇っているようだ。

ひと息入れて植林帯の袖道へ入り、山腹を捲くように進む。拓かれて間もないコースで踏み跡は浅いが、黄色のテープが頂上まで案内してくれる。植林帯を20分ほど進むと水量のある谷に出会う。谷沿いに進む、二度三度谷をクロスすると「ふじなし山」の看板が目に入る。これに従い谷沿いの植林帯のなか山腹を行く。見通しがなく足元も不安定なので杖テーパーを見落とさないようにしたい。

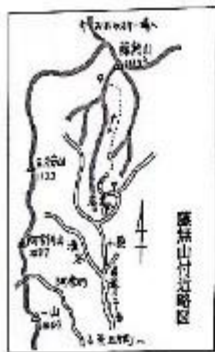
顔蒼も消え、歩きやすくなると植林帯から抜け、明るいカール状のササ地に出

山腹を下からつながらる小さな谷を越すと「ふじなし山」の看板が目に入る。これから先はネマガリダケの林床にブナやミズナラの木々が山頂まで続く。

一服したら、急坂の登りをゆっくりと進む。これから山頂までの間のネマガリダケの切り開きが地元の人たちの専任で行われたので、今回のコースガイドとなったのである。

息が上がるのもここまでで、山頂からのびる主尾根は傾斜もゆるくなり頂上が近いのを感じる。前方が明るくなって2等三角点のある頂上に出る。

これまで眺望がなかったが、南西方向の枝打ちをしたので南の展望がきくようになった。北東の展望はおおやスキー場側へ少し違った広場がよい。兵庫県の姫路市米ノ山山塊、妙見山から藤武宿の恒



馬中央山脈などの山並が交錯する。昔この広場の岩場に幾何神社がまつられていた。しかし、里からあまりにも遠いので、道谷・公文・若杉の各里に分社し、今も里では藤無神社としてまつられている。このような経緯から「幾何山」とも呼ばれていたが、現在は「藤無山」で統一しているようだ。

眺望を堪能したら下山にかかる。往路と同じコースをとるので、カール状の位置まで進むことはない。注意したいのは、急傾斜のネマガリダケを強く踏んでのスリップだ。杉林では黄テープに従い、左手が谷側になるように進むと、「ふじなし山」の看板のある谷に出る。やがて右手が谷側となり、山腹を捲きながら進むと林道へ出る。あとは、駐車場まで周囲の景色を楽しみながら歩く。

(平成11年7月13日歩く)

▲コースタイム
山崎インター(車1時間) 志合荘広場(約20分) 林道終点(25分) 「ふじなし山」看板(1時間20分) 恒利広場(30分) 藤無山(往路2時間) 志合駐車場
▲地形図V2万5千 百水南・戸倉峠

藤無山頂上にて (一宮町観光協会の人たちと)



る。汗を拭きながらふり返ると、波賀町境の山々の見開らしがきく。前方には播磨岡麓尾根のブナ林がシルエットとなって迫ってくる。汗が引いたら歩きだそう。動物の踏み跡が縦道にあるが、よく踏を入れたコースをとり、左上部の杉林へササ地に取り付けた黄テープが誘ってくれる。しばらく急坂の直登となり、ササで足元が滑るが、強く踏み込んで高度を稼ぐ。杉林へ入って間もなくして左へ折れ、藤無山

KOBEの登山専門店

スナックザック……汗対策のザックです。



- ウォーキングスナックタイプ
ベンチレーションサポートパッドにより背中
は常に快適。バックパネルがファンクッパで
取りはずし可能。新編マグネットを装備。アル
ミフレーム内蔵。
日帰りから一泊山行まで最適。かつど長まで
設計のアタックタイプです。
- カラー：ゴールド×レッド・イエロー×ブルー
・イエロー×ワイン
- 容量：28L ●重量：1,400g
- 素材：エスカルリブストップ使用
- 価格：¥13,000

「イモック」遠征から
春夏秋冬、シーズンを変え
て早山・名山・名山を歩か
せます。詳細はお問い合わせ
下さい。

イモック
70L

IMOCK
70L

神戸ザック
〒650-0201 神戸市東灘区大塚7-2-1
TEL:0781621-2451
FAX: 021-3558

戦国時代の遺跡と1等三角点の山

田上山と呉枯ノ峰

初級コース(★) 柴田 昭彦

天正十一年(1583)4月、羽柴秀吉と柴田勝家は余呉湖を挟んで対峙し、... 田上山の南麓には意富布良神社がある...

社の境内地に隣接して、時宗、田神山観音寺がある。

滋賀県教育課編『神社由緒』によれば、「田神山」に、神之宮という三社をまつた社殿があったが、天正の頃...

江戸期の近江国絵図や二万分之一地形図「木之本村」(明治二十六年刊)...

田上山の北北東にある533.7の三角点ピークには今日でも地形図には山名が記載されていない...

本誌6号の多摩川遊覧「殿ヶ岳と呉枯ノ峰」において「この山の西側の緩斜面は、...」



を旗や狼煙(のろし)で本城へ知らせたという言い伝えが残っている」とある。

れる。山頂でも現地の山名がそのまま採用されることは少なく、現地の地名と音連の表記が便宜的に採用されることもある...

一方「近江百山」には「呉枯ノ峰」は、ミノを広げた形に似ていることにより、一名大箕山ともいわれている」とある。

田上山の遺跡



一月で、翌年九月に恒徳、惣測されている。点名は、呉枯ノ峰である。

箕は稜と異なるはずだが、伏木貞三「近江の山々」(自刊書院、昭和55年)には「大箕山(五三三メートル)は木之本町の中央にある山」とある。

「大箕山」は菅山寺の山号で、その付近の国有林の名称でもある。対象が正しいであるが、秋葉には菅山寺を囲む山を指し、広義には大見の西側にある山体がわかる。



呉枯ノ峰1等三角点

を指すようである。菅山寺は余呉町大字坂口字大箕山であり、呉枯ノ峰は木之本町大字赤谷山となっているので、呉枯ノ峰を大箕山と呼ぶのはあまり適切ではないかもしれない。

最近の「呉枯ノ峰」のガイドでは、坂口から菅山寺に寄り、山頂を経て木之本へくだるコースがよく紹介されている。ここでは赤川林道から山頂と菅山寺を訪れ、田上山から木之本へ戻るコースを紹介しよう。

JR木ノ本駅で降りる。駅前の焼肉店の右側から東へ進む。道が行き止まりになるたびにわずかに左へそれると進路が現れるようになっていて、北国街道を横

切り、伊香高校の手前で左折して赤川沿いに林道を北上する。小油池のそばに説明板があり、寛政五年(1793)完成の用水池であることがわかる。少し先の大油池は承応二年(1653)の完成という。林道は砂利道である。橋を過ぎてすぐ右手に治山工事専用道路があり、進入禁止の看板がある。この右手の谷が藁子谷で、呉枯ノ峰の呼称と関連があると考えられている。川の右側の道は左側に変わる。不法投棄禁止の看板の横に「交通安全運動実施中」のプレートを付けたワゴンが廃棄してあるのは不可解である。ほどなく右側に戻る。左側に移ったあとS字カーブになる。地形図にある鞍部への道は見当たらず、そのまま林道を進む。前方に堰堤が見え、コンクリート舗装が現れたら、その手前にある左手の階段を上がる。入口は分かりにくいですが、はきりした道になり縦走路に出合う。道標に従い右へ登る。なかなか味わい深い道で、やせ尾根を経て分岐点に出る。その手前の道は元は尾根伝いであったが今では廢道にしてある。分岐で右をとると三角点のある呉枯ノ峰の山頂に達する。尾根伝いに木之本にくだるルートがよく使

われるが、筆者が利用した際には4等三角点(点名は千田)を過ぎてからジグザグの急坂の部分で倒木が多く歩きにくいという印象が強かった。先の分岐に戻り菅山寺へくだっていく。鞍部は展望がよく、登り場所に最道である。案内板があり、坂口からの表登山道とワッペン・余呉・赤子山スキー場からの車道終点の駐車場につながる道が分岐している。早成七十年に滋賀県が整備した中部北陸自然歩道が通過している。湖北四大寺の一つとして知られる古刹・菅山寺へくだる。落葉広葉樹のカエデやブナ類、常緑針葉樹のスギやモミ、照葉樹のカシやツバキが混成して、優れた景観を生み出している。新緑が美しい。晩秋の黄葉・紅葉はさぞかし壮観であろう。

くりであることは興味深い。

寛平元年(889)、菅原道真は盛験があったため寺院を中興し、寺号を大箕山菅山寺と改称したという。朱雀池は道真が自分の姿を映し自ら等身像を刻んだことから「姿見の池」ともいう。筆者が初めて訪れた時に池に横たわっていた剛木は、「一回目の時には撤去されていたその美しさを取り戻していた。まわりの諸堂、巨樹、草花、野鳥・虫の音がわれわれを



龍頭石

井蔵な世界に誘う。

山門にそびえ立つ、道真お手植えと伝えるケヤキはそれぞれ高さ15材と20材の巨木となって見る者を圧倒する。庫裏の右手の石段下には弘法水があり、今でも春秋の大祭などの行事に使用されているという(『龍頭石』水ノ本和信著)。

菅山寺を辞して、田上山をめざす。赤川林道への分岐を過ぎて鞍部に着く。登り返してほどなく分岐に出る。右にそのまま進む道は旧道で途中まで登けるが、後はやぶになる。左をとり坂を登る。夏場にはやや草が茂るが田上山公園に入っていく。城跡を示す堀切が現れるとほどなく山頂で、左手に羽柴秀長の墓碑という表示板がある。段になっていて城跡地形がはっきりと分かる。すぐ先の右手に説明板がある。くだっていくと分岐があり、左をとる。左手に石碑がある。ここは意富布良神社の聖山の大洞山で、古米露峰として神聖視されたという。少しやぶがちの道をつくと高らしいの森に出る。

広い道をしぼくしたり、西国観音が現れたら右手の細い道をおり田神山観音寺に到着する。隣は意富布良神社である。

立派な鳥居が並び、由緒書の石碑が立つ。眼病平瀬と長壽祈願の信仰で有名な木之本地藏(長寿山尊信寺)に立ち寄って木ノ本駅に戻る。(平成11年5月2日・8月2日歩く)

(追記)大箕山は元米一つのピークではないため、地図に表示すると異説を生じてしまうことになる。木之本町の案内パンフレットの地図には菅山寺参道の最高地点(案内板のある)付近に山頂の印がある。「ニューエスト滋賀県都市地図」(図文社)には呉枯ノ峰の位置に大箕山とある。一方、「近江湖北の山」の地図や『琵琶湖周辺の山』の大箕山の項では482mのピークを赤子山としている。大見の西側の山体を広く大箕山と呼び、特定のピークに定めぬことが望ましいよううだ。

▲コースタイム▼

- 木ノ本駅(1時間) 赤川林道分岐(45分)
- 呉枯ノ峰(50分) 菅山寺(1時間45分)
- 田上山(35分) 意富布良神社(15分) 木ノ本駅

▲地形図▼2万5千1木之本

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽近鉄万歩ハイキング「富田林寺内町を抜けて」 11月9日(日)雨天下中止 (集合)夕ノ宮駅 朝陽寺7時40分 (コース) 夕ノ宮駅 朝陽寺 龍泉寺 滝谷不動明王寺 赤穂邸 富田林寺内町 富田林駅(約12分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽販売されたハイキング「東明神古墳から新沢千塚古墳へ」 11月7日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 10時10分 (コース) 志保山駅 東明神古墳 マルコ山古墳 カンヌ塚古墳 益田古墳 小谷古墳 新沢千塚古墳 夕米寺 福徳神社 福原神社 夕米寺 (約11分) 参加自由・無料 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄フリーハイキング「飯盛寺から紅葉の赤目滝へ」 11月13日(日)雨天下中止 (集合) 赤目駅 10時 (コース) 赤目駅 柳葉寺 赤目滝 日本ナショナルセンター 千手滝 百岩岩 隠岐滝 屏風岩 赤目滝 (バス) 赤目駅 (約10分) 係員は同行しません (参加自由・無料) (バス代入場料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

京阪

▽近鉄万歩ハイキング「大和十三仏巡礼第3回三番寺」 12月15日(日)雨天下中止 (中止の場合) 12月19日(日)に延期 (集合) 鶴橋駅 9時33分 (コース) 鶴橋駅 当麻町ステーションター 当麻寺 念堂 二上山 (蓮花寺) 万葉の森 竹内街 飯沼 藤原寺 藤原三氏墓 上ノ本駅 (約13分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

南海

▽近鉄万歩ハイキング「大和十三仏巡礼第3回三番寺」 12月15日(日)雨天下中止 (中止の場合) 12月19日(日)に延期 (集合) 鶴橋駅 9時33分 (コース) 鶴橋駅 当麻町ステーションター 当麻寺 念堂 二上山 (蓮花寺) 万葉の森 竹内街 飯沼 藤原寺 藤原三氏墓 上ノ本駅 (約13分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

神鉄

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

山陽電車

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

京福

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

同行しません (参加自由・無料) 上本町事業部 (66224) 036063

千光寺 鴨川 神保町 牧野神社 牧野神社 (約10分) 係員は同行しません (参加自由・無料) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

▽近鉄万歩ハイキング「たかとり」 11月28日(日)雨天下中止 (集合) 志保山駅 9時40分 (コース) 志保山駅 志保寺 五石神社 佐野神社 志保山 志保寺 志保神社 (約14分) 参加自由・無料 (詳細料別送) 上本町事業部 (66224) 036063

は寒いくらいの涼しさです。一日は朝から雨模様で1時間出発を遅らせ、リフトを乗り継ぎ2570分のリフトに乗って、森に囲まれた豊かな牧草地に牛や馬たちがのんびりと草を食べていました。

心配していた雨も止み、可憐な高山植物の群生に秋色がわき上がり、カメラのシャッターを忙しく切りました。周辺の山を見渡すと、万年雪を被った峰々はガスで見え隠れし、楽しみにしていたロートキース氷河は断念して、なだらかな草原のお花畑をめぐってしまいました。

牧草地にカリベルを付けた牛の群がカラカラと音を立てて遊んでいる風景は、子供の頃見た絵本のなかのアルプスの風景そのままの姿で、強く印象に残りました。

山や森の自然に囲まれたチロル村は三角屋根のホテルや民家が建ち並び、ベランダや窓辺には色とりどりの花が咲き誇り、風情豊かなとても美しい村でした。エーデルワイスの花も見る事ができました。

オーバーグルグルは山間の中腹の村で、より高い位置にある村をホッケーグルグル、低い所の村をワンターグルグルと言うそうです。

高い山に囲まれたオーストリアやスイスは、雪渓や渓谷が折り重なり水がきれいでいた。アルプスの迫力、優しさ、そして高山植物の豊富さに圧倒された山麓ハイキングでした。

(前田幸子)

7月末の土曜日、長野県の高ボッチを散策してみました。高ボッチは、霧ヶ峰や美ヶ原のような高原ですが、両者はほどに観光化されており、人も割合少なく、いわば穴場のよう存在と云えます。南の丘陵状の高ボッチ山と北にピークを描く鉢伏山と大きくエリアを分けていますが、どちらも山頂直下まで道路が通じています。

6月のレンジアップ、7月のニコウキスゲ、8月のマツシノウの群落が人気を博していますが、この高原のあちこちから望む山岳展望もすばらしく、私は時勢品だと思っています。

八ヶ岳連峰の会景、南アルプス北麓、その両者にはさまれた富士山が諏訪湖を背景にして長く絶景を引きます。南アの西には、中央アルプス・御岳・乗鞍岳、そして北アルプスも西穂高から日湯まで一直線に並び、「こららの山で見えないのは白山と立山くらい」という感嘆の声もあがるほどです。

高ボッチは、長野自動車道側谷インターから国道20号線を塩尻に向かい、塩尻峠で案内板を見てそこから車で30分という短時間で。

天気にも恵まれ、見晴らしのある日にこの付近を通りかかった時には、ぜひ立ち寄られるようおすすめします。(鷲見守康)

梅雨が明けた7月25日に飛騨の山に入りました。新穂高温泉より2泊3日の山旅です。コースは岩壁の穂高連峰をたどり、段々と憧憬の槍ヶ岳をめざし、下山は飛騨沢をくだり新穂高温泉に戻る。前田川沿いの露天風呂で三日間の汗を流しました。山歩きは51歳から始めましたが、今年1月に新ハイランドに入

会させてもらい、御池岳の自然探査・槍ヶ岳の山歩きに参加、今までのピークハンターから卒業でき、山を楽しむことを教えてもらいました。ちなみに今までの山歩きでは体重が減っていたが、今回は増え、写真も30枚撮り四本の思い出を残すことができました。

(塚本國男)

8月上旬、今年二つ目の夢を実現した。木曾御嶽山の登山である。平成五年の秋、滞在所帯から御嶽岳の麓方の雲海に浮かぶ山を御嶽山と教えられて以来なので、六年ぶりに念願を果たしたことになる。

朝6時に田の原を出発し、標高3000mの御嶽山頂上に立ったのは9時45分であった。そして幸運にも、曇一つない晴天に恵まれ、すばらしい展望を心ゆくまで楽しむことができた。下方はやかに田の原と王滝口登山道、右下に王滝頂上、その続きに奥の岳が眺められる。正面に

見る中央アルプスのりっぱなひと。少し左に目を転ずると、眼下に黒沢口登山道、そして乗鞍岳が遠望される。その手前には緑水を湛えた二ノ池、水の溜れた一ノ池も印象に残った。社務所の裏手に廻り、先鋒の岩壁上から昭和五十四年に噴火したという地獄谷をハッピー眼で覗き込んだりもした。

(東谷 英)

今年も妻と二人で北海道の山へ行く予定です。標高峠大雪山は、ロープウェイが休業中とあって入山者が少ないと思っていたが、さにあらず、多くの人で賑わっていた。ガスの未来する山頂であったが、一等三角点に遊歩道があった。下山後、十勝岳温泉「カミキ

ロ荘」に到着。翌朝晴天のなか、富良野岳から上ホロカメトック山を廻り下山した。その後、「カミキロ荘」が不運にも全壊した。露天風呂がよかったのに残念だ。

(津津浦三)

99年度の東山登山(前穂・奥穂・西穂・槍ヶ岳・常念・鏡ヶ岳・双六・笠ヶ岳)は、諸般の事情でいすれも単独行となった。そのため、事前の山行計画策定に当たり、槍ヶ岳と常念があることとされている西文社のガイドマップ「高地地・槍ヶ岳」を参考としたが、実地後、そこに記載されているコースタイムに疑問を感じたところが少なからずあった。マップが大きいと思うので、具体的な事例を左記に列記する。

汗をたっぷり流せる温泉と笹ヶ峰のシャブシャブ、日本海の絶景と山の幸、ハイカーの宿、ナガサキロッジ

千949-2100 新潟県中頸城郡妙高町池の平温泉 ナガサキロッジ 02255-8612261

高山の花、深淵の花、妙高山と大雪山、百丈山を二日かけて登る山小屋、黒沢池ヒュッテ

千949-2100 新潟県中頸城郡妙高町池の平温泉 ナガサキロッジ 02255-8612261

休憩する人も汗も乾いた10名以上マイクパスで遊覧、箱根山石原温泉、箱根山石原温泉、千949-0660 神奈川県足柄下郡箱根町箱根133 0460-413041

「信濃赤坂」の温泉、レトロな宿、眼下に山岳の雄姿、湯ヶ野温泉、湯ヶ野野荘、湯ヶ野温泉、湯ヶ野野荘、千949-05007

千949-05007 湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、千949-05007

千949-05007 湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、千949-05007

千949-05007 湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、千949-05007

千949-05007 湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、千949-05007

千949-05007 湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、千949-05007

千949-05007 湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、千949-05007

千949-05007 湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、千949-05007

千949-05007 湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、湯ヶ野野荘、千949-05007

タイムが短い。池の平、本谷橋、木谷橋、横尾、前常念岳、常念集道。

タイムが長い。巨匠、紀美子平。

今回の山行の情報源として、他社の雑誌・ガイドブック・ガイドマップなども参照したが、いずれもは重要なタイムが記載されている。

明文社のガイドマップについては、他の山城のものにも、不満を感じているところがあるが、「高地・池・穂高」よ、お前もか」と改めて実感した次第である。(吉藤幸次)

2月中旬、甲斐駒ヶ岳へ黒戸尾根を登った。当日は大変蒸し暑くてバテてしまい、五合目の小屋まで仮眠し、翌日仮装で頂上までピストンした。

下山は、白州方面へくだった。途中二、三ヶ所、谷筋の道が崩れていて注意を要した。なお、五合目小屋は現在休業中で、かなり痛んでいる。七合目まで行けば、白州町営のりっぱな小屋があり、水も豊富だった。黒戸コースは昔の表参道で、関

西の大峰山のような修験の道であり、結やハンゴが数多くあり、適当にスリルを楽しむことができる。(山科邦彦)

山中でイノシシに会った。目の前に突然現れたので首を下げていたホイッスルを吹き鳴らすと、驚いたのか小さく跳ねた。まびすを返して山の斜面を水平方向に去ってくれた。そのホイッスルが聞き覚えのある音で、鼻先を振り鼻汁を撒き散らしながら、のそのそとした駆け足で面割くさそうであった。

私はこのイノシシがクマより怖いのだ。三年前ゴトゴトと言う音がして気がつくといノシシがこちらに向かって走り出してきた。頭突きと思いつき、鼻先から私の太股に当たってきた。肉が当たった時点で痛くはなかったが、その圧倒的パワーで転がされてしまい、怪我はなかったが鼻汁でズボンがぐしょぐしょになり気持ちが悪かった。もしこれが牙を持った雄のイノシシであったら、転がった私はその牙でスタスタにされていただ

ハート広場で眠る土偶の僕はユリの色香を予守歌にする

6月13日 台湾別荘

まっさらの登山帽に羽根を押し

緑の園へ旅に出ようよ

6月22日 六甲石切道

山の花園に砂漠の青いケシ咲けば

はるかなるヒマラヤを想え

7月10日 越前赤虎山

岳人へ咲けよ咲けニコウキスタ

圧降る夜は花弁閉じて眠れ

7月15日 高城二上山

天のふたかみの夏神曲曲こえ

晴隠せし山々さまよえ

7月20日 中宿南木曾岳

山なみに背を生む霧雨に濡れて

原生林の彼方へ祈ろう

7月25日 若狭雲谷山

湖より鳴り出る熱情の運びびき

夏の光に透き通る樹林

8月7日 立山連峰浄土山

浄土への扉開ければバラ色の

幻影走る宇宙のまきはし

8月7日 立山連峰大汝山

呼びかければ光源を発す

8月7日 立山連峰別山

今年の1月1日から、西国三十三ヶ所の巡路を続けている。今だに百廿五の身で、1200ヶ余は連続して歩き続けられない。33番札所「谷汲山華嚴寺」へは、年末になって結願しようと考えている。
一番札所「那智山三尊御寺」で御米光を拝した後、熊野古道へ歩き出して、はや8ヶ月が過ぎてしまっている。その間、冬枯れの山中越へ、早春の南部稲林、そして竹内街道から奈良へは、桜のトンネルを抜けたりもした。一番の感懐は、目ごとに緑を増す山の木々を見せ味であった。
巡礼者が歩いたであろう街道を行くと、路傍の地蔵が目にくくが、手を合わせ作法ができないので心に声を掛けている。旅人が道標を測った道標を見ているという安堵感に浸っている。昔、多くの人たちが歩いた所

あろう。虫の歯が刺さると、しゃむに突っ掛かるところがたまになく怖い。

もっと怖いのが野犬だ。遠くから立ち止まってこちらを見据えている姿を見ると驚え上ががてしまう。人間との折り合いが悪く恨みでも持った山に入ったのであれば、人間の素姓を知っているだけに怖い。ベットのしめ縄に刺さっている動物が捨てられたり逃げたりしているというが、その後どこで生活しているのだろうか。山にでも入ったのであろうか。
すでに水中ではブラックバスやブルーギルが在来種を駆逐して繁殖を続けており、空中では異常に繁殖したインコが森を占拠しているというのではない。山中でもアライグマやヌートリアやスカンク、エリマキトカゲなどに会える日がくるかも知れない。(山形 明)

山行短歌
6月7日 ハッ岳連峰赤岳
三角点を抱きしめ赤岳に立つも
風雨は荒れて何も無き世界
6月8日 鏡面六箇山

近江白山之会が今年5月に出版した「近江白山」には、鈴鹿の山々も23山含まれています。小生が来年から新ハイキングの例会でめざすのは鈴鹿百名山ではありません。
小生も願う鈴鹿百名の会は鈴鹿山脈を名のる山を百座数った人で構成されていますが、百名山は確定していません。現在、中高年の登山ブームで、「百名山」「花の百名山」はまた「百名山」「三百名山」まで準備されているようでも、まるで何百名山でなければ山ではないかのような風潮です。
白山百名とブームに乗っていただけ、入道の中に入っただけになるでしょう。人それぞれ考えで歩くのですから、他の人の行動をこやかく言えませ

千原街
百八十七「観音院」
ホテル
白馬プランシエ
Tel: 0266-9300
〒399-0201 白馬市北安曇郡白馬村いわたけ
0266-72-4452

八ヶ岳北麓
八ヶ岳北麓
オールン小屋
1泊2食付き 6000円
4月より11月まで開設
〒399-0201 白馬市北安曇郡白馬村
0266-72-299

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー
JR東海線北八ヶ岳登山口まで
徒歩15分
〒399-0201 白馬市北安曇郡白馬村
0266-72-299

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
〒399-0201 白馬市北安曇郡白馬村
0266-72-299

九州の最南端、日本百名山
宮久島グリーンホテル
〒890-0001 宮久島
099-476-1411

紀の国屋甚八
1泊2食付き 4000円から
〒960-0001 高松市
0266-72-299

朝明茶屋
山小屋
〒960-0001 高松市
0266-72-299

朝明茶屋
山小屋
〒960-0001 高松市
0266-72-299

朝明茶屋
山小屋
〒960-0001 高松市
0266-72-299

朝明茶屋
山小屋
〒960-0001 高松市
0266-72-299

んが、百名山は各人が違った山々から選んでみてはいかがいでしょうか。
 (山田明男)

本誌格好の「藤武岳」の紀行の末尾で多摩氏が「読者十人」以外に記録を知らない」と記載されているが、「兵東の山やま編集録」(多摩繁次著、昭和五十二年神戸新聞出版センター発行)の中で「思いでの藤武岳へ」。「アルペンガイド別冊大阪周辺(山200)」(1985年、山と溪谷社発行)の中で「河瀬溪谷から藤武岳」。「中高年向き山100コース関西編」(昭和57年、山と溪谷社発行)の中で「河瀬溪谷から藤武岳」があり、最近では「百山百山」から行くで「藤武の山脈」(友保深澤編著、昭和七十七年出版発行)の中に「藤武岳から神納温泉」。「いで湯の山脈関西周辺」(山と溪谷社85年発行)でも「藤武岳、神納温泉」が記載されており、昭文社からの「エアリアマップ水ノ山」にも記載されている。
 関東の人にとっては無名の山であるが、関西の山人にとって是有名な山であると考えている。

〔阪上義次〕

昨年歩いた北アルプスダイヤモンドコースを、紀行文にして投稿したら、幸い特号に掲載された。その文中、黒部五郎小舎テント場で夕食をしている時「写真を取りに来たいた山溪」までが、試食していった」と書いた。以前にも、写真を取られて嫌うないことがあったので、どうせ載らないだろうと名前まで載せたのだらう。「ヤマケイ」O.Y.夏号の「テント場敷き」に、写真・名前入りで掲載された。知人数人から電話があって、とうとう本を購入するはめになった。もともとこれには裏があり、Kさん・Sさんがしょって行って、調べてくれ、私は食べる人だった。(日野龍雄)

写真に撮った雄雉



間に注意して静かに近づくと、鹿は気づかない。3〜4分手前でカメラを出して待った。寝込んでいのか全然動かない。「死んでいる」「ケガしている」「腹に掛っている」などと声が出た。そのうちゆっくりと起き上がり、こちらに向きを変えた。逃げない。大きな雄鹿だ。角が美しい。緊張が走り眼み合いが驚き殺気を感じた。ストックをしっかりと握りしめて待った。鹿はゆっくりと向きを変えた。逃げるのかと思ったが逃げない。振り向いていつまでもこちらを見ている。やがて右顔面のササヤぶをゆっくりおろしていった。
 四日前守山市の谷さんがこの尾根に登った時も鹿が飛び出し、文三ハゲを一気にかきおろして、

たと可われた。
 今頃は私たちが先に気がついて近づきすぎたので雄鹿を怒らせたようだ。しかし野生の雄鹿を間近に見てカメラに収められ、忘れられない山行となった。
 (若野 明)

八月山野行
 1日「やまと地形図の会」雨の1△大台ヶ原山案内。27名。
 8日「大和登山歩会」酒川自然探究路案内。涼しい。24名。
 5日 伏見公民館「大和の時を歩く」赤石48滝、橋立、倉瀬川案内。46名。
 19日 伏見公民館「大和の水辺を歩く」天川河川合、橋尾(円空仏)、相田案内。参加49名。
 22日「涼のついで」II△白黒岳案内。暑い。参加22名。
 25日「時一番」例会。青朗、水越、折りの滝、寺田橋案内。参加41名。
 29日「関西地図の会」例会。参加。明石、野島、所、淡路島公園、神戸大史の「地図展」へ。
 31日 ウーマンライフ社「やさしい登山」曹根ヶ峯案内。36名。
 (上田洋弘)

山行計画
 (11・12月)

近畿百名山に登る(第5回)

このページの山行計画には、「会員に限る」と表記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキにて記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。申込・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込みは参加できなくなった場合は必ず後で連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

山行申し込みは、申込書に記入し、必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。申込・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込みは参加できなくなった場合は必ず後で連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

山行申し込みは、申込書に記入し、必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。申込・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込みは参加できなくなった場合は必ず後で連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行申し込み書
 山行名 (正確に記入すること)
 期日
 住所 〒
 氏名
 会員番号
 (会員でない方は会員外と記入)
 電話番号
 生年月日
 緊急時の連絡先 TEL
 (山行中の連絡先を記入)

往復ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

近畿百名山に登る(第5回)
 期日 11月2日(日)夜、3日(月)前夜
 集合 (2日) 京都駅八条西口
 (3日) 京都駅(バス)
 (2日) 京都駅(バス)
 (3日) 京都駅(バス)
 費用 約8000円(バス代)
 地区 5万川原山・横山
 係 河田智俊(河田正勝)
 申込み 6時30分(河田正勝)
 夜叉ヶ池から林道のやぶをこいで三國峠へ登ります。雨天中止
 名山散歩
 大峰八幡ヶ岳・大台ヶ原山
 (やや難関向き)
 期日 11月3日(日)〜7日(木)
 集合 (6日) 名古屋駅大門口
 (7日) 名古屋駅大門口
 コース 名古屋駅(バス)行者道

山行例会の実施について
 山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要があります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項は忘れなく記入してください。申し込みの返信案内は朝日社が決め次策、山行日の10日前頃にします。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。
 記載のグレードは、常日道山歩きに親しんでおられることを前提としています。
 (初級向き) やや辛いコース
 (初級中) となたでも歩けます
 (一般) ハイキングの標準コース
 (中級) かなり絶頂のコース
 (やや難関向き) (難関向き) は、危険箇所があり、キツイ登りやくだりが長く続くコースとご理解ください。

トシネル西口→聖王ノ宮
跡ノ登山ハ八幡ヶ岳ノ赤
山ノ石林ノ宿跡ノ行着速
トシネル西口(バス)大
台ヶ原(宿)

コース 宿ノシオカラ谷
(7時)宿ノ正木ヶ原日
出ヶ原→大台ヶ原(バス)
出ヶ原→大台ヶ原(バス)
名古屋駅(解散)

費用 約18000円(バス・
宿泊代)

地図 2万5千円 登山・大台ヶ
原山

◎秋葉登山 〇石田 駒
◎伊藤山遊歩

◎多田礼子 〇内田恵子
〇濱川セツ子

申込み T1201-86691
〒120-86691
足立郵便局私書箱第17号
新ハイキング常陸グルー
プへ

*定員25名(会費は別金)
*(10月27日まで)

新ハイキングクラブ東京合同。
紅葉に遊べる百名山(一)座をピーク
ハントします。雨天決行

地図読み山行37
北坂・鉢伏山(一般向き)
期日 11月7日(日) 日帰り

集合 北大阪急行(地下鉄御堂
筋線)千石中央駅バスター
ミナル9時15分

コース 千石中央駅(バス)藤尾
寺→箕川ダム→みのお
記念の森→鉢伏山(自然
歩道)→箕川ダム→飯堂
真面駅(解散)

費用 約15000円(大坂から)
地図 2万5千円 広根・伊丹
◎豊元一彦 〇中村 登
申込み T5361-0008
大阪市城東区関白4の4
の9の9 塚元一彦まで
*定員30名

紅葉の北側の山を歩いて増田統
るとコンバスの使い方を学ばしま
す。初心者歓迎。指定の地形図と
シルバー型コンバスを持参くだ
さい。雨天中止

鈴鹿・野登山(中級向き)
期日 11月7日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口
7時20分/JR亀山駅8
時55分

コース 亀山駅(タクシー)車止
め→菅林小屋→木崎明王
一山の石→仙鶴屋根→野
登山→坂本→石水溪(パ
ス)

〇山山駅(熊鷹)時刻
表 約3000円(古古屋か
ら)

地図 昭文社「御在所・鎌
倉」

コース 〇小山良春 〇菊倉利己
申込み T610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
連絡したピークの向尾根から仙
鶴屋根を通り野登寺に行きます。
杉の巨木に囲まれた野登寺は一度
は訪れてみたい所です。申し込
みハガキに集合駅を明記ください。
雨天中止

鈴鹿・石標峠から藤原岳
(初級向き)
期日 11月7日(日) 日帰り
集合 三城鉄道西藤原駅駐車場
7時00分

コース 西藤原駅(鹿き車)石標
峠→赤ヶ中→静ヶ岳→鏡
子市→藤原岳→西藤原駅
(バス)石標峠(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「雲仙・伊吹・
藤原」
申込み T610-0121

城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
+マイカー山行(JR河
内駅通ります。乗車の方
は添乗ください)

石標峠から藤原岳を北へ藤原岳
まで縦走します。雨天中止

鈴鹿を歩く⑧
雲山山新ルート(初級向き)
期日 11月7日(日) 日帰り
集合 上丹生いぼり地蔵場
8時00分

コース 広場(北)谷山谷登山口
→漆ヶ滝→井戸ヶ滝→ミ
ウタヶ滝→井戸ヶ滝→藤
原屋根→おさる岩→上豆
比ン坂道→上丹生いぼ
り地蔵場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「雲仙・伊吹・
藤原」

申込み T610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
連絡したピークをめぐり、幻
の雲仙寺子池を歩く新ルートです。
雨天中止

週末ハイイクロ
湖北・横山岳(中級向き)
期日 11月13日(日) 日帰り
集合 JR木之本駅取り時の分
コース 木之本駅(バス)杉野岳
協前→日谷登山口→紐ヶ
滝→上芝子ノ滝→横山岳
→杉野岳→コニチ合→杉
野岳協前(バス)長良川駅
(解散)17時迄

費用 約6000円(大坂から)
地図 2万5千円 美濃川上・近
江川合

◎加藤元彦
申込み T610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
紅葉の名勝を求めて晩秋の湖北
の山を歩きます。少しハードな登
りがあります。小雨決行

養老山系自然観察ハイイクロ
兼道・笠ヶ岳(一般向き)
期日 11月13日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(集合)近鉄養老
駅→養老公園→三方山→
旧牧場→笠ヶ岳→旧牧場
→養老公園→近鉄養老駅
(解散)大垣駅(解散)

費用 約15000円(大垣から
JR車代・リフト代等)

地図 2万5千円 養老

◎野田幸康
申込み T604-0828
各務原市藤原町1の
19の19 藤原守康まで

山系縦断の至ヶ岳を歩きます。
自然の雄姿と奇蹟の影に伴う不規
則な歩き方が吉にならない方に参
加ください。小雨決行

〇後継の訪れ
御湯宿の池と西郷隆盛山行(初
級)やや(初級向き)
期日 11月14日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅8時20分/
三城鉄道西野原駅9時00
分

コース 各集古駅(車)コグルミ
谷登山口→カタクリ峠→
廣の谷→夏のオクナブチ
一栗の池→ボクタン岩→幸
助の池→ボクタン→丸
山→丸瀬→コグルミ谷
(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千円 藤立
申込み 〇山田明男 〇高原幸彦
T503-9355

飯沼峠津波前南新松山
60の16 山田明男まで
*定員15名(大阪・京都
方面からの電車の方は関
ヶ原駅より車を手配しま
す)

高松した林のなかを落ち葉を踏
んで歩きましょう。*申し込みハ
ガキに集合駅を明記ください。マ
イカー参加の方はその旨お知らせ
ください。小雨決行

平日ふれあいハイイクロ
北山・浅敷岳と方松峠
(一般向き)
期日 11月16日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄丸太線北大路
駅西口(バス)のりば7時
30分

コース 北大路駅(バス)岩瀬橋
→養老峠→浅敷岳→方松
ヶ原→担次谷峠→石仏
峠→担次谷峠(バス)北
北大路駅(解散)17時40分
迄

費用 約16000円(大坂から)
地図 昭文社「五葉山」
申込み T610-0121
城隍市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
浅敷岳をめぐる北山の静かな峠
を結んで歩きます。雨天中止

平日木曜ハイイクロ
リトル比良(一般向き)
期日 11月18日(日) 日帰り
集合 JR湖国線近江宮原駅
8時00分(バス)のりばハ
コース 近江宮原駅(バス)音羽
→長谷寺→音羽宮原→岳
山→オーム岩→石川砂利
山→錦川源→寒風峠→北
小笠原(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「比良山系」
申込み T610-0121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
比良でもっとも静かな山歩き旅
を楽しむのがリトル比良の山歩き
です。森では紅葉が終わって冬木が
増えつつあるなどよいよき季節
近づく。紅葉決行。雨天中止

高井・頼井岳(一般向き)
期日 11月18日(日) 日帰り
集合 近鉄名古屋駅17時25
分/近鉄養老駅10時00分

コース 福原駅(バス)香野峠

福原駅(バス)香野峠

費用 約3,900円(バス代除く)

地図 2万5千切縮

申込み 60100121

城野市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

大和宮土と呼ばれる福井

と万葉歌入山部赤人の墓、成長寺

の境内には樹齢六百年の大イチョ

ウと樹齢五百年のケワの大があり

ます。*申し込みハガキに集合

を明記ください。雨天中止

鈴鹿を歩く82

雨乞宮新ルート(雲畑向き)

期日 11月21日(日) 日帰り

集合 国道477号線有念林

コース 林道入口(車) 清水平谷

林道入口(車) 林道入口

ナゲの尾根(西尾根) 南

雨乞宮(雨乞宮) 雨乞宮

香(清水の頭) 清水平谷

林道入口(解散)

費用 交通費各自

申込み

60100121

城野市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

雨天中止

鈴鹿を歩く83

北山ちよつと歩き

期日 11月24日(日) 日帰り

集合 京都東下鉄道丸線大原

コース 北大原(バス) 大原

日光院(徳杉山) 分岐(夫

々) 三叉路(三叉路) 三叉路

費用 約1,000円(バス代除く)

地図 昭文社「京都北山」

申込み 60100121

城野市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

雨天中止

名山開歩

大島・三原山(一般向き)

期日 11月28日(日) 日帰り

集合 前夜祭(泊) 2日

コース 名古屋駅(約25分)

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

名山開歩

大島・三原山(一般向き)

期日 11月28日(日) 日帰り

集合 前夜祭(泊) 2日

コース 名古屋駅(約25分)

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

名山開歩

大島・三原山(一般向き)

期日 11月28日(日) 日帰り

集合 前夜祭(泊) 2日

コース 名古屋駅(約25分)

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

東古津(バス) 東古津

幹一本尾山-熊野寺(一般向け)

費用 交通費各目
地図 2万5千円(京都東南部)
申込み ①前中 ②後

期日 12月11日(日) 日帰り
集合 朝明深谷駐車場8時30分
コース 朝明-根ノ平峠-上水島
谷-カッパガ平(定年会)
-猪子登山跡散歩-朝明

費用 交通費各目
申込み ①前中 ②後
期日 12月11日(日) 日帰り

集合 朝明深谷駐車場8時30分
コース 朝明-根ノ平峠-上水島
谷-カッパガ平(定年会)
-猪子登山跡散歩-朝明

費用 交通費各目
申込み ①前中 ②後
期日 12月11日(日) 日帰り

集合 朝明深谷駐車場8時30分
コース 朝明-根ノ平峠-上水島
谷-カッパガ平(定年会)
-猪子登山跡散歩-朝明

各日回りのメニューで牛をふり返りましょう。アミ・ナベは用意しますので焼き火料理でます。雨天中止

期日 12月12日(日) 日帰り
集合 JR長古原駅中央改札口
8時30分/J下柏原駅10時00分

コース 柏原駅-志保駅-トラバース峠-尾崎-清瀬山-北東尾崎-清瀬山-柏原(解散15時頃)

費用 約2000円(名古屋から) 遠方の方は持ち帰りまふ(使用可)

地図 2万5千円(関ヶ原)
申込み ①小出良春 ②朝倉利巳

期日 12月12日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口7時20分/J下近江八幡駅9時30分

コース 近江八幡駅(バス) 三上-山崎王-鳴谷池-鏡山-志保-ケート場-尾崎-尾崎駅(解散14時頃)

初冬のでき、初詣は凍ったか御湯の池と自然温泉山行(一般向け)

期日 12月13日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅9時20分/三波駅西野駅9時00分

コース 各集合駅(車) コグルミ谷登山口-カタクリ峠-阪池の谷-北浦-真の谷-弁北第一ヶ谷-コケルミ谷(解散)

費用 交通費各目
申込み ①三明男 ②海野孝彦

期日 12月13日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅新幹線出口口8時25分

コース 西明石駅(バス) 中国道美作インター(バス) 大寺-瓜ヶ城-上ヶ原(バス) 西明石駅(解散15時頃)

費用 約4500円(バス代等)
地図 2万5千円(日本版) 巻
申込み ①井上 保

美作・瓜ヶ城と湯温泉(一般向け)

期日 12月13日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅新幹線出口口8時25分

コース 西明石駅(バス) 中国道美作インター(バス) 大寺-瓜ヶ城-上ヶ原(バス) 西明石駅(解散15時頃)

費用 約4500円(バス代等)
地図 2万5千円(日本版) 巻
申込み ①井上 保

期日 12月15日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅9時00分(京都発8時20分)

コース 西明石駅-明徳寺-清和天皇陵-水尾-候津快取

費用 約3000円(大阪から)
地図 2万5千円(福田・朝雲)
申込み ①村田智哉

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 京都府時勢会バスターミナル(8時30分)

コース 出町驛(バス) 白梅橋-持原野-タラノ草水-至-城山-京尾峠-千束-一畑光前(解散)

費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ①村田智哉

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 京都府時勢会バスターミナル(8時30分)

コース 出町驛(バス) 白梅橋-持原野-タラノ草水-至-城山-京尾峠-千束-一畑光前(解散)

費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ①村田智哉

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 JR石山駅(バス) アルプス登山口-天神山登山口-城山-観音堂-尾崎-アルプス登山口(バス) 石山駅(解散15時頃)

費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ①村田智哉

幹一本尾山-熊野寺(一般向け)

費用 交通費各目
地図 2万5千円(京都東南部)
申込み ①前中 ②後

期日 12月11日(日) 日帰り
集合 朝明深谷駐車場8時30分
コース 朝明-根ノ平峠-上水島
谷-カッパガ平(定年会)
-猪子登山跡散歩-朝明

費用 交通費各目
申込み ①前中 ②後
期日 12月11日(日) 日帰り

集合 朝明深谷駐車場8時30分
コース 朝明-根ノ平峠-上水島
谷-カッパガ平(定年会)
-猪子登山跡散歩-朝明

費用 交通費各目
申込み ①前中 ②後
期日 12月11日(日) 日帰り

集合 朝明深谷駐車場8時30分
コース 朝明-根ノ平峠-上水島
谷-カッパガ平(定年会)
-猪子登山跡散歩-朝明

費用 約1000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ①山崎三

期日 12月12日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口7時20分/J下近江八幡駅9時30分

コース 近江八幡駅(バス) 三上-山崎王-鳴谷池-鏡山-志保-ケート場-尾崎-尾崎駅(解散14時頃)

費用 約2000円(名古屋から) 遠方の方は持ち帰りまふ(使用可)

地図 2万5千円(関ヶ原)
申込み ①小出良春 ②朝倉利巳

期日 12月12日(日) 日帰り
集合 JR長古原駅中央改札口8時30分/J下柏原駅10時00分

コース 柏原駅-志保駅-トラバース峠-尾崎-清瀬山-北東尾崎-清瀬山-柏原(解散15時頃)

費用 約2000円(名古屋から) 遠方の方は持ち帰りまふ(使用可)

各日回りのメニューで牛をふり返りましょう。アミ・ナベは用意しますので焼き火料理でます。雨天中止

期日 12月12日(日) 日帰り
集合 JR長古原駅中央改札口8時30分/J下柏原駅10時00分

コース 柏原駅-志保駅-トラバース峠-尾崎-清瀬山-北東尾崎-清瀬山-柏原(解散15時頃)

費用 約2000円(名古屋から) 遠方の方は持ち帰りまふ(使用可)

地図 2万5千円(関ヶ原)
申込み ①小出良春 ②朝倉利巳

期日 12月12日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口7時20分/J下近江八幡駅9時30分

コース 近江八幡駅(バス) 三上-山崎王-鳴谷池-鏡山-志保-ケート場-尾崎-尾崎駅(解散14時頃)

費用 約2000円(名古屋から) 遠方の方は持ち帰りまふ(使用可)

地図 2万5千円(関ヶ原)
申込み ①小出良春 ②朝倉利巳

期日 12月12日(日) 日帰り
集合 JR長古原駅中央改札口8時30分/J下柏原駅10時00分

コース 柏原駅-志保駅-トラバース峠-尾崎-清瀬山-北東尾崎-清瀬山-柏原(解散15時頃)

費用 約2000円(名古屋から) 遠方の方は持ち帰りまふ(使用可)

地図 2万5千円(関ヶ原)
申込み ①小出良春 ②朝倉利巳

期日 12月12日(日) 日帰り
集合 JR長古原駅中央改札口8時30分/J下柏原駅10時00分

コース 柏原駅-志保駅-トラバース峠-尾崎-清瀬山-北東尾崎-清瀬山-柏原(解散15時頃)

初冬のでき、初詣は凍ったか御湯の池と自然温泉山行(一般向け)

期日 12月13日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅9時20分/三波駅西野駅9時00分

コース 各集合駅(車) コグルミ谷登山口-カタクリ峠-阪池の谷-北浦-真の谷-弁北第一ヶ谷-コケルミ谷(解散)

費用 交通費各目
申込み ①三明男 ②海野孝彦

期日 12月13日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅新幹線出口口8時25分

コース 西明石駅(バス) 中国道美作インター(バス) 大寺-瓜ヶ城-上ヶ原(バス) 西明石駅(解散15時頃)

費用 約4500円(バス代等)
地図 2万5千円(日本版) 巻
申込み ①井上 保

期日 12月15日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅9時00分(京都発8時20分)

コース 西明石駅-明徳寺-清和天皇陵-水尾-候津快取

費用 約3000円(大阪から)
地図 2万5千円(福田・朝雲)
申込み ①村田智哉

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 京都府時勢会バスターミナル(8時30分)

コース 出町驛(バス) 白梅橋-持原野-タラノ草水-至-城山-京尾峠-千束-一畑光前(解散)

費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ①村田智哉

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 JR石山駅(バス) アルプス登山口-天神山登山口-城山-観音堂-尾崎-アルプス登山口(バス) 石山駅(解散15時頃)

費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ①村田智哉

美作・瓜ヶ城と湯温泉(一般向け)

期日 12月13日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅新幹線出口口8時25分

コース 西明石駅(バス) 中国道美作インター(バス) 大寺-瓜ヶ城-上ヶ原(バス) 西明石駅(解散15時頃)

費用 約4500円(バス代等)
地図 2万5千円(日本版) 巻
申込み ①井上 保

期日 12月15日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅9時00分(京都発8時20分)

コース 西明石駅-明徳寺-清和天皇陵-水尾-候津快取

費用 約3000円(大阪から)
地図 2万5千円(福田・朝雲)
申込み ①村田智哉

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 京都府時勢会バスターミナル(8時30分)

コース 出町驛(バス) 白梅橋-持原野-タラノ草水-至-城山-京尾峠-千束-一畑光前(解散)

費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ①村田智哉

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 JR石山駅(バス) アルプス登山口-天神山登山口-城山-観音堂-尾崎-アルプス登山口(バス) 石山駅(解散15時頃)

費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ①村田智哉

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 JR石山駅(バス) アルプス登山口-天神山登山口-城山-観音堂-尾崎-アルプス登山口(バス) 石山駅(解散15時頃)

費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ①村田智哉

期日 12月23日(日) 日帰り
集合 JR石山駅(バス) アルプス登山口-天神山登山口-城山-観音堂-尾崎-アルプス登山口(バス) 石山駅(解散15時頃)



山行報告
(7・8月)
新パッキングクラブ編

海々瀨・盛岡の道・永徳の道
(鈴鹿を歩く7)

7月4日(日) 晴れ
佐日小谷山頂集合8・50→広河原
9・30→延々高10・45→坂合11・
30(昼食)12・10→鬼坂12・35→
佐日小谷山頂12・50(車)もみじ
荘13・10→海蔵の滝・永徳の
滝13・40(車)和南橋14・
10→舟引の滝14・50(解散)
昨日までの豪雨もうそのように
晴れ、さわやかな歩道を歩いた。
佐日小谷は増水し膝上までの激流
が絶えなかった。水はすこい道方
で二段の瀑流が轟音を響かせてい
た。他の滝も水量が多く初夏の緑
のなかに涼風を吹き上げていた。
(参加者)永田敦治 山田三郎
和田四郎 河辺敦男 石田真山美
池田繁美 筒井清治 漆合ひろ子
武藤重子 伊藤久男 (計11名)
◎近野 明 (計11名)

7月4日(日) 曇り
近野明・伊藤久男・45→50(バス)
杉原10・30→55→林道分岐11・10
→11(登山道)12・15→20(登山道)12・
30→12(登山道)13・40(登山道)13・
00→14(登山道)14・30→15(登山道)15・
25→16(バス)一部タクシー)名
張16・20(解散)
薄暗い杉林の急登をジグザグ
に登り、ササをわき分けて山頂に
着いた。見えるはずの古光山・俱
利伽山・赤見山は雲に雨雲のカー
テンのなかだった。転がるような
急坂を下した。神木には色とりど
りのアシサイが咲き誇っていた。
(参加者)原寛子 木村豊
川中保 三井孝一 廣田邦
川内代 片山三博 山田真子
用上女史 関川富雄 高田眞男
本間 隆 徳田明子 山尾美智子
村上春代 森 昌好 辻 嘉二郎
松江明子 木村光江 村田はる江
黒河内東洋明 入江武史
国松義雄 中村鶴香 吉田ソノ子
森 明代 金森節子 森 美奈子
朝倉利巳 小林 隆 阪本孝子
原 文子 美村孝治 森美智子

7月8日(木) 15(雨)(8日間)
(8日)関西空港14・00→リナー
リッヒ空港17・30→18・30(バス)
オーバークルクル23・20(ホテル
泊)
(9日)ホテル9・50(リフト二
本)ホーニムート10・40→57→水
河分岐11・20→シェンウイス
小屋12・30(昼食)13・30→リフ
トのりば14・15→25→ホッホグ
ル分岐15・30→45→ホテル16・
35(泊)
(10日)ホテル8・35(バス)リ
ヒェンシュタイン11・45(昼食)
13・40(バス)マインフェルト14・
10→ハイジ博物館14・40→50→マ
インフェルト駅前15・47(バス)
ダボス16・55(ホテル泊)
(11日)ホテル8・55(バス)デ
ルボーゲン9・30→40→スケル
ツェル10・50→11・00→大谷分岐13・
25(昼食)13・00→ヘルティンク
峠道分岐14・45→谷道合流点15・
20→30→ケッシー小屋16・20(泊)

(12日)ケッシー小屋8・00→
ダテクラ9・05→15→シャント9・
50→10・00→ワールダバント11・
25→40→ベルギマン12・16(昼食)
13・30(バス)ダボス14・30(ホ
テル泊)
(13日)ホテル8・30(バス)ダ
ボスプラッック8・40→9・02
(水戸特急)アンデルマッ13・
30(バス)チャーリッヒ15・30
(ホテル)15・30(ホテル泊)
(14日)ホテル9・00(バス)市
内見物)チャーリッヒ空港11・30
→17・00(事故のため14・30の出
発が延期)関西空港(15日)11・
50(解散)
大抵はイマイチだったが、山を
歩いている間に雨が止み、まずま
ずの悪酔いを止めた。スイスの山
小屋は二段ベッドで余白があり、
夕食はスープ・サラダ・パン・ス
テートのコース料理。水戸特急
の旅もすばらしかった。
(参加者)家人敏光 家人親子
上田平三 上田正子 高月ミツ子
隣 嘉子 尾川義江 北川田鶴子
今西光男 杉本 高 田中二恵子
前田孝子 白田孝子 長瀬保江
藤原敏子 大西隆郎 深田登之
田中まゆ子 ◎録元一彦(計19名)

一帯・矢野山(二浦の山岳)
7月10日(日) 晴れ
①シラス谷山頂 時雨山頂合8・
35(車)矢野山中宮公園登山口9・
20→大石山頂登山口10・35→矢野山
10・55(昼食)11・40→大石山頂12・
20→山古公園登山口12・30(解散)
登りも下りも急な山頂の降
雨で一組も足元の石が濡れない。
キイチゴの甘みと頂上の景色が疲
れを忘れさせてくれた。
(参加者)森 晴代 河原良尚
小塚幸男 伊藤久男 ◎新町幸夫
◎近野 明 (計11名)

7月10日(日) 晴れ
大峰・笠指山
①近野山頂を登る(第1回)
(10日)近野大和八木駅登山口集合
22・30→40(バス)426号
線大野分岐先3・40→萬川トンネ
ル入口5・15(朝食)5・45→上
萬川6・00→林道終点登山口6・
30→萬川辻9・30→笠指山頂・06
→10→萬川辻10・30(昼食)11・
30→登山口14・00→大野分岐先16・
00(バス)八木駅13・30(解散)
大野バスが登山口の上萬川まで
入らず、426号線の大半分岐の
少い光がら歩いた。登山口からで
も往復1時間かかるのに、それに
プラスして車道を往復1時間(計
12時間)でヘトヘトになった。下
山後の道原にも疲れた。早くて
足が痛くなった登山だった。
(参加者)吉原孝次 高岡眞男
保田 王 瓜原利明 佐藤孝二

7月11日(日) 晴れ
①R関ヶ原登山合8・20→二峰線

7月16日(土) 晴れ
①16日 関西空港10・00→新十津
21・5→22・10(バス)札幌です

鈴鹿・常陸諸岳から仙々岳
7月10日(日) 晴れ
小枝登山の家8・20(車)大石山
8・40(登山道)→カワラコバ9・
30→仏峠10・00→高橋登山口11・00
(昼食)12・30→仙ヶ岳→仙ノ石
14・00→30→仙崎尾根15・00→30
→仙ヶ谷林道16・00→大石山頂16・
30(バス)山の家17・00(解散)
仏峠への山登りは涼しい風が吹
ける。異いなかの景色も大きな
スイカで精力回復だ。持ち上げた
人、差し入れの人にありがとう。
(参加者)北村 正 北村 相
南 寛子 山形 明 後藤隆幸

高野秀彦 永田敦治 漆合ひろ子
保田 博 明子雅子 的場たか子
今高民代 藤原眞男 小田妙子
◎伊藤久男 ◎時高眞雄
◎筒井清治 (計17名)

川中保 加藤元彦 生友はるみ
北川明子 岩田育士 熊田千夜子
原 文子 水村正弘 木村千代子
山科基彦 三井純一 吉福 浩
飯田孝子 森 昌好 大野俊子
飯田孝子 本間 隆 亀本廣治
樽方恵子 山下恒三 阪口千鶴子
藤本秀雄 藤原光一 宮村孝次郎
藤田三枝 藤野野郎 生野三代栄
中川鶴香 入江武史 原 幸子
森 昌好 徳田明子 岡 彰
秋田眞博 原 光一 川本真代子
会津眞子 眞田久子 安田文美江
宮内孝美 眞比呂美 多田眞一
多田久子 美村孝治 美村三枝
武部 剛 高橋孝治 高橋由紀子
神木 伸 森 晴代 中尾美智子
福 久子 堤 貞男 高沢美男
藤尾一正 三好 旭 長沢佑美
伊藤眞男 山本早 森 晴代
上田久子 木下照子 杉原孝子
山本孝子 松田孝子 村田はる江
◎安藤正隆 ◎村田眞愛(計19名)
御宿の池と自然探査山行④
(バイクのキはははは)
ナンテンの花はははは)
7月11日(日) 晴れ
JR関ヶ原登山合8・20→二峰線

道野野尻登山合9・00(車)コッ
ルミ谷登山口9・30→長命水10・
10→カタクリ峠10・40→奥の湯12・
10(昼食)12・55→実池13・05→
ホタン岩15・15→奥の平南峰13・
35→丸山14・10→幻池14・45→カ
タクリ峠15・15→長命水16・50→
コッルミ谷登山口16・30(解散)
晴天続きでヤマヒルも出ず、パ
イケンウもヨシで百本余りが見
られ、ナンテンの花も少しあり
ました。池ではヤマガエルがら
6で、蛙になったばかりの個体
がたかさん見られました。
(参加者)近江秀彦 中井ひろみ
布野清美 下村啓子 堀木美奈子
田島守雄 西尾敦貴 木寺眞子
小林 隆 藤原眞博 藤澤波子
西村文男 池田繁美 柳 照司
水谷 進 水谷純子 藤 美奈子
和田四郎 眞田明子 石田真由美
◎藤原秀彦 ◎山田眞男(計19名)
北海道の山々
十勝岳・釧路岳・霧石岳
7月16日(土) 晴れ
前後発5泊4日
①16日 関西空港10・00→新十津
21・5→22・10(バス)札幌です

き野23・30(泊)
17日 曇りのち晴れ 前5・46
(バス) 十勝岳温泉山口8・37
58―安政火口分岐10・17―三股
山12・00―大樽峠13・46―57
10時14・58―15・25―16時由
道標小笠原17・00―10―赤塚岳分岐
17・16―安政分岐17・56―18・10
(バス) 晴れ 曇る 温泉 40

(18日 晴れ 前7・50(バス)
美濃原9・44―10・03(バス) 雄
阿婆湯温泉登山道11・11―37―二台
日12・25―13・13・25―14・00
―14時14・17―離阿婆湯温泉
―15・25(往路) 離阿婆湯温泉
―17・22―35(バス) 雄阿婆湯温泉
30(泊)
(19日 晴れ 前8・13(バス)
阿婆湯温泉登山道9・05―11・10(バス)
阿婆湯温泉登山道13・34―14・17(バス)
小清水原生花園14・28―58(バス)
知床五湖―一湖温泉登山道16・20―52
(バス) 前17・55(泊)
(20日 曇りのち晴れ) 前4・50
(バス) 岩間別荘5・45―52―木下
小屋5・52―6・10―岩間別荘5・
58―8・10―梅原平8・18―銀帯
水9・12―27―離阿婆湯温泉
―32―離阿婆湯温泉13・32―離
阿婆湯温泉14・45―12・05(往路) 岩間
別荘11・45―12・05(往路) 岩間

別15・28―40(バス) 女満別空港
17・37―18・45―阿婆湯温泉11・15
(解散)
十勝岳と離阿婆湯は今の格闘い
とく道標を上げ、火山活動が活発
だ。十勝岳は十勝温泉から登山台
への線路と、離阿婆湯と阿婆湯
はそれぞれ離阿婆湯温泉と阿婆湯
温泉からの線路とした。

(参加者) 金森道子 光川三美子
三浦聖幸 近江孝子 宮川孝次郎
北河 正 北村 耕 夏山香子
若松 寛 若松朝子 佐田次男
北川三枝 高木鎮夫 湯浅次男
渡藤 敏 那久保由起子
副島知子 清水幸子 小林鶴寿子
藤川英生 大塚定古 関澤美智子
内田豊子 橋本律子 岡川智恵子
原田 芳 大杉 伸 金子多恵子
坂井朝子 永井桐生 植田多恵美
兵藤雄夫 兵藤利江 高崎孝夫
日野勇夫 小森朝子 明田慶彦
沼田行行 後藤朝子 佐藤圭宏
廣島秀也 荒木 基 藤原久美子
廣島の多 飯田敏子 伊東二智子
伊東中雄 内田恵子 〇平田和子
須賀繁 〇多田礼子 〇藤川せつ子
森 健 〇岩田 順 〇初次朝男
〇伊藤田雄雄 〇坂田俊司
(計7名)

北アルプス
自衛隊 野口雄吾 水嶋哲
藤野岳 (自然観察山行会)
7月17日(日) 20日(火) 〇青森市
〇リバーの都合で中止しました。

元郷谷(鈴鹿を歩く)
7月17日(日) 曇り
元郷谷林道入口手前広場集合8・
30(車) 箱根谷松尾分岐広場8・
40―元郷谷9・10―大滝9・40―
伏谷山合口05―伏谷左衛門合口11・
00―飯沼11・25―大岩11・45(昼
食) 12・30―伏谷13・00―宮指路
岳13・30―猪俣谷林道14・05―元
郷谷林道入口広場15・20(解散)
降水確立80%でも名々の参加が
あった。雨も上がり沢歩きは困難
味を減した。大岩でのテラスで
晴雲を羨しみ、予定外の宮指路岳
にも登ることができた。
(参加者) 桑井幸生 石田眞虎夫
和田四郎 渡台ひる子
伊藤喜久男 〇野野 明 〇多
北山・善正山から天ヶ森
(木崎ハイク58)
7月22日(日) 晴れ
JR東田駅集合8・40―44(バス)
平9・15―25―支谷―寺山11・

40(昼食) 12・20―善正山―京都
線道標村14・10―三谷峠14・50―
15・00―天ヶ森15・50―16・05―
小出石17・20―40(バス) 解散
寺谷登山口の木橋が流出してい
たため、足場まで高れてのステー
トとなったが、難関はかなわらな
い。安全コースの誘導ができた。三谷
峠から天ヶ森への線路中は道下に
広がる鈴鹿川の眺望を満喫した。
(参加者) 堀尾吉雄 竹島洋輝
馬淵朝男 西野幸夫 小林 隆
中村英雄 天岡 茂 秋山豊彦
松岡雅子 園松義雄 岡山繁三
浦上 明 大塚光男 〇戸根 茂
〇前中 毅 (計16名)

新秋・豊谷山
7月25日(日) 晴れ
JR東田駅集合10・00―05(電車)
三方峠10・30―05―三方石壁11・
05―15―第一・二・三展望台12・
05(昼食) 12・35―窪地13・40―
窪谷山14・20―35―第三展望台
15・45―55―離阿婆湯温泉16・00―林
道16・10―三方石壁16・20―三
方峠16・35―55(電車) 東田駅17・
27(解散)

第三展望台からも山道のアップタ
ウンに七名がオフアップ。絵のよ
うな雄嶺道や展望台から二万五
湖の全景を眺めることができた。予
定より一時間遅れて解散した。

(参加者) 中尾英治
(参加者) 二階堂祥子 高橋信夫
区藤隆雄 三上伸夫 本間 隆
石原倫子 三宅 明 野々山 寛
荒井智子 白田世子 藤浦朝男
清水 保 北川明子 岡田三恵子
北川直惟 藤澤勝子 田中三恵子
藤 隆代 朝倉利巳 小橋まゆみ
木村太郎 市野博文 井川三恵子
中尾博子 則智保夫 鈴木美代子
須本文雄 美村孝治 藤原敦子
原 文子 飯田由孝子
中原美穂子 〇中尾英治
〇小出英春 (計34名)

かったようだ。入湯の後、山の話
で楽しく過ごした。
(参加者) 眞田公子 秋田福郎
山科邦彦 小松博子 石田豊美
蓮井洋子 川中 保 堅田美幸子
宮下淳一 船橋妙子 茂田芳夫
船橋利明 船橋まゆみ
〇井上 保 (計14名)

比良・奥の深き谷
(平日かれないハイク15)
7月27日(火) 曇り
出町温泉集合7・35―45(バス)
坊町8・50―9・05―牛ノ平10・
00―05―奥の深き谷山合口10・20
―11時12・16(昼食) 12・55
―八雲ヶ原13・25―40―ロープウ
ェ―イ山上駅13・55―14・00―タケ道
―イ山谷口15・40―16・05(バス)
比良駅16・15(解散)
九州西の全面の比羅で一日中登
り空で、強い日差しもなく動かし
た。かえって奥の深き谷の林や
八雲ヶ原での木立や温泉が霧にか
すみ、幻想的な風景を築きむこ
ができた。
(参加者) 木村 雄 法尻 正
山元 武 中村英雄 小林伊予子
松山かつ 本間孝子 久世美代子
大塚英雄 園松義雄 辻 真一郎

四田豊治 榎木金三 邊手恵子
若木登一 久村 元 青木一雄
〇寺井恒夫 〇川上久盛(計19名)

ハケ岳・標立山
7月31日(日) 8月1日(月) 前3日
31日 晴れ JR大森駅集合8・
30(バス) 標立山・グリーンロッ
ジ14・30(夜)
(1日 晴れ) グリーンロッジ4・
45―飯沼谷5・10(朝食) 5・55
―海原温泉5・15―25―青平川
7・00―10―新登山8・30―9・
00―青年小屋9・30―40―御平川
10・30―40―飯沼谷11・40(バス)
―標立(入浴・昼食) 14・50(バス)
―青平川16・50(解散)
フワフワとした雲の上におさま
りの富士、北・南・中央アルプス
の山麓、奥秩父と列記すれば、い
つも同じ北山田原屋のようになっ
てしまいが、やはり個性の違う編
織らしい明るい開放感が十分味わ
えた。早立ちも好評だった。ので今
後も計画したい。名神峠のため
にバス解散とした。
(参加者) 三浦聖幸 宮川孝子
安部正勝 堀尾吉雄 若松 寛
若松朝子 西野幸夫 古田英典
入江武史 今村 真 岡田美穂子

小田博子 船橋利明 船橋まゆみ
石原倫子 加藤隆彦 高橋妙子
藤本紀子 寺田久広 金田千恵子
堀 久子 阪口豊司 三上伸夫
岡 菊江 岡 信弘 石田眞由美
古川真司 天岡 茂 秋山豊彦
岡 彰 小澤明美 本村由美子
今井真司 中川光昭 橋本祥子
〇岡田 昇 〇美穂朝子(計36名)

静岡・豊川山
8月1日(日) 晴れ
JR名古屋駅集合7・40―48(電
車) 興隆院10・47―11・00(タク
シー) 登山口11・40―離阿婆湯12・
00―05―離阿婆湯12・45―文蔵峠13・
00(昼食) 13・30―若山14・10―
茶畑14・50―牛妻坂下15・15―28
(バス) 船橋駅16・00―05(電車)
名古屋駅16・50(解散)
東海市山頂手前で伊豆半島や駿
河湾。そして富士山がはつきり見
えた。ここには野生とは思えないほ
ど大きなヤマユリが咲いていた。
(参加者) 眞田明子 岡本美幸子
藤 隆代 則智保夫 飯田由孝子
藤原 邦 小橋まゆみ
〇中原美穂子 〇小出英春 (計6名)

鈴鹿・鎌ヶ岳と入道ヶ岳

(近畿百名山を巻く第5回)

8月1日(日) 曇り時々雨

近畿百名山の山頂観望台10・00〜15
(バス) 武平峠駐車場10・40〜45
一武平峠11・00〜鎌ヶ岳11・50
(昼食) 12・20〜水沢岳14・10〜
20〜水沢岳14・40〜近畿百名山頂観望台16・
00〜10〜高坂口17・10(バス) J
R四日市駅18・10(近畿四日市駅
18・15(解散))

小市橋様のガスに巻かれ、展望
が一切ない。鎌ヶ岳を水沢岳まで
歩いたが、ここまで時間がかかり
すぎたので水沢峠から宮原峠へ下
山した。入道ヶ岳は再行します。
(参加者) 保田 正 木村正弘
山科利彦 岩山吉士 木村千代子
三井敏一 佐藤孝一 前川和佳子
熊木雄雄 人見正信 西田美津子
岡山直規 上田久子 小林伊予子
秋田福助 安田貞助 鈴木依彦
森 瑞代 原 光一 渡辺透郎
木下昭子 赤井鉄治 和田直樹
黒田昭子 結方由子 岡松義雄
多賀久子 蓮井洋子 宮村孝次郎
三野 旭 後藤孝幸 田中禮子
藤原 雄 ○編原計雄 (計25名)

御池谷の津と自然探検山行

(エネマダラの資料は見られるか)

8月8日(日) 曇り

JR関ヶ原駅8・20(三塚鉄道西
野尻駅各集合9・00(車)コケル
ミ谷登山口9・30(長命水10・05
一カタクリ峠10・30(奥の谷・丸
山分岐10・00〜丸山10・30〜丸池
12・05(昼食)12・45〜池池14・45
奥の池前広場13・45〜幻池14・45
一カタクリ峠15・00(長命水15・
30〜コケルミ谷登山口16・15(解
散))

雨は降らず爽しくいられたが、
お陰でヤマヒルが多く出て五、六
人の被害者があった。日が照らな
かったため、イケマの花は咲いて
いたものの、アヤメマダラは飛は
ず諦めかけていたが、最後のカタ
クリ峠で一頭だけだったが後述の舞が
見られた。
(参加者) 栗本俊夫 石濱節子
三井敏一 小原末吉 近江孝子
本間 達 今井明子 田中禮子
岩下祐夫 真田明子 伊藤孝子
池田繁美 藤堂國男 石田真由美
和田四郎 ○高田秀彦 (計17名)

北アルプスの表銀座コースとは

言うものの、岩壁・絶壁・ハシム
と気の抜けないコースだ。
(参加者) 佐藤誠治 鈴木美代子
馬籠正男 今岡良代 伊藤則男
二浦弘孝 森 瑞代 赤本泰之
高松孝子 佐藤孝一 奈良孝子
中津川良太郎 宮下孝幸
加藤孝子 山口陽子 塚田二郎
三輪信雄 森山洋一 児井孝子
佐藤孝夫 玉井和子 吉田英一郎
植沢孝子 中根敏彦 角田孝一
藤内雄男 藤原和子 山辺新一
山本 明 飯野均子 金子孝雄
首藤昇博 岡本 君○糸田口和子
高井光三 三野俊哉○津川さつき
森 健一○多田礼子○伊藤田義雄
○秋増健司 (計21名)

苗掛山と会津駒ヶ岳

8月12日(日)夜〜16日(日)

前夜8時4日
12日(夜) 京都駅八条西口集合21・
00(バス) 夜行バス
13日(朝) (バス) 越後湯沢
駅8・20(昼食) 8・30(夕下し)
越川和田小集り・00〜30(下し)
小松原分岐10・10〜神楽坂10・25
一苗掛水10・45〜11・25(苗掛山

須谷川(鈴鹿を歩く5)

8月6日(日) 曇り時々晴れ

永願寺町ひろせ酒場集合9・00
一須谷川入口9・15(岩ノ洞川11・
30(昼食)12・10(湯原登山口13・
30 四道421号線15・10〜ひろ
せ酒場15・25(解散))

深山山谷の沢は地水しており、
下半身浸かったり、全身に飛沫や
シャワーを浴びて歩いた。「岩の
洞門」に入ると真つ暗な中に池が
ありその横を巻く。今回の天妙ま
は一番すばらしいものだった。
(参加者) 後藤孝幸 山田昌三
赤井鉄治 河辺敏男 武藤田孝一
筒井亮治 小林 実 伊藤孝久男
○高野 明 (計9名)

鈴鹿・神崎川溪谷

8月11日(日) 雨

朝明深谷草野駐車場集合8・30
(車) 朝明も・45〜ハト峠峠9・
30(一宮谷谷出合10・50〜11・00
谷原谷出合10・30(大狗の那り場
14・30(昼食)14・00〜ヒロ沢出
合14・40〜ハト峠峠15・20〜30
朝明16・30(解散))
雨天で増水が予想されたが出立
した。神崎川は激流の激流だった
が、できるだけ水際を通す。天狗

の餅り場であつくりりした。

(参加者) 山形 明 高橋由美子
高野英彦 ○水戸鉄治
○筒井亮治 (計5名)

木曾・木曾見合

8月12日(日) 晴れ

JR名古屋駅集合8・30(40(電
車)木曾(電)12(昼食)11・
40(タクシー)キビオ峠12・00
木曾見合13・00〜10(物の湯14・
30(入浴・沐浴)15・00(タクシー)
木曾見合15・30(電車)名古屋
駅18・20(解散))
木曾見合では真正面に御嶽の八
合日までと木曾谷を一望した。オ
ニエリ・エウスゲ・マツムシツウ
などの花を採り込んだ。タクシー利
用で帰路は朝の湯で汗が流れた。
(参加者) 木村 豊 光川(美子
伊藤則男 杉本 真 伊藤孝子
中村博明 奥山繁三 飯田由美子
石濱節子 ○廣島 邦
○小山良等 (計11名)

北アルプスの山々

8月14日(日)夜〜15日(日)

前夜8時泊と日
8月14日(日) 曇り時々雨
JR山形駅集合8・55(タクシー)
若松朝子 夏山孝子 猪狩孝枝子
岡本春代 中井孝子 秋田福助
佐田次男 猪野東彦 三井敏一
森川恒之 吉田 清 小林 珠
武田正司 小川晴美 岩坂孝子
飯原節子 武田川巴 井林孝子
藤本紀子 小田陽子 中村野香
○安斎正勝 ○村田智哉(合計25名)

鈴鹿・高知山から非道ヶ原山

8月14日(日) 曇り時々雨

JR山形駅集合8・55(タクシー)
大河原行近9・18(鈴鹿味登山口
9・38〜45(ナイフエッジ10・40
一高知山11・20〜25(滝下山口・30
一坂下峠12・00(昼食)12・30
一非道ヶ原山14・10(中部の湖15・
35(参詣)16・45(深山口15・28
一35(バス)甲斐川16・00(解散))
タクシーがトンネルの登山口より
りかなり先へ行ったので20分のロ
スタイム。高知山は360度の環
視だったが、午後から雨降るとな
り非道ヶ原山では空気が下。下
山の端はすでに林道と車道を行々
(約1.5km)と歩いて深山口の
バス停に着いた。(参加者) 蓮井洋

鈴鹿・高知山から非道ヶ原山

8月14日(日) 曇り時々雨

JR山形駅集合8・55(タクシー)
大河原行近9・18(鈴鹿味登山口
9・38〜45(ナイフエッジ10・40
一高知山11・20〜25(滝下山口・30
一坂下峠12・00(昼食)12・30
一非道ヶ原山14・10(中部の湖15・
35(参詣)16・45(深山口15・28
一35(バス)甲斐川16・00(解散))
タクシーがトンネルの登山口より
りかなり先へ行ったので20分のロ
スタイム。高知山は360度の環
視だったが、午後から雨降るとな
り非道ヶ原山では空気が下。下
山の端はすでに林道と車道を行々
(約1.5km)と歩いて深山口の
バス停に着いた。(参加者) 蓮井洋

